IBM®

Palm Top PC 110

オーナーズ・ガイド

IBM

Palm Top PC 110

オーナーズ・ガイド

この装置は、第二種情報装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しております。しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に隣接してご使用になると、受信障害のげ原因となることがあります。本書に従って正しい取り扱いをして下さい。

本書および本製品をお使いになる前に、『特記事項』（⇒A-48ページ）に記載されている説明をお読みください。

第1版　1995年9月
資料番号　GA88-3182-00
このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。また、本文中の画面は最終版以前に作成されているため、最終製品の画面とは必ずしも一致しない場合があります。

はじめに

このたびは、IBM* Palm Top PC*110をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書では、次のことを説明しています。

- 取り扱い上の注意事項
- 本製品の基本的な使い方
- Personaware*（パーソナウェア）の使い方
- オプションやPersonawareの活用のしかた
- 問題が起こったときの対処のしかた

本書では、IBM Palm Top PC 110のことをPalm Top PCと呼びます。
Palm Top PCを正しくお使いいただくため、本書を必ずお読みください。

> **⚠ 注意**
>
> ivページの「安全に正しくお使いいただくために」を必ずお読みください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書には、本製品を安全に正しくお使いいただくために安全表示が記述されています。この取扱説明書を保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への安全表示については、製品を正しくお使いいただいて、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	**この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。**
⚠ 注意	**この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

危険／注意ラベルの表示について

この製品の外部または内部に「危険」または「注意」が表示されている場合は、安全上に関しての、「危険」または「注意」の表示です。必ず表示の指示に従ってください。
この取扱説明書に記述されている以外に、「危険」または「注意」ラベルによる表示がある場合は（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

⚠ 危険

●本製品を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。

●本製品は、付属のACアダプター以外は使用しないでください。また付属のACアダプターを他の機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

⚠ 危険

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。

●コンピューターの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。

●万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると火災、感電のおそれがあります。すぐに電源を切り、ACアダプターをACコンセントから必ず抜き、バッテリー・パックを外してから（端子をショートさせないように注意してください）、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

バッテリー・パックについて

本製品は、リチウムイオン電池を使用しているバッテリー・パックを電源として使用します。バッテリー・パックの交換方法や取り扱いを誤ると、発熱、発火、破裂のおそれがあります。

⚠ 危険

●Palm Top PC本体または指定の充電条件に適合している専用充電器以外で充電しないでください。また、専用充電器の取扱説明書をお読みください。

●本バッテリー・パックはPalm Top PC 110専用です。他の製品に使用しないでください。また、Palm Top PC 110には他のバッテリー・パックは使用しないでください。交換用バッテリー・パックの購入についてはお買い求めの販売店または弊社の営業担当までお問い合わせください。

●バッテリー・パックを50℃以上になる火やストーブのそばなどの高温の場所や高温になる車の中や炎天下などで使用、充電または放置しないでください。

●火の中に投入したり、加熱しないでください。

●＋と－端子をショートさせないでください。また、金属性のネックレスなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。オプション（別売）のバッテリー・パックに同梱されているソフトケースをお使いください。

●変型させたり、分解または改造したりしないでください。

●電池からもれた液が目に入った場合、障害を起こすおそれがあります。きれいな水で洗い、すぐに医師の治療を受けてください。また、皮膚に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。

●地方自治体の条例または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。端子にテープなどを貼り、絶縁して廃棄してください。

⚠ 注意

●落下など強い衝撃を与えないでください。

●水にぬらさないでください。

●幼児の手の届かないところに置いてください。

リチウム電池（ボタン電池）について

本製品は、本体の専用ホルダーでリチウム電池（以下、ボタン電池）を使用しています。ボタン電池の交換方法や取り扱いを誤ると発熱、発火、破裂のおそれがあります。

⚠ 危険

●電池の交換には、市販されているリチウム電池CR2016（ボタン電池）を使用してください。交換用電池に取り扱い上の注意や取り付けの指示が書かれている場合は、それに従ってください。

●電池は、幼児の手の届かない所に置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだときは、直ちに医師に相談してください。

●以下の行為は絶対にしないでください。

－水にぬらすこと

－100℃以上の過熱や焼却

－分解や充電

－ショート

●電池を廃棄する場合および保存する場合には、テープなどで絶縁してください。他の金属や電池とまじると、発火、破裂の原因となります。

●電池は、地方自治体の条例または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

ニッケル水素電池について

本製品は、本体の中に長方形（幅約15mm、長さ約30mm、厚さ約4mm）のニッケル水素電池を使用しています。この電池は、専門の担当員によってのみ交換されます。電池の交換については、お買い求めの販売店またはIBMサービス・センターまでお問い合わせください。電池の取り扱いを誤ると発熱、発火、破裂のおそれがあります。

⚠ 危険

●電池は幼児の手の届かない所に置いてください。

●以下の行為は絶対にしないでください。

－水にぬらすこと

－100℃以上の過熱や焼却

－分解や充電

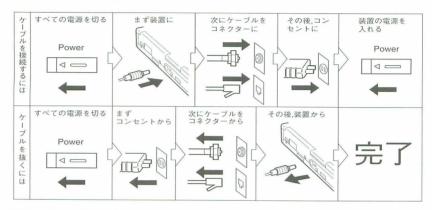
－ショート

●万一、電池内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。また、皮膚に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

●電池を廃棄する場合および保存する場合には、テープなどで絶縁してください。他の金属や電池とまじると、発火、破裂の原因となります。

●電池は、地方自治体の条例または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

●ケーブル類の取り付け、取り外し順序について

電源コード、電話ケーブル、通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。各装置を接続するときは、下記の手順でケーブルの接続、取り外しを行ってください。

電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの抜き差しはしないでください。

重要

Palm Top PCの電源スイッチとACアダプターの操作方法については、1-10ページ、1-12ページをお読みください。

重要

その他の機器の電源スイッチと電源コードの操作方法については、その機器に付属のマニュアルをお読みください。

⚠ 注意

●付属のACアダプターは国内の100V電源専用です。海外では使用できません。

●ACアダプターを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。必ずACアダプター本体を持って抜いてください。

●Palm Top PCの電話機能は、公衆回線／アナログPBX構内回線（2線式）でご使用できます。絶対にデジタルPBX構内回線には接続しないでくださ

い。デジタル回線に接続すると、回線に障害を与えたり、火災、感電のおそれがあります。（Palm Top PC自身も機能が作動しないばかりか、故障の原因となることがあります。）多くのホテルやオフィスではデジタル回線が使用されていることがありますので、そのような場所では、ご使用（接続）の前にご確認ください。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。

●連休などで長期間使わないときは、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

●液晶ディスプレイ（LCD）内の蛍光灯の中には水銀が含まれています。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。液晶ディスプレイの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

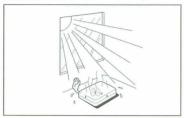
●液晶ディスプレイはガラスで作られており、コンピューターを乱暴に扱ったり落としたりすると、壊れることがあります。液晶ディスプレイが壊れて内部の液体が眼に入ったり、手についたときは、すぐに流水で15分以上洗ってください。何らかの症状が残る場合は、医師の診断を受けてください。

ご使用にあたってのお願い

直射日光が当たるところに置かないで！

極端に高温または低温の場所は、避けてご使用ください。電源を切った状態での温度条件は、5℃～52℃の範囲です。（バッテリー・パックが取り付けられているときは50℃）
車の中や直射日光の当たる窓際は、たいへん高温になることがあります。

車の中に放置しないで！

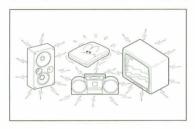
窓際も気をつけて！

急に温かいところへ持ち込まないで！

Palm Top PCは、湿気が苦手です。湿気の多いところには持ち込まないでください。冬場、寒い戸外から温かい室内に急に持ち込むと、結露（空気中の水分が付くこと）して故障の原因となることがあります。万一、結露した場合はしばらく放置して、露が完全に乾くのを待ってお使いください。

温かい室内への持ち込みには気をつけて！

電子機器の近くでは使わないで！

Palm Top PCは微弱な電気信号を扱っているため、電磁気の影響を受ける場合があります。テレビやスピーカーの近くに置いたり、使用したりしないでください。

テレビやスピーカーの近くには置かないで！

カバーを強く押さえないで！

カバーの中には、液晶ディスプレイ用の蛍光管があります。部分的に強く力を加えると、この蛍光管が破損することがあります。

手で強く押さえないで！

ひじをつかないで！

カバーを持って移動しないで！

Palm Top PCのカバー（液晶ディスプレイ）を開けた状態で、カバー部分を持ちながら移動はしないでください。カバーを開けた状態で持ち運ぶ場合は、ディスプレイ側ではなく、キーボードやバッテリーが付いている部分を持ってください。

こんな点にも気をつけて！

ショックを与えないで！

●Palm Top PCを落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。特に、PCカード（PCMCIA）ハードディスク（モデルによっては別売）をお使いの場合は、慎重に扱ってください。

●ACアダプター、PCカード・ハードディスク（モデルによっては別売）や外部ディスケット・ドライブ（モデルによっては別売）を落としたり、ぶつけるなどで、ショックを与えないでください。

●持ち運ぶときは、バッグに入れるなどして、ショックからまもるようにしてください。

●ほこりや振動、静電気が多く発生するところでの使用、保管は避けてください。

●ベンジンやシンナーなどをつけた布ではふかないでください。変形や変色の原因になります（お手入れのしかた⇒A-2ページ）。

●液晶ディスプレイを長時間使用していると、表示部分に白い斑点が現れることがあります。このような場合、いったんサスペンドをしてからレジュームすると正常に戻ります。

●画面のクリーニングは、刷毛などでちりやほこりを取り除いた後、市販のレンズ・クリーナーを使って汚れを拭きとってください。

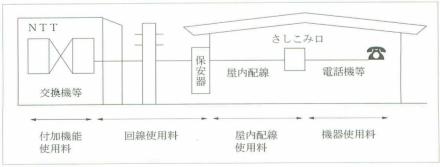
NTTへのご連絡のお願い

ご使用にあたってのお願い

本品をご使用にあたって，ＮＴＴのレンタル電話機が不要となる場合は，ＮＴＴへご連絡下さい。
ご連絡いただいた日をもって，**「機器使用料」は不要**となります。
詳しくは，**局番なしの１１６番（無料）**へお問い合わせ下さい。

［電話料金の内訳］

①回線使用料	ご契約者名簿等により住宅用と事務用に区分され，回線使用料が異なります。
②屋内配線使用料	保安器から屋内の電話機のさしこみ口までの屋内配線をＮＴＴからレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
③機器使用料	**ＮＴＴの電話機などをレンタルでご利用いただいている場合の料金です。**
④付加機能使用料	プッシュ回線，キャッチホン，クレジット通話などをご利用いただいている場合の付加機能の使用料金です。

［ＮＴＴの基本料などのしくみ］

本書の構成

まず始めに、次の項を必ずお読みください。
1.「安全に正しくお使いいただくために」（⇒ivページ）
2.「ご使用にあたってのお願い」（⇒xページ）

第1章「**Basic**」ではPalm Top PCの基本的な使い方と機能について説明していますので必ずお読みください。
その他の章は、お客様の目的に応じて活用してください。
以下は各章の概要です。

章	名称	概要
第1章	**Basic** **ベーシック**	Palm Top PCを本格的に使い始める前に知っておいていただきたいことをまとめています。必ずお読みください。
第2章	**Concept** **コンセプト**	Palm Top PCの基本的な使い方に対する提案について概説しています。
第3章	**Application** **アプリケーション**	Personawareなど、本体付属のプログラムの使い方を詳しく説明しています。
第4章	**Advanced** **アドバンスト**	オプションの取り付けとPersonawareの活用のしかたなどを説明しています。
第5章	**Reference** **リファレンス**	Personawareの各機能を機能別に参照できます。
第6章	**Troubleshooting** **トラブルシューティング**	トラブルが起きたときの対処のしかたを説明しています。
付録	**Appendix** **アペンディックス**	ハードウェア／ソフトウェアを含めた参照情報をまとめています。必要なときにお読みください。

表記について

記号やマーク類

本書で使用している記号やマークには、次の意味があります。

重要	重要事項を示しています。必ずお読みください。
ヒント	ヒントや参考となる内容です。
補足	補足的な説明です。
⇒xxページ	参照先のページを示しています。

1　手順を示しています。

目次

1章　Basic

2章　Concept

3章　Application

4章　Advanced

5章　Reference

6章　Troubleshooting

付録

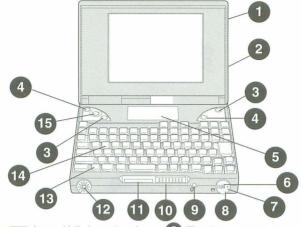
第1章

Basic

ベーシック

この章では、Palm Top PCを使い始める前に
知っておいていただきたいことをまとめています。
必ずお読みください。

本体各部の名称と働き

正面

❶ **表示画面（カラー液晶ディスプレイ）**
デュアルSTNカラー液晶ディスプレイ（最大256色表示）です。

❷ **内蔵マイクロフォン**
内蔵マイクによりここから録音できます。Personawareでは使えません。Windows**をインストールしたときに使うことができます。

❸ **右ボタン（クリック・ボタン）**
マウスの右ボタンと同じ働きをするクリック・ボタンです（左右2か所にあります）。（⇒1-21ページ）

❹ **左ボタン（クリック・ボタン）**
マウスの左ボタンと同じ働きをするクリック・ボタンです。（左右2か所にあります）（⇒1-21ページ）

❺ **メモ・パッド**
手書きメモ専用の入力装置です。表面は保護シート（メモ・パッド・シート：交換可）におおわれています。ボールペンでメモ書きの入力ができます。（⇒1-24ページ）

❻ **電話オフ・フック・スイッチ**
電話を使うためのスイッチです。右にスライドさせるとスイッチが入り、受話器を上げた状態になります。（⇒4-10ページ）

❼ **電話着信ランプ**
電話着信時には▷が緑色に点滅します。

❽ **電話用マイクロフォン**
電話のハンドセットとして使うとき、この部分がマイクロフォンとなります。

❾ **電話用ヘッドセット・ジャック**
電話用ヘッドセットのプラグを接続します。（接続すると電話用のマイクロフォンとレシーバーは使えません。）
推奨品：・IDO MINIMOイヤホンマイク2.5
・NTT DoCoMoイヤホンマイクセット
・TU-KAイヤホンマイクB
（アルファベット順、95年9月現在）

❿ **ラッチ**
カバーをあけるときに右にスライドします。（⇒1-11ページ）

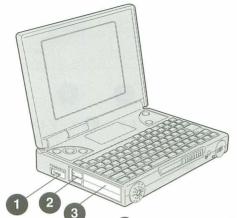
⓫ **液晶インジケーター・パネル**
バッテリーの残量表示やNumLockやCapsLockなどが表示されます。また、電源を切っているときは、時刻を表示します。（⇒A-28ページ）

⓬ **電話用レシーバー**
電話のハンドセットとして使うとき、この部分がレシーバーとなります。

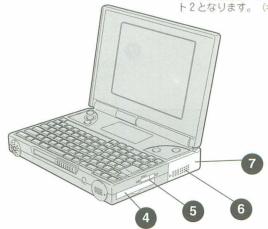
⓭ **Fnキー**
ファンクション・キーと組み合わせて、パワー・モードの切り替えや表示画面の輝度やコントラストの調節ができます。（⇒1-18ページ）

⓮ **キーボード**
Palm Top PCにさまざまな指示をするために使います。主に文字入力に使います。（⇒1-14ページ）

⓯ **ポインティング・ヘッド**
マウスと同じ働きをするポインティング・デバイスです。隣にもクリック・ボタンがあるので、片手で操作が簡単にできます。（⇒1-21ページ）

側面

❶ 電源スイッチ
電源を入れたり切ったりするときに、白いロック・ボタンを押しながら左へスライドさせます。電源を入れるときと切るときはどちらも同じ操作で行います。（⇒1-12ページ）

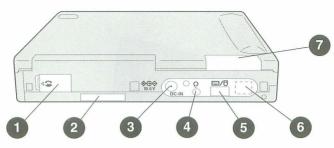
❷ PCカード取り出しボタン
PCカードを取り出すときに立ててから押します。（4-13ページ）

❸ PCカード・スロット
PCカードをタイプⅠまたはタイプⅡであれば2枚まで、タイプⅢであれば1枚取り付けることができます。奥にソケットがあります。上側がソケット1で下側がソケット2となります。（⇒4-12ページ）

❹ スマート・ピコ・フラッシュ・スロット
スマート・ピコ・フラッシュ（別売）を取り付けることができます。（⇒4-15ページ）

❺ 着信音切り替えスイッチ
電話の着信音を切ることができます。

❻ 内蔵スピーカー
ここからビープ音などの音が出ます。

❼ バッテリー・パック用スロット
リチウムイオン・バッテリー・パックを取り付けます。（⇒1-8ページ）

背面

❶ Wing Jack（ファックス／モデム・ポート）
電話回線と接続することにより、Palm Top PCを電話として使うことができます。また、ファックスやデータの送受信ができます。（⇒4-9ページ）

❷ ボタン電池ホルダー
構成情報、日時保持用のボタン電池（リチウム電池 CR2016）を取り付けます。（⇒4-17ページ）

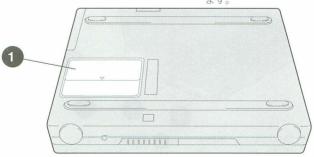
❸ DC-INコネクター
ACアダプターのDCプラグは、ここに接続します。（⇒1-10ページ）

❹ オーディオ用ヘッドセット・ジャック
オーディオ用ヘッドセットのプラグを接続します。（接続するとマイクロフォンとスピーカーは使えません。）
推奨品：・IDO MINIMOイヤホンマイク2.5
・NTT DoCoMoイヤホンマイクセット
・TU-KAイヤホンマイクB
（アルファベット順、95年9月現在）

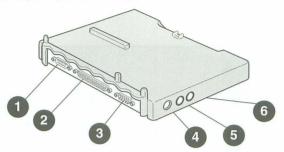
❺ キーボード／マウス・コネクター
キーボード／マウス・アダプター（別売）を使って、別売りのキーボード、マウス、バーコード・リーダーのうち、1つが接続できます。さらに、キーボード／マウス・コネクター（別売）を使うと、キーボードとマウスが同時に使えます。

❻ 赤外線通信ポート
もう一台のPalm Top PCと、ここからデータの送受信を行うことができます。（⇒1-33ページ）

❼ 赤外線通信位置決め用矢印
Palm Top PCどうしで赤外線通信を行うときに、この矢印が向き合うようにします。

底面

❶ 拡張コネクター
ポート・リプリケーターと接続します。ポート・リプリケーターからプリンターやディスプレイなどの入出力装置を接続できます。（⇒4-19ページ）

ポート・リプリケーター各部の名称と働き

モデル2431-YDWに付属（他のモデルでは別売）のポート・リプリケーターの各部の名称と働きは次のとおりです。

1 シリアル・コネクター
RS-232Cケーブルは、ここに接続します。（⇒4-22ページ）

2 パラレル・コネクター
プリンターは、ここに接続します。（⇒4-22ページ）

3 外付けディスプレイ・コネクター
外付けディスプレイ（VGA/SVGA対応）は、ここに接続します。（⇒4-23ページ）

4 DC-INコネクター
ポート・リプリケーター使用時にはACアダプターは、ここに接続します。（⇒4-21ページ）

5 キーボード・コネクター
キーボードは、ここに接続します。（⇒4-25ページ）

6 マウス／数値キーパッド・コネクター
マウスまたは数値キーパッドは、ここに接続します。（⇒4-27ページ）

7 本体取り外しボタン
本体をポート・リプリケーターから取り外すときに押し下げます。（⇒4-21ページ）

8 拡張コネクター
本体とポート・リプリケーターを接続します。（⇒4-20ページ）

9 ディスケット・ドライブ・コネクター
外付けのディスケット・ドライブをここに接続します。（⇒4-29ページ）

Personawareの初期画面

Personawareの初期画面は、Personawareのすべてのアプリケーションをスタートするメイン・パネルの役割をしています。ファンクション・キー・エリア（最下段）は通常隠れていますが、F12キーでオン／オフできる仕組みになっています。新たに新しいアプリケーションを登録してメニューから始動することもできます。

❶ **Schedule**
予定表管理をします（予定表機能⇒5-9ページ）。

❷ **ToDo List**
タスクの優先順位管理をします（備忘録⇒5-26ページ）。

❸ **Notebook**
情報管理ツールです（ノート機能⇒5-29ページ）。

❹ **Address**
住所や顔の写真などを管理します（住所録⇒5-32ページ）。

❺ **E-Mail**
パソコン通信を使用して電子メールをやり取りします（電子メール⇒5-37ページ）。

❻ **FAX**
FAXの送受信を行います（FAX機能⇒5-44ページ）。

＊F11キーから日本語表示にも変更できます

❼ **Telephone**
Palm Top PCを使用して電話をかけます（電話機能⇒5-49ページ）。

❽ **IR Connect**
赤外線通信を使ってファイル転送などを行います（赤外線通信機能⇒5-53ページ）。

❾ **World Clock**
世界の時刻を見ることができます（世界時計⇒5-56ページ）。

❿ **Calculator**
関数電卓、度量衡換算、ローン計算ができます（多機能電卓⇒5-58ページ）。

⓫ **Editor**
簡易エディターです（エディター機能⇒5-63ページ）。

⓬ **Draw Memo**
手書きメモをビットマップを入力できます（手書きメモ機能⇒5-65ページ）。

⓭ **Game**
牌合わせゲームです（ゲーム⇒5-67ページ）。

⓮ **Personal**
個人データ管理機能です（個人情報管理⇒5-70ページ）。

⓯ **DOS**
DOSが始動します。Exitコマンドで Personawareに戻ります（DOS⇒A-25ページ）。

⓰ **Power MGT**
省電力機能などを設定します（省電力機能など⇒4-65ページ）。

基本操作

バッテリー・パックを取り付ける

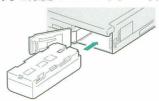
Palm Top PCはACアダプターのほか、リチウムイオン二次電池を採用しています。

> ⚠ 注意
>
> ivページの「安全に正しくお使いいただくために」の中のバッテリー・パックについてを必ずお読みください。

1 **カバーを押しながら右へ2mm程スライドさせる**

2 **カバーが少し開いたら、カバーを少しひっぱってさらにスライドさせる**

3 **カバーを図のように十分に開ける**

4 **バッテリーの方向を確認してから奥まで押し込む**

5 カバーを押しながら左へスライドさせる

このとき、カバーの端が本体から2mm程出ている状態で合わせてから、押しながら左へスライドさせます。

重要

カバーのスライドが不十分な場合、カバーが十分に開かず、バッテリー・パックがカバーに引っかかることがあります。
無理に入れると、カバーの破損の原因になります。

補足

出荷時にはバッテリーは充電されていません。
バッテリーの使用可能時間や充電方法などについて詳しくは、本章のバッテリーを使う（⇒1-35ページ）をお読みください。

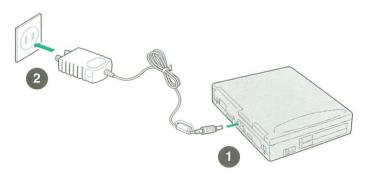
ACアダプターを接続する、取り外す

> ⚠ 危険
>
> ACアダプターは、必ず本体に付属のものをお使いください。他の機器用のものは使わないでください。

> ⚠ 注意
>
> ACアダプターは国内の100V電源専用です。海外では使わないでください。

ACアダプターを接続する

1 **本体のDC-INコネクターにプラグを差し込む**

2 **電源プラグをコンセントに差し込む**

> ヒント
>
> 電源プラグはコンセントの奥まできちんと差し込んでください。

ACアダプターを取り外す

1 **電源プラグをコンセントから抜く**

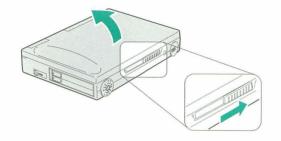
2 **プラグを本体から抜く**

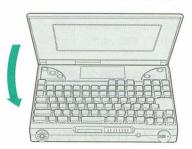
カバーを開ける、閉める

カバーを開けて、表示画面を見やすい角度まで開きます。

カバーを開ける

1 カバーのラッチを右へずらす

2 カバー（液晶ディスプレイ）をゆっくりと起こす

カバーを閉める

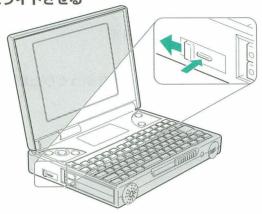
1 カバーのラッチがカチッというまで、カバーをゆっくりと倒す

電源を入れる、切る

電源を入れる

1 電源スイッチを中央の白いロック・ボタンを押しながら矢印の方向へスライドさせる

電源を切る

1 電源スイッチを中央の白いロック・ボタンを押しながら矢印の方向へスライドさせる

> 補足　電源スイッチを使った場合、電源の入れ方と切り方は同じ方法です。
> 「電源が入っている」「電源が切れている」の確認は液晶インジケーター・パネルの状態を見て、確認します。(⇒1-13ページ)

Personawareから電源を切る

Personawareを使っているときは、電源スイッチを使わないでください（異常時、緊急時をのぞく）。終了手順には、次の2つの方法があります。

A. ランチャー（メイン・パネル）から終了する。

1 F12キーを押して、画面下にアイコンが並んでいる状態にする

2 F11キーを押す

3 再びF11キーを押す（またはPersonawareの終了を選ぶ）

B. アプリケーションの使用中に終了する。（ランチャーからでも有効）

1 Fnキーを押しながらF12キーを押す

次に電源を入れてPersonawareを使うとき、そのアプリケーションの最後の状態に自動的に戻すには、この方法で行うことができます。

ヒント

- Fn+F12による終了は、Personawareのすべての画面で有効とは限りません。
- Personawareを終了させたときは、有効ではありません。

重要

電力の消費は、電源スイッチで直接終了した場合と同じです。ただし、Personawareの使用中に電源スイッチで直接終了した場合は、そのとき動作していた状態と実行していたアプリケーションの編集中のデータは消失します。

電源オン・電源オフ状態の確認

システム	電源オフ			サスペンド			動作中（レジューム）		
アダプター	ACアダプター有		ACアダプター無	ACアダプター有		ACアダプター無	ACアダプター有		ACアダプター無
バッテリー	バッテリー有	バッテリー無	バッテリー有	バッテリー有	バッテリー無	バッテリー有	バッテリー有	バッテリー無	バッテリー有
液晶インジケーター・パネルの表示内容	時計	時計	時計	容量／時計 5秒間隔で自動的に切り替わる	AC／時計 5秒間隔で自動的に切り替わる	容量／時計 5秒間隔で自動的に切り替わる	AC	AC	容量

補足

液晶インジケーター・パネルについては詳しくは、A-28ページをお読みください。

補足

Palm Top PCの使用中（サスペンド時やレジューム時）および電源オフのときに、電話オフ・フック・スイッチの位置に気をつけてください。電話を使っていないにもかかわらず、このスイッチが右側（受話器を上げた状態）になっていると、無駄な電力が消費され、バッテリー・パックの容量がはやく減ってしまいます。これは、電話ケーブルの接続の有無には無関係です。電話を使っていないときは、このスイッチは左側にスライドしておいてください。

キーボードを使う

ここでは、主なキーの名称とその使い方を簡単に説明します。文字の入力方法については、『付録』の「文字を入力するには」（⇒A-4ページ）をお読みください。

標準タイプ・キー

文字、数字、記号、句読点、スペースなどを入力するためのキーをまとめて標準タイプ・キーと呼びます。

キーの種類	呼びかた	役割
A ち	**文字キー**	**アルファベット、ひらがな、カタカナ、漢字、数字、記号、句読点などを入力する**
	スペース・キー	**スペース（空白）を入力する**
半/全 漢字	**半角／全角／漢字キー**	**文字やスペースの幅を切り替えたり、漢字入力を切り替える**
Tab	**タブ・キー**	**タブを入力する** カーソルの位置を一定の幅進めます。

キーの種類	呼びかた	役割
（左側） ⇧Shift （右側） ⇧	シフト・キー	**キー表面の上段の文字を入力する** シフト・キーは左右両側にありますが、表面の刻印が違います。
Caps Lock 英数　漢番号	英数キー	**アルファベット、数字、漢字番号を入力できる状態にする** シフト・キーを押しながらこのキーを押すと［(Caps Lock)］が表示されて、大文字で入力されます。
↑ ← ↓ →	矢印キー	**主にカーソルを移動させる**
F1	ファンクション・キー	**特殊な機能を提供する** このキーは、各アプリケーション・ソフトによって決められています。

ヒント

大部分の標準タイプ・キーは、押し続けると繰り返し作動する連続作動キーです。つまりAを押し続けると、AAAAAAA...と入力されます。

特殊キー

特殊キーの働きは、各アプリケーション・ソフトによって決まりますが、ここでは代表的な用法の例を示します。

キーの種類	呼びかた	役割
Enter ↵	エンター・キー	・改行する ・現在の画面に表示されているメッセージを了解して、次の画面に移りたいときに押す ・機能を選ぶためのメニューが表示されているときに、現在の注目点（反転表示などしている部分）の機能を実行したいときに押す

1　Basic ベーシック

キーの種類	呼びかた	役割
Esc	エスケープ・キー	・現在の画面（機能）を取り消して、一つ前の画面に戻りたいときに押す ・画面の表示を消すときに押す
Back space	バック・スペース・キー	カーソル位置を一つ戻す（カーソルの位置より一つ左の文字が削除される）
Ins	インサート・キー	挿入と置換を切り替える カーソル位置に何か文字や記号を挿入したいときは［挿入］に、表示されている文字を消しながら進みたいときは［置換］にします。
Del	デリート・キー	カーソル位置の文字を削除する
Home	ホーム・キー	カーソル位置を画面のホーム・ポジション（通常、左上隅）に戻す
End	エンド・キー	カーソル位置を現在行の最後尾の文字に移す
PgUp	ページ・アップ・キー	画面の表示内容を、前のページに戻す
PgDn	ページ・ダウン・キー	画面の表示内容を、次のページに進める
PrtScn SysRq	プリント・スクリーン・キー	画面印刷をする
Ctrl	コントロール・キー	組み合わせキー（後述）で使われることが多いキーです。

キーの種類	呼びかた	役割
NmLK ScLK	ナム・ロック・キー	このキーを押すと、キーボードの一部が数値キーパッドとなり、数字が入力できます。（数字入力のキーには数字が刻印されていません。）（⇒A-18ページ） ［Shift］キー（シフト・キー）を押したままキーを押すごとに、液晶インジケーター・パネルの［⇧(Num Lock)］の表示がついたり消えたりします。
NmLK ScLK	スクロール・ロック・キー	矢印の機能が、カーソル移動から画面スクロールに切り替わります。 押すごとに、液晶インジケーター・パネルに［⊡(Scroll Lock)］の表示がついたり消えたりします。ただし、この働きに切り替わるのは、アプリケーション・ソフトがそのように作られている場合だけです。
Pause Break	ポーズ・キー	**画面上で行われている処理を一時的に停止する** たとえば、ファイルの内容が画面上に表示されているときにこのキーを押すと、画面のスクロールは他のキーを押すまで停止されます。
Alt	オルト・キー	緑色で書かれている文字の機能を働かせたい場合は、このキーを押しながら各キーを押します。
無変換 前候補 変換 全候 カタカナ ひら ローマ		**漢字の入力、カタカナとひらがなの切り替えに使う**

Fnキー

Fnキーを押しながらファンクション・キーなどのキーを押すことによって、次の機能を瞬時に行うことができます。

●サスペンド（中断）する

●レジューム（再開）する

●表示画面を切り替える

●パワー・モードを切り替える

●表示画面の輝度とコントラストを調節する

●スピーカーの音量調節をする

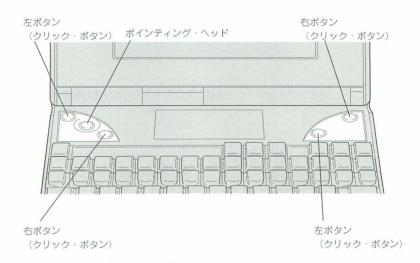
キーの組み合わせ	機能	役割
Fn	**レジューム機能**	Palm Top PCがレジュームします。レジューム機能について詳しくは、「サスペンド／レジューム機能を使う」（⇒1-27ページ）をお読みください。
Fn + F4	**サスペンド機能**	Palm Top PCがサスペンド状態になります。サスペンド機能について詳しくは、「サスペンド／レジューム機能を使う」（⇒1-27ページ）をお読みください。
Fn + F7	**画面表示の切り替え**	ポート・リプリケーターに外付けディスプレイが接続されている場合、このキーを押すごとに画面表示が切り替わります。 ヒント **外付けディスプレイを接続していない場合は** 外付けディスプレイを接続していない場合は、このキーを押しても液晶ディスプレイに表示されます。

キーの組み合わせ	機能	役割
Fn + F11	パワー・モードの切り替え	バッテリー使用時にこのキーを押すと、パワー・モードがミディアム-->ハイパワー-->ローパワー-->ミディアムの順序で切り替わります。 ヒント ACアダプターが接続されているときは、ACモードが使われます。現在のパワー・モードは切り替え後、10秒間のあいだ、液晶インジケーター・パネルに表示されます。 （HI=ハイパワー、 LO=ローパワー M=ミディアム）
Fn + Home	輝度の調節（上げる）	このキーを押すと輝度が上がります（3段階あります）。最も明るい状態になると、キーを押しても輝度は上がりません。バッテリーで使用しているときは、2段階にしか調節できません。
Fn + End	輝度の調節（下げる）	このキーを押すと輝度が下がります（3段階あります）。最も暗い状態になると、キーを押しても輝度は下がりません。バッテリーで使用しているときは、2段階にしか調節できません。
Fn + Ins Fn + Del	コントラストの調節（大きくする、小さくする）	これらのキーを押し続けることによって256段階のうち、最も画面が見やすいように調整します。Fn＋InsとFn＋Delとは、それぞれ逆方向の調整になります。調整範囲の最大または最小になると、それ以上の調整はできません。

1 Basic ベーシック

キーの組み合わせ	機能	役割
Fn + PgUp	スピーカーの音量調節（大きくする）	このキーを押すとスピーカーの音が大きくなります（8段階あります）。最も大きい音になると、キーを押しても音は大きくなりません。 キーを押し続けると、連続的に調整することができます。
Fn + PgDn	スピーカーの音量調節（小さくする）	このキーを押すとスピーカーの音が小さくなります（8段階あります）。最も小さい音になると、キーを押しても音は小さくなりません。 キーを押し続けると、連続的に調整することができます。
Fn + F12	Personawareから電源を切る	このキーを押すと、Personawareの状態を保持したのち、電源を自動的に切ります。 次に電源を入れたとき、保持していた情報を元にPersonawareが起動されます。

ポインティング・ヘッドを使う

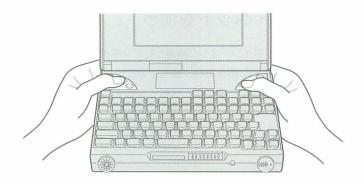
Palm Top PCでは、ポインティング装置として、ポインティング・ヘッドを装備しています。マウスと同じ働きをし、画面上のアイコンやメニューを選んだりするのに使います。マウスでできることはポインティング・ヘッドで行うことができます。

ポインティング・ヘッド

ポインティング・ヘッドを傾けると、ヘッドの周囲に配置されたスイッチが押され、その方向に画面上のポインターが移動します。押す力の強弱に応じて、移動の速さが変わります。

クリック・ボタン（右ボタン、左ボタン）

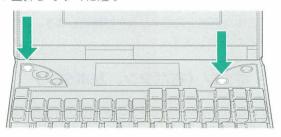
ボタンを押すこと（クリック）で、メニューやファイルを選びます。左ボタンと右ボタンの機能は、アプリケーション・ソフトによって異なります。

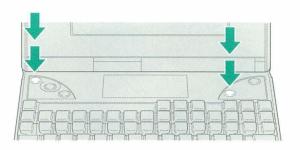
ポインティング・ヘッドの使いかた

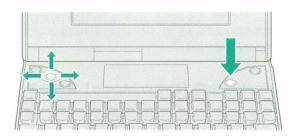
左手でポインティング・ヘッドに圧力をかけ、右手でボタンを押します。片手で使う場合は、ポインティング・ヘッドに圧力をかけたあと、指をずらしてボタンを押します。

> ヒント **ポインティング・ヘッドは、マウス・ドライバーで作動する**
> ポインティング・ヘッドは、システムに既にインストールされているマウス・ドライバーで作動しますので、特別なソフトウェアは必要ありません。

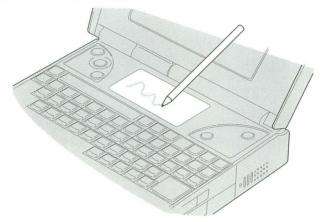
左右のボタンは、マウスのボタンに対応しています。（左側の左ボタンと右側の左ボタンは同じ働きをします。右ボタンも同様です。）このボタンを次に説明する操作で使い分けてさまざまな機能を実行します。それぞれのボタン操作で実行できる機能は、使用するアプリケーション・ソフトにより違うので、それらのマニュアルをお読みください。

クリック

ボタンを1回押してすぐに離す

ダブルクリック

ボタンをすばやく 2 回押して離す

ドラッグ

ボタンを押したままポインティング・ヘッドを押して必要な位置でボタンを離す

メモ・パッドを使う

メモ・パッドは、手書きメモ専用の入力装置です。ボールペンで、文字や絵などの手書きができます。

補足

ボタン電池を交換した場合など、構成情報が失われると電源を入れた直後にメモ・パッドの四隅を押すようにメッセージが出ますので、画面の指示に従ってボールペンで押してください。正しく入力、認識されたときは確認音がして、次の隅を押すようにメッセージが出ます。これにより、メモ・パッド動作の補正情報が入力されます。

1 Personawareの「Draw Memo」を開きます。

2 ボールペンでシートにメモを書きます。

Personawareの「Draw Memo」について詳しくは、「第3章 Application」をお読みください。

重要

- メモ・パッドには必ずボールペンをお使いください。先のとがったものや、シャープ・ペンシル、鉛筆などは使わないでください。メモ・パッド・シートに傷がつきます。
- 必ずメモ・パッド・シートを敷いてお使いください。メモ・パッドに直接書くと、筆跡が残ったり、キズがついたりして、メモ・パッドの寿命を縮める原因となります。

ヒント

あまり強く書き過ぎると、メモ・パッド・シートの交換時期を早めます。

補足

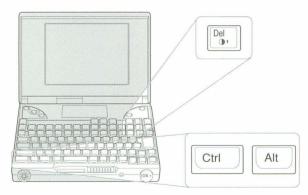
- インクがついたら布などで拭いてください。
- 使っていくうちに、メモ・パッド・シートに筆跡が残ったりキズがついてきます。キズがついてきたら、適宜メモ・パッド・シートを交換してください。（⇒4-16ページ）

Palm Top PCをリセットする

Palm Top PCは、使用をサスペンド（中断）するときやレジューム（再開）するときに、サスペンド／レジューム機能を利用することができます。
しかし、Personawareや他のソフトウェアが動かなくなってしまった、キー入力ができなくなったというときは、Palm Top PCを始動し直す（リセットする）必要があります。
リセットには、次の２つの方法があります。ただし、どちらの方法でも作成中のデータなどはすべて消えてしまいます。

キー操作によるリセット

キー操作による方法では、電源を切らずにPalm Top PCをリセットできます。

[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Del] キーを押す（システム・リセット）

通常はこの方法でリセットできます。この方法でリセットできない場合には、次の方法でリセットします。

電源スイッチによるリセット

システム・リセットができない場合に行います。電源をいったん切ってから、数秒待って再び電源を入れます。

基本機能

サスペンド／レジューム機能を使う

電源を入れてアプリケーションが使えるようになるまでに、やや時間を必要とするのはコンピューターの宿命です。そこで用意されたのがサスペンド／レジューム機能です。サスペンド／レジューム機能を使うと、Palm Top PCは使用状態にかかわらずいったんサスペンド（中断）し、再度サスペンド直前の状態でレジューム（再開）することができます。

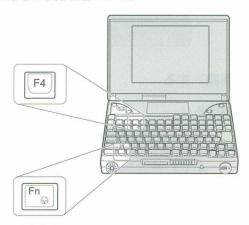
重要

- パスワードを設定していると、レジュームした直後にパスワードの入力が必要となります。（パスワードを使う⇒4-57ページ）
- PCカードや赤外線通信ポートなどを使って通信を行っているときは、サスペンドしないでください。
- オーディオ機能を使って録音や再生を行っているときは、サスペンドしないでください。誤動作することがあります。

Fnキーで行う

サスペンド（中断）する

1 [Fn] キーを押しながら [F4] キーを押す

画面が消えたら指を離します。

レジューム（再開）する

1 [Fn] キーを押す

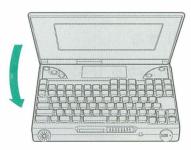
ヒント **サスペンド／レジューム機能には電力が必要**

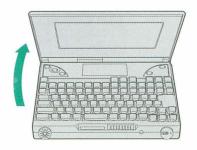
サスペンド／レジューム機能によって、サスペンド状態を保持し続けるためには微小ながらも電力が必要です。次のことを覚えておきましょう。

- バッテリーだけで保持する場合（ACアダプターを接続していない）、バッテリーが完全放電すると保持されている内容も消えます。バッテリーがフル充電のとき、保持できる期間は約2日間です。この期間はバッテリーの状態およびPCカード、モデムなどのオン、オフによって変わります。
  バッテリーの性能が低下してくると、保持できる期間は短くなります。
- ACアダプターを接続すれば、いつまでも保持できます。
- 電源スイッチを切ったときは、電力の供給がなくなるため、サスペンド時の内容は消えてしまいます。

カバーの開け閉めで行う

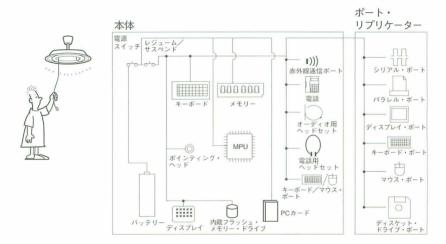
サスペンド（中断）する

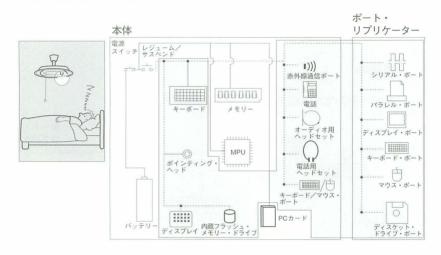
1　カバーを閉める

レジューム（再開）する

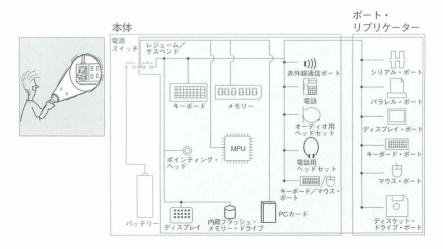
1　カバーを開ける

サスペンド／レジューム機能とは

この機能は、［Fn］キー＋［F4］キーまたはカバーを閉じてサスペンドしても、内部の一部には電力を供給し続けてサスペンド状態を保持します。したがって、［Fn］キーを押すか、またはカバーを開けて使用を開始すれば、サスペンドした状態から使い始めることができます。

使用中

本体内部のすべてに電力を供給しています。

サスペンド（中断）中

サスペンド状態を保持するため、本体内部の一部（メモリーやPCカード）に電力を供給しています。

電源オフ

電話を受けたり設定時刻に起動するために、微弱電力は使われています。

ヒント **バッテリーが完全放電したら電源スイッチを入れ直して**

Palm Top PCをサスペンドしたあとで、レジュームしようとしても画面に何も表示されないときがあります。これは、サスペンドが長く、バッテリーが完全放電してしまったからです。こんなときは、ACアダプターを接続してから再び電源を入れてください。バッテリーに充電するときも、電源を入れてからサスペンドしてください。

ヒント **電源スイッチを切るときはこんなときに**

使用中は通常、サスペンド／レジューム機能を活用してください。電源スイッチを切るのは、サスペンド／レジューム機能を働かせずに使うのをやめるときです。

●仕事を終えて退社するときや外出するときなど、長時間使わないとき
●Palm Top PCを使わないときやバッテリー電力を消費したくないとき
●ポート・リプリケーターなど、オプションを本体に取り付けるとき

ヒント **ACアダプター接続時にサスペンドすると充電される**

バッテリーの充電方法は、サスペンドする操作と同じです。

ヒント

容量が残っているバッテリー・パックやACアダプターが接続されていると、サスペンド中や電源が切れているときでも、電話の着信はできます。バッテリー・パックのみで残量がないときは、着信できません。

その他のサスペンド（中断）とレジューム（再開）の方法

Palm Top PCには、［Fn］キー＋［F4］キーとカバーの開閉による方法以外に次の方法があります。

サスペンドの方法

●PS2 OFFコマンド（⇒4-77ページ）を実行する

●バッテリーが残量わずかになったとき、自動的にサスペンド状態になる

レジュームの方法

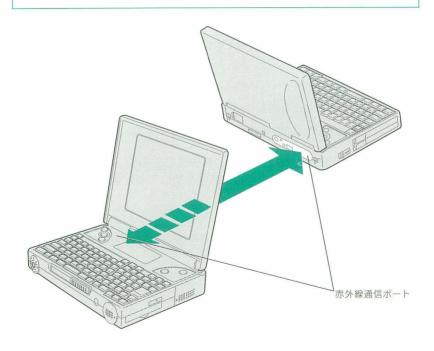
●サスペンド状態に入る前に実行されたPS2 ON at HH:MM:SSコマンドにより設定された時刻になったとき

●PCカード・スロットに取り付けられたモデムまたは内蔵ファックス／モデムが着信呼び出しを受信したとき（ただし、ACアダプターを接続時のみ可能）

赤外線通信機能を使う

Palm Top PCでは、手軽に通信を行うために赤外線通信ポートを用意しました。Palm Top PCどうしで、ケーブルを接続することなく通信することができます。これはシリアル通信の一種で、転送レート（一秒当たりに送信できるビット数）は最大115.2Kbpsまで可能です。

赤外線通信ポートを使って通信を行う場合は、赤外線通信を使用可能にし（⇒4-46ページ）、Palm Top PCどうしの背面を平行にし、お互いの赤外線通信ポートが真正面を向き合うようにして通信を行ってください。距離は、30cm程度で使うことをおすすめします。

> ヒント **最適な位置は**
>
> 赤外線通信ポートの上部（ポインティング・ヘッドのすぐ上）に照準用矢印（▲）が刻印されています。
>
> ▲どうしの位置を合わせると、お互いに最適な位置となります。

補足

赤外線通信ポートを使って通信をする場合、両方に同じ通信ソフト（アプリケーション）が導入されている必要があります。

赤外線通信がうまくいかないときは、次のことを確認してください。

- 赤外線通信ポートが使用可能になっていること
- Palm Top PCどうしの転送速度、パリティ、データ長、ストップ・ビット長、転送レートなどのパラメーターが等しいこと（設定が違うと通信できません）
- 赤外線通信ポートどうしが正しく真正面に向き合っていること
- 赤外線通信ポートどうしの距離が離れすぎていないこと（1m以内）または近すぎないこと
- 次のような赤外線を発するものがまわりで動作していないこと

  －テレビ、ビデオ、CDなどのリモコン

  －白熱灯

  －ワイヤレス・ヘッドフォン

  －ストーブの発熱部（赤外線通信ポートのほうを向いていないこと）

  －直射日光（赤外線通信ポートを直射していないこと）

それでもうまくいかない場合は、転送速度を下げたり、赤外線通信ポートどうしを近づけたり離したりして再度ためしてください。

重要

赤外線リモコンを使っている機器の赤外線受光部に、Palm Top PCの赤外線通信ポートを直接向けないようにしてください。

重要

Palm Top PCの赤外線通信ポートは、ハードウェア・レベルでIrDA規格に準拠しています。したがって、この規格に準拠している他のパソコンの赤外線通信ポートと通信可能です。ただし、この場合でもソフトウェア・レベルでお互いが通信可能な同じ赤外線通信ソフトウェアが導入されている必要があります。

バッテリーを使う

> ⚠ 注意
> ivページの「安全に正しくお使いいただくために」の中のバッテリー・パックについてを必ずお読みください。

Palm Top PCでは、バッテリー・パックとして、リチウムイオン二次電池を使います。ここでは、バッテリー・パックの使用可能時間や急速充電の方法を説明します。

バッテリー・パックを充電する

バッテリー・パックは、ACアダプターを使って充電することができます。次の場合には、使う前にバッテリーを充電してください。

- 購入後、初めてバッテリー・パックを使うとき
- バッテリー・パックを抜き差ししたり、新しいものと交換したとき
- 液晶インジケーター・パネルの表示で、バッテリーが残り少なくなっているとき
- 長時間Palm Top PCを使わなかったとき

電源を切らずにバッテリー・パックを交換するには

Palm Top PCを使いながらバッテリー・パックを交換するには、できる限りACアダプターを接続してから行ってください。
ACアダプターを接続しないで交換するときは、必ずPalm Top PCをサスペンド状態にしてから行ってください。内蔵サブ・バッテリーによって、1分間前後メモリーの内容を保持することができます。バッテリー・パックの交換は、すみやかに行ってください。交換に時間がかかると、内蔵サブ・バッテリーが放電してしまい、Palm Top PCのメモリー上のデータを消失してしまいます。

> 重要　**内蔵サブ・バッテリーの充電**
> - ACアダプターを接続しないでバッテリー・パックを交換するときは、内蔵サブ・バッテリーが十分に充電されている必要があります。
> - 内蔵サブ・バッテリーは、ACアダプターを接続して本体を使用しているときに、充電されます。充電に必要な時間の目安は、初めてPalm Top PCを使ったり、長期間使わなかった場合、約4時間です。

バッテリー・パックを急速充電する

まず、Palm Top PCをサスペンドします。

重要

- 電源が入っていてもサスペンド状態でないと急速充電されません。
- 残量が約80%以上のバッテリー・パックは急速充電されないことがあります。充電したい場合は、いったんバッテリーを使ってから急速充電してください。

充電中は、液晶インジケーター・パネルに三角マークがつき、容量が%で表示されます。充電が完了すると、液晶インジケーター・パネルの三角マークが消え、容量の表示は100%になります。充電は自動的にストップしますので、ACアダプターを接続したままにしておいてもさしつかえありません。

ヒント **Palm Top PC使用中の電力供給について**

ACアダプターを接続した場合、Palm Top PC使用中の電力供給は、ACアダプターからになります。バッテリー・パックからは供給されません。

ヒント

周囲の温度が低い場合は急速充電となりません。約10℃以下では、低速充電となります。低速充電のときは、三角マークが点滅します。

ヒント

バッテリー・パックが古くなると、充電が完了しても100%と表示されないことがあります。また、100%と表示されても、電池の消耗が速くなることがあります。

充電時間と使用できる時間は

バッテリー・パックの充電時間

バッテリーが完全放電した状態からフル充電の状態になるまでの急速充電時間は、約2.5時間です。

バッテリー・パックで使用できる時間

バッテリー・パックで使える時間は、本体内部や外部オプションの接続状況によって異なります。パワー・モードがローパワーで、画面輝度を下げた場合は、連続で約3時間です。

ヒント

パワー・モードの設定、Palm Top PCの使用状態、オプションの追加、PCカード・ハードディスクの使用、バッテリーの状態、周囲の温度、その他の要因（電話、データ通信、ファックス通信、赤外線通信の使用など）で時間が短くなることがあります。

残量の確認方法

残量は、液晶インジケーター・パネルに%で表示されます。完全に放電すると、本体内部に記憶されている内容はすべて消えてしまいます。

バッテリーの残量表示	バッテリーの残量
100%、90%、80%、70%、60%	残量十分
50%、40%、30%	残量半分以下
20%警告音（ピピッ）1回	残量わずか
10% 警告音（ピーポー、ピーポー、ピーポー） 2回（使用中止警告）＊1	残量がほとんどない 要充電
5% 自動停止（使用不能）＊2	残量なし
0% 全記憶内容消滅　＊3	残量なし

＊1　この状態になったらただちに充電を開始してください。作成中のデータを保存することをおすすめします。

＊2　中断したときの状態はレジューム機能によって保持されています。ただちに、ACアダプターを接続するか、充電済みのバッテリー・パックにすばやく交換してください。放置すると記憶内容がすべて消滅します。

＊3　レジューム機能は働きません。記憶内容はすべて消滅しました。

ヒント

- バッテリーで使える時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われます。新しいバッテリーパックをお買い求めください。
- 本体の電源が切れている状態でもACアダプターなしでバッテリー・パックを内蔵している場合は、微小ですがバッテリーを消費し続けます。フル充電のバッテリー・パックで約3週間で残量がなくなりますので、その場合は再度充電してお使いください。

ヒント　隠れたバッテリーが二つある

Palm Top PCにはバッテリー・パックとは別に、内部に二つのバッテリーを持っています。それぞれの役割は、次のようになっています。

バッテリーの種類	役割	充電方法など
内蔵サブ・バッテリー	バッテリー・パック交換時にメモリーの内容を保持します	使用中（レジューム時）に常に充電されます。 交換は本体の修理を依頼してください。
ボタン電池 （リチウム電池CR2016）	装置の構成情報や日時などを保持します	充電は不可。持続時間は約2年（最初のボタン電池は工場出荷時に組み込まれているため、約2年に満たずに切れることがあります）。電池が切れた場合には、市販のボタン電池をお買い求めの上、交換してください。（⇒4-17ページ）

できるだけ長い時間使用する方法

バッテリー・パックでできるだけ長い時間使用するには、電力をできるだけ節約して使う必要があります。ここでは、パワー・モードをローパワーにする方法と表示画面の輝度を下げる方法を紹介します。

パワー・モードをローパワーにする

Palm Top PCをバッテリー・パックで使用しているときは、パワー・モードの設定によって電力消費を抑えることができます。パワー・モードの設定が「ハイパワー」や「ミディアム」になっている場合は、「ローパワー」の設定にすると無駄な電力消費を抑えることができます。ただし、このときの処理速度は遅くなります。（⇒4-67ページ）
Personawareの使用中は、プログラムがパワー・モードを独自に調節している場合があります。

表示画面の輝度を下げる

表示画面の輝度を下げることによって、Palm Top PCの電力消費量を抑えることができます。[Fn] キーを押しながら [End] キーを押すと、輝度が下がります。

ファックス／モデムの電源を切る

内蔵のファックス／モデムを使っていないときは、PS2.EXEコマンドの設定によって電源を切る（Disableにする）と、無駄な電力消費を抑えることができます。この状態でも電話の着信が可能です。（発信は、ダイヤルできないので使えません。）

電話オフ・フック・スイッチの位置を確認する

本体の電源が切れているときは必ず、電話オフ・フック・スイッチの位置が左側になっている（受話器を置いた状態）ことを確認してください。スイッチが右側にスライドされていると、無駄な電力を消費します。

バッテリー・パックの性能を維持するには

本製品のバッテリー・パックには、リチウムイオン二次電池を使用しています。

バッテリーの上手な使い方

充電は、本体の使用温度範囲5℃～35℃で可能ですが、バッテリーの使用可能時間や、寿命性能を充分発揮させるためには、10℃～30℃での充電をおすすめします。同様に、寒いところ（10℃以下）に放置したバッテリーはすぐに充電するのではなく、10℃～30℃の環境にしばらく慣らしてから充電を開始することをおすすめします。

ヒント

ニッケル水素電池や、ニッカド電池のように充電の前に、使いきったり放電したりする必要はありません。

重要　バッテリー・パックを使うときは

- バッテリーを使用する時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われます。新しいバッテリーをお買い求めください。
- 本体が電源オフ状態でも、ACアダプターなしでバッテリーを内蔵している場合は、微小ですがバッテリーを消費し続けます。100%充電状態の電池で約3週間で残量がなくなりますが、その場合は、再度充電してお使いください。

長期間放置しないように気をつける

バッテリー・パックを本体にセットしたまま長期間放置すると、過放電状態になってしまうことがあります。過放電状態になると、正しく充電できなくなります。たとえ、バッテリーパックを使う予定がなくても、過放電を避けるために、1、2か月に一度程度は充電してください。

重要

過放電状態になった場合は、バッテリー・パックの有無を正しく認識しないことがあります。その場合は、ACアダプターを接続し、サスペンド状態にしてください。しばらく経ってから充電が始まります。

第2章

Concept

コンセプト

この章では、Palm Top PCの基本的な使い方に対する
提案について概説しています。

通勤途中でPalm Top PCを使う

Palm Top PCは通勤途中の電車内でも、片手で操作できることを考慮した設計になっています。吊革につかまりながらの操作も、左右に用意されたボタンとポインティング・ヘッドで簡単です。今日の仕事や予定の確認、次に回るお客様の予定の確認なども、片手でできます。住所録に画像を登録しておけば、お客様の顔を確認することもできます。

Personawareの予定表機能

Personawareの住所録機能

PersonawareのPersonalに個人情報を入れておくと、予定表、備忘録、個人情報と秘書機能が連動して、今日と近い将来のイベントやスケージュールが一覧できます。日々の予定やその日のバイオリズムも分かるのでとても便利です。

予定表を活用する

日々の仕事や予定を入力して管理するには3-4ページを参照してください。

住所録への画像の登録

住所録へメモ、画像などを登録したい場合は3-23ページを参照してください。

個人データの活用

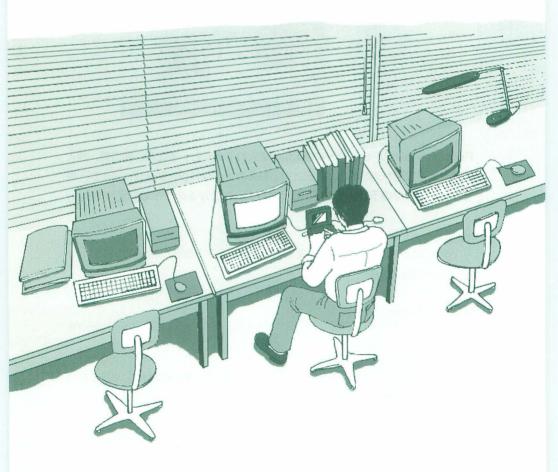
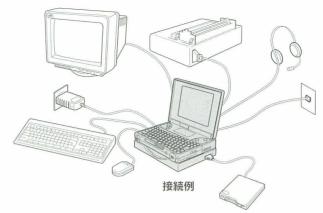
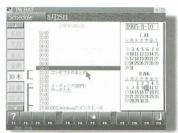
Personalで個人データを入力し、スケジュールと連動させたい場合は3-53ページを参照してください。

ポインティング・ヘッドの使い方

左右にあるボタンとポインティング・ヘッドの基本的な操作を知りたい場合は1-21ページを参照してください。

オフィスでPalm Top PCを使う

小さくても拡張性のあるPalm Top PCを、オフィスで使うと、大幅な省スペース化を実現できます。机の上をパソコンに独占されてしまうことはPalm Top PCではもうありません。ポート・リプリケーターという拡張ボックスを利用して、デスクトップ・コンピューターと変わらない組み合わせで仕事ができます。キーボード、ディスプレイ、ディスケット・ドライブ、マウスなどは、このポート・リプリケーターに接続しておきましょう。離席時はPalm Top PCだけをはずせばOKです。Palm Top PCを使うとオフィスでの機動性と省スペースを同時に実現できます。

接続例

そしてオフィスでのスケジュール管理は、Palm Top PC付属のPersonawareにおまかせください。日間、週間、月間、6か月表示などが、クリックまたはキーひとつで参照できます。また文字の大きさも一瞬に変更して、スケジュールの全体像が一望できます。スケジュール管理はマクロもミクロも見渡せることが大切、Personawareはあなたの時間を効率的に管理する仮想秘書です。

たとえば、2日以上にまたがるスケジュールを一括管理できるのも、Personawareならではの特長です。備忘録では仕事を作業別に管理して、優先順位を決定し、予定表へジャンプして、カット&ペーストでその日の作業を割り振ることもできます。また赤外線通信機能でデータを転送することもできます。

Personawareの予定表

Personawareを活用して、オフィスでの時間管理を効率的に行いたい場合は3-8ページを参照してください。

Personawareの備忘録

仕事を作業別に分けて管理をしたい場合は3-12ページを参照してください。

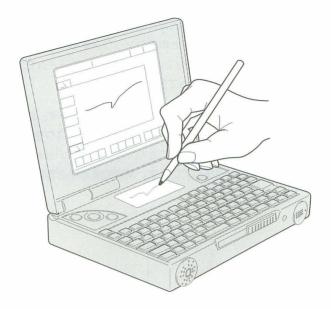
Personawareの赤外線通信機能

赤外線通信機能を使用して、データの送受信を行うには3-40、3-41ページを参照してください。（ただし相手側にもPersonawareが必要です。）

ポート・リプリケーターの接続

Palm Top PCをポート・リプリケーターで拡張して、オフィスで使用したい場合は4-19ページを参照してください。

会議でPalm Top PCを使う

オフィスでは頻繁にあるのが会議です。特にPalm Top PCをいち早く購入したセンスのあるあなたなら、特定の職種のキーマンという場合も少なくないでしょう。会議のはしごも日常茶飯事、こんなときにもPalm Top PCが活躍します。Palm Top PCに付属のメモ・パッドは、ボールペンでそのまま書ける優れモノ、簡単なメモならじかに書いてしまいましょう。メモ・パッドが汚れたら、付属のメモ・パッド・シートを交換できます。

会議中にメモを取りたくなったら、Palm Top PCのPersonawareからDraw Memoを選べばすぐに書き込めます。連続してメモを取ることも可能です。書いたメモは、住所録に関連付けて貼り込めます。また後からFAXで送ることもできます。議事録をその場で取りたいときには、Personawareからエディターを使いましょう。Personawareではワンタッチで文字の大きさが変えられるのも大きな魅力です。

Personawareの手書きメモ機能

メモ・パッドを使って会議中などにメモを取ったり、住所録やFAXでそのメモを利用したい場合は3-51ページを参照してください。

Personawareのエディター機能

会議中に議事録をまとめたり、少し長めの文章を編集しながらまとめたい場合は3-49ページを参照してください。

メモ・パッドの使い方

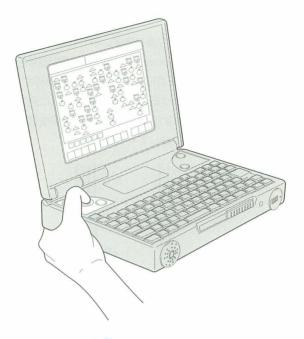
メモ・パッドの使い方の基本部分を知りたい場合は1-24ページを参照してください。

メモ・パッド・シートの取り換え

メモ・パッドのシートが汚れて使いにくくなってきたら、4-16ページを参照してください。

自宅でPalm Top PCを使う

いつでもあなたと一緒にいるPalm Top PC。自宅に帰ったらWing Jack（ファックス／モデム・ポート）を、電話回線と直結しましょう。ファックスも送れるので、自宅に帰ってから報告書をまとめてファックスするなんてことも楽々できます。電子メールやパソコン通信もできます。時計とアラームをセットしておけば、目覚まし時計のかわりにだって使えます。

DOSを使いたい場合にも直接Personawareから始動できます。別売りのスマート・ピコ・フラッシュやPCカード（PCMCIA）ハードディスクを追加すれば、フルセットのDOSやWindowsを使用することもできます。またPersonawareの電卓には、ローン計算の機能も付属しています。論理的思考が必要なゲームも付属しています。

Personawareのファックス機能

ファックス機能を使用してテキスト・ファイルや画像を送る場合は3-34ページを参照してください。

Personawareの電子メール機能

電子メール機能で友達に自宅からメールを送ったり、パソコン通信で情報にアクセスしたい場合は3-29ページと3-33ページを参照してください。

時計の設定方法

Palm Top PC前面にある液晶インジケーターのパネルの液晶時計を設定したい場合は3-43ページを参照してください。

アラームの設定方法

ある時刻にアラームが鳴るように設定したい場合は3-43ページを参照してくだい。

Personawareの電卓機能（ローン計算）

電卓のローン計算で新しい買物のローンを計算したい場合は3-48ページを参照してください。

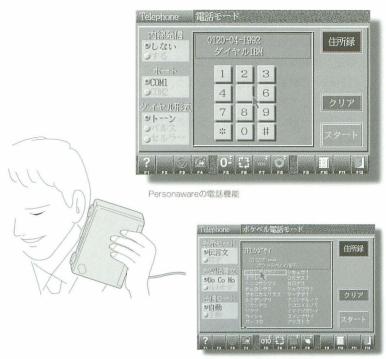
ゲームの使い方

ゲームで論理的な思考を磨きたい場合は3-52ページを参照してください。

スマート・ピコ・フラッシュの使い方

スマート・ピコ・フラッシュを追加してPalm Top PCを拡張する場合は4-15ページを参照してください。

電話ボックスでPalm Top PCを使う

Palm Top PCの機動性はまだまだあります。中でも電話を内蔵していることが、Palm Top PCの特徴です。Personawareの住所録の電話番号を使って、電話が直接かけられます。Palm Top PCを耳に当ててすぐ使える便利さは、使った人でなければ分かりません。街中で見かけるISDN電話ボックスに飛び込んだら、モジュラー・ジャックにケーブルを差すだけ。住所録から名前を頭出し機能で瞬時に見つけ出して、自動的にダイアルをしてくれます。

Personawareの電話機能

Personawareのポケベル機能

またPersonawareのTelephoneにはポケベル機能が付いています。相手がメッセージ機能付きポケベルを持っている場合は、そのポケベルにメッセージを送ることもできます。住所録の分類機能とシークレット機能を使って、人脈管理に大きな力を発揮してください。

住所録の使い方

住所録への入力などの基本的な操作を知りたい場合は3-22ページを参照してください。シークレット機能は4-5ページを参照してください。

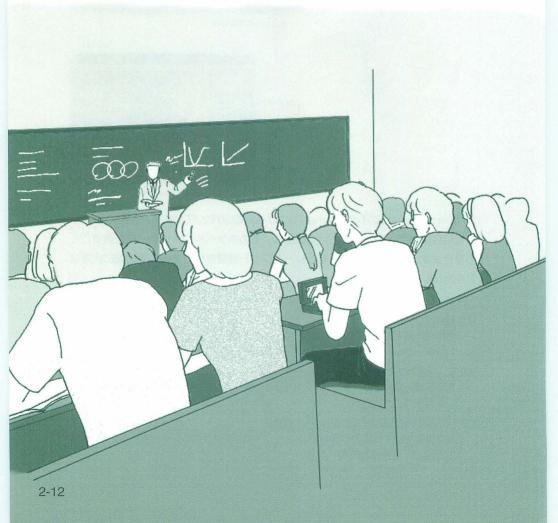
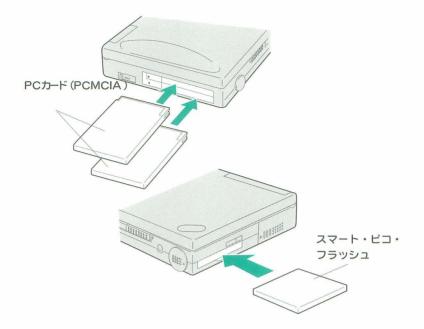
Wing Jack（ウィング・ジャック）の使い方

電話回線を接続するファックス／モデム・ポートの使い方を知りたい場合は4-9ページを参照してください。

Personawareの電話（Telephone）機能

電話機能を使って電話をかけたり、ポケベル機能でポケベルにメッセージを送る場合は3-38ページを参照してください。

教室でPalm Top PCを使う

もちろん学校の授業でも威力を発揮するのがPalm Top PCです。Palm Top PCの電卓機能は通常の計算機能だけではありません。関数電卓機能、度量衡換算機能など、便利な機能が内蔵されています。プログラミングをする人なら、16進数（Hex）の計算機能も便利でしょう。またノート機能を活用して、科目ごとに情報を整理しておきましょう。並べ替えの機能で表題順に並べ替えれば、科目ごとの情報も一目りょう然です。予定表を活用すれば、授業の時間割表をつくることもできます。

授業中のメモはそのままエディターで入力したり、メモ・パッドで数式を書いたりして書き取れます。オプションの各種PCカードを接続すれば、授業中に黒板に書かれた内容だって、そのままカメラから取り込むなどということも、決して夢ではありません。

Personawareのノート機能

ノート機能を使って、科目ごとに情報を分類したい場合は、3-16ページを参照してください。

Personawareの電卓機能（関数電卓機能）

電卓の関数電卓機能で数学の計算をしたい場合は3-45ページを参照してください。

Personawareの電卓機能（度量衡換算機能）

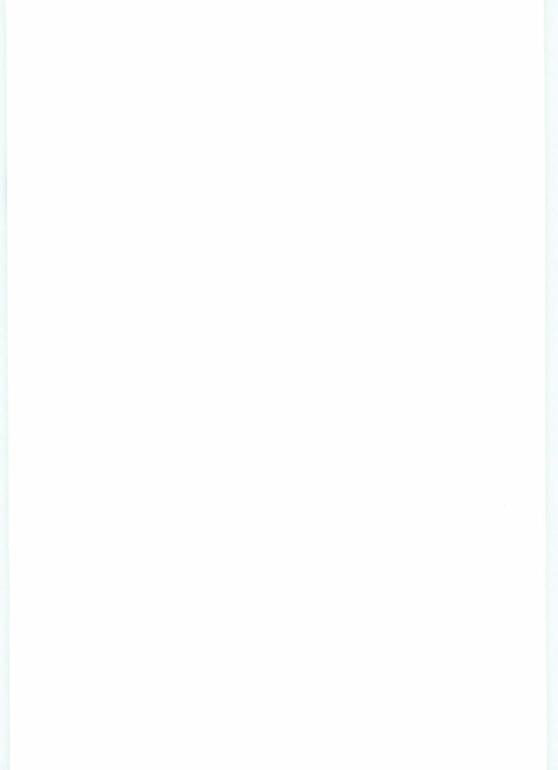
電卓の度量衡換算機能で物理の計算をしたい場合は3-47ページを参照してください。

Personawareの電卓機能（Hex計算機能）

電卓のHex計算機能で16進数の計算をしたい場合は3-45ページを参照してください。

PCカード（PCMCIA）の使い方

Palm Top PCにオプションのPCカードを差し込んで、もっとさまざまな機能を使う場合は4-12ページを参照してください。

第3章

Application
アプリケーション

この章では、Parsonawareなど、本体付属の
プログラムの使い方を詳しく説明しています。

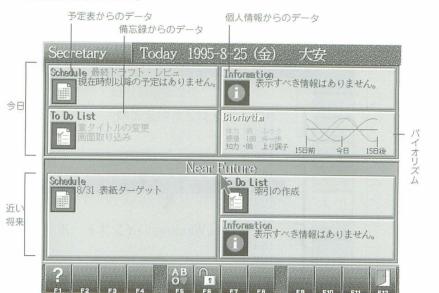
Personawareを使う

Palm Top PCが始動すると、自動的にPersonawareが現れます。Personawareは個人情報管理と、Palm Top PCを活用する各種アプリケーションがひとつのパネルにまとめられたものです。すべてのアプリケーションは、このパネルから始動できます。ここでは例としてキーボードでの操作方法を説明します。

基本操作

↑ ↓ ← →	上下左右のメニュー項目を選択します。
Home End	メニュー項目の先頭と最後へカーソルを移動します。
Enter	Enterキーを押すと、各アプリケーションが実行されます。
F12	ファンクション・キー領域を表示しファンクション・キーが使用できるようにします。
F11 F11	F11キーを2回押すと、メニューから電源をオフにできます。またFn+F12キーでPersonawareの使用状態を保存して終了することもできます。

秘書機能を使う

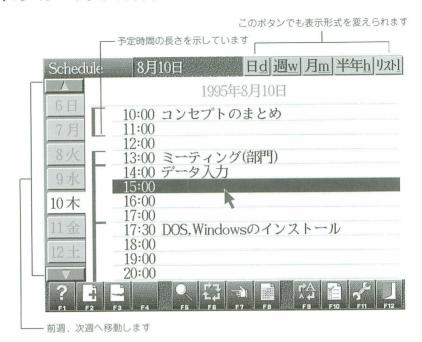
Personawareから予定表や備忘録、個人情報などを登録しておくと、F10キーで秘書機能が活用できます。

基本操作

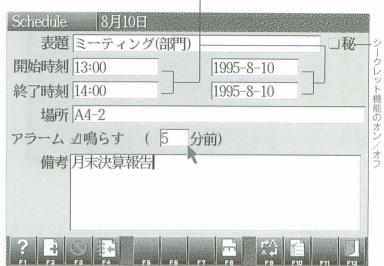
F10	秘書機能が表示されます。各項目の意味は図に示します。バイオリズムは個人情報のデータをもとにしています。各情報のソースはアイコンで示しています。
F5	血液型による占いを表示します。（個人情報で血液型を入力する必要があります。）
F6	Informationの欄に「（秘密情報 PF6で解除）」と表示されている場合にF6キーを押して個人情報で登録したパスワードを入力すると、実際の情報が表示されます。 この情報は個人情報画面で「秘」にチェック・マークを付けた情報に該当します。（ただし本人の誕生日と血液型は表示されません。）
F12	秘書機能を終了します。

予定を入れる

予定表への入力は、日付と日時を合わせた後に行います。日付と日時を設定して（⇒3-43ページ）おくと、入力するときにその時間の画面が瞬時に現れます。

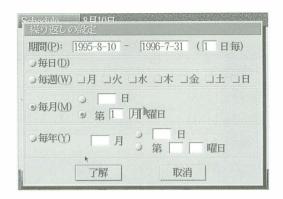
基本操作

Schedule	PersonawareからScheduleを選択します。
↑ ↓	入力する時間を選択します。
← →	入力する日付も変更できます。
Enter	予定表編集画面になります。
Tab→| Tab|←	入力する項目を選択します。戻りたい場合はShiftキーを押しながらTab|←キーを押します。

特定の日のスケジュールを入力する

ここでは例として、1995年8月10日の13：00から14：00までの会議のスケジュールを入力してみます。

操作手順

ミーティング（部門）	「表題」には会議の趣旨などを入れます。
Tab Tab Tab	「開始時刻」は選択した時間なので、そのまま次の「終了時刻」を選択します。
14 Tab	反転している場合はそのまま時刻を入力すると、修正されます。数字はPage Up、Page Downでも変更できます。
A4-2 Tab	「場所」には表題のイベントが行なわれる所を入力します。
スペース	「アラーム」のオン/オフはスペース・キーで行います。
Tab Tab	「備考」を選択します。
月末決算報告	備考がそのイベントの覚書などを入力しておくと便利です。
F4	入力した項目を予定表に追加します。

定期的な予定を入力する

ここでは例として、毎月第1月曜日9:00の定例会議の予定を入力します。

操作手順

定例会議	「表題」には会議の趣旨などを入れます。
Tab→I Tab→I	「開始時刻」は選択した時間なので、そのまま次の「終了時刻」を選択します。
12 Tab→I	反転している場合はそのまま時刻を入力すると、修正されます。
会議室B-1 Tab→I	「場所」には表題のイベントが行なわれる所を入力します。
スペース	「アラーム」のオン/オフはスペース・キーで行います。
F8	繰り返しを指定するパネルが表示されます。
Tab→I 数回	「期間」へカーソルを移動します。
1996-7-31	定期的な予定を入れる期間を入力します。
Tab→I 数回	「毎月」の設定までカーソルを移動します。
1 Tab→I 月	第1月曜日に設定してパネルを閉じます。
Enter	「了解」を押します。
F4	入力した項目を予定表に追加します。

休暇などを連続で入力する

ここでは例として、1995年7月10日の休暇と、1995年7月31日から1995年8月4日までの休暇を入力してみます。

操作手順

休暇	「表題」に入れます。
Tab→❘ Backspace	「開始時刻」と「終了時刻」が「なし」になります。このように時間制限がない予定を入れる場合は「なし」に設定します。同様に日付を設定します。（日付は1995-7-10、1995-7-10）
F2	入力した項目を予定表に追加します。F2キーを押すと、継続して入力できます。
休暇	「表題」に入れます。
Tab→❘ Backspace	「開始時刻」と「終了時刻」が「なし」になります。このように時間制限がない予定を入れる場合は「なし」に設定します。同様に日付を設定します。（日付は1995-7-31、1995-8-4）
F4	入力した項目を予定表に追加してもとの画面に戻ります。

予定を見る

予定表はスケジュールを様々な角度から一覧できます。キー操作を覚えておくと、多角的なスケジュールの検討ができるので便利です。

＊この画面は週表示の例です。

基本操作

Schedule	PersonawareからScheduleを選択します。表示は前回選択した日、週、月、半年、リスト表示のどれかの状態に保たれています。
d w m h l	それぞれ日、週、月、半年、リスト表示に切り替わります。
F9	文字の大きさを変更します。
← →	日、週、月、半年表示では前後の日付に移動します。
p n	週表示では前週と次週へ移動します。
Tab→|	日、週表示では1日全体に対して設定した予定（たとえば休暇など）の項目へカーソルを移動します。戻りたい場合は、Tab→|キーを押します。

予定を多角的に見る

ここでは例として、スケジュールを多角的に見る方法を説明します。

＊この画面は月表示の例です。

操作手順

キー	説明
w	週表示になります。週全体でどのような仕事の配分になっているかを一覧できます。
p n	前週と次週を確認します。前後の週からの関連事項も一瞬にして一覧できます。
F8	今日の日付に戻ります。いろいろな日付に移動しても、このキーひとつで今日の日付に戻れます。
m	月表示になります。月全体での仕事の配分が分かります。
F7	2ヶ月のカレンダーが表示されジャンプ・モードになります。（このモードからはもう一度F7キーを押すと抜けられます。）
↑ ↓ ← →	日付を移動します。これで好きな日付に移動できます。
Page Up　Page Down	2ヶ月前、2ヶ月後のカレンダーを表示します。
Enter	カーソルのある位置の日付に移動します。
F9 数回	最適な大きさのフォントを選択して日表示で一覧します。
F6 数回	F6キーでも日、週、月、半年、リスト表示に順番に切り替わります。

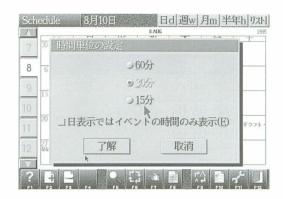
予定を検索する

ここでは例として、「原稿」という字で予定表内を探してみます。前方への検索のみなので、探したい単語がありそうな月の最初までカーソルを移動してから検索します。

操作手順

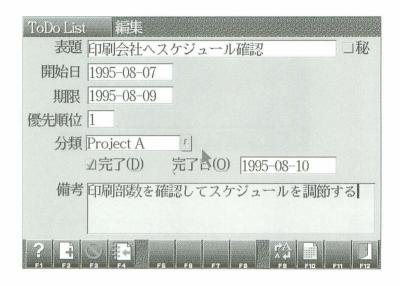
F5	「文字列の検索」パネルが表示されます。
原稿	検索する文字列を入力します。「大文字と小文字を区別する」は半角英数字の検索でのみ有効です。
Enter	最初に見つかった日付にカーソルが移動します。日、週、月表示で同様になります。
F5	先程入力した「原稿」という文字列が残っているので、そのまま次を検索します。
Enter	次に見つかった「原稿」という文字列のある日付にカーソルが移動します。以上の操作を繰り返すことで、次々に検索できます。

予定表機能を設定する

予定表機能の設定はF11キーに割り当てられています。

操作手順

F11	「予定表の設定」パネルが表示されます。
T	「時間単位」が選択されます。
↓	時間単位を「30分」に変更します。
Enter	「了解」にカーソルを移動して「時間単位の設定」パネルを閉じます。これで日表示／週表示が30分ごとに変更になります。これ以外にも同様な操作で予定表のファイル、シークレット機能、印刷、休日、年号などさまざまな設定が行えます。

備忘録を入れる

備忘録は、しなければならない作業を、まとめて管理するためのアプリケーションです。予定表と備忘録は瞬時にF10キーで切り替わるので便利です。事前にシステムの日付と時刻を正確に入れておく必要があります。

基本操作

ToDo List	Personawareから備忘録を選択します。
↑ ↓	入力済みの作業間を移動します。（備考欄は除く）
Enter	備忘録の編集画面になります。
Tab→| Tab|←	入力する項目を選択します。戻りたい場合はShiftキーを押しながらTab|←キーを押します。
スペース	「秘」や「完了」のチェック・マークのオン/オフはスペース・キーで行います。
Page Up Page Down	「開始」、「期間」では1日ごとに日付を前後に変更できます。

備忘録を分類して入れる

ここでは例として、1995年8月9日の朝にその日の備忘録を入力する操作をしてみましょう。

操作手順

操作	説明
スケジュールの見直し作業	「表題」には、今日以降しなければならない作業を入れます。
Tab Tab Tab	「開始日」は今日になっているので、そのまま次の「期限」を選択します。
Page Down	Page Up,Page Downキーで日付が一回押すごとに1日ずつ前後に変更できます。
Tab Page Down	Page Up,Page Downキーで優先順位が一回押すごとに1ずつ前後に変更できます。「優先順位」には1-9の数字を半角で入力することもできます。
Tab Project A	「分類」には分類したい項目名を入力します。もちろん漢字も入力可能です。一度入力してあるものは、PageUp、PageDownキーで選択できます。
F4	保管の確認パネルが出るのでEnterキーを押すと保管されます。続けて別の作業も入力したい場合にはF2キーを押すと、保管後新しい編集画面になります。
F6	分類タブを表示します。

備忘録を見る

備忘録で仕事を管理すると、アイコン表示によって、やらなければいけない作業の優先度が一目りょう然になります。またタブで分類できるので大変便利です。

ToDo List 一覧

完了済み — ✓ 1 1995-08-09 スケジュールの見直し作業
✓ 1 1995-08-09 印刷会社へスケジュール確認
予定日を過ぎている — 1 1995-08-18 章タイトルの変更
✓ 2 1995-08-09 電話機能を先行して書くこと
✓ 1 1995-08-08 訂正個所のまとめ作業
予定日 — 2 1995-08-24 画面取り込み
予定日まで日がある — 2 1995-08-30 索引の作成
3 1995-08-31 Project B表紙原案作成

F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12

基本操作

ToDo List	Personawareから備忘録を選択します。
← →	タブと項目のカラムをカーソルが移動します。
↑ ↓	項目のカラムにあるときは項目選択、分類タブのカラムにあるときは分類タブの選択をします。
Page Up Page Down	項目のカラムにある場合は項目をスクロールします。分類タブのある場合は、分類タブをスクロールします。
F6	左側に分類のタブが表示されます。このようにして作業を分類できます。
←	分類タブを選択します。
Ctrl + → を数回	分類タブの幅を変更して「Project A」がすべて見えるようにします。このようにCtrl+←やCtrl+→で、分類タブの幅を変更することができます。

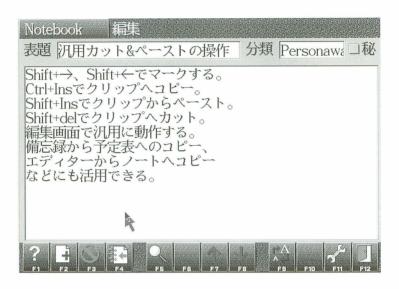
備忘録を検索する

備忘録に入力したデータの詳細を忘れてしまったような場合には、検索によって探し出すことができます。例として備考に入れた「Option」を探し出してみます。

操作手順

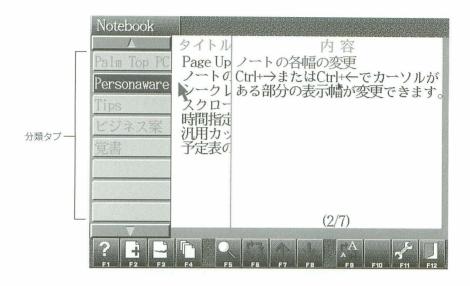
F6	分類タブが表示されている場合は、その表示を消します。これで全体に対する検索ができます。どの分類内にあるかが分かっている場合には、分類タブを表示させたまま、各分類内だけでも検索できます。
F5	「文字列の検索」パネルが表示されます。
Option	検索する文字列を入力します。
Tab→| スペース	「大文字と小文字を区別する」にチェック・マークが付きます。この選択は半角英数字の検索でのみ有効です。
Enter	最初に見つかった項目にカーソルが移動します。
F5	先程入力した「Option」という文字列が残っているので、そのまま次を検索します。
Enter	次に見つかった「Option」という文字列のある項目にカーソルが移動します。以上の操作を繰り返すことで、次々に検索できます。

ノートを書き入れる

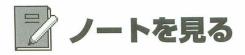
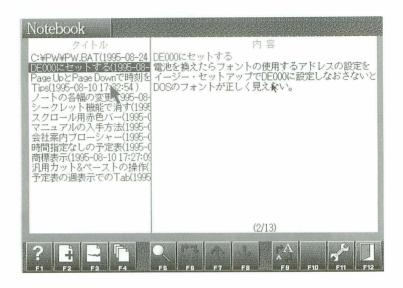
ノートを使うと、覚書として個人的に関心のある情報をまとめて分類して管理できます。この個人情報データベースを活用することで、頭の中もスッキリです。

基本操作

Notebook	Personawareからノートを選択します。
↑ ↓	入力済みの項目間を移動します。
Enter	ノートの編集画面になります。
Tab→| Tab|←	入力する項目を選択します。戻りたい場合はShiftキーを押しながらTab|←キーを押します。
スペース	「秘」のチェック・マークのオン/オフはスペース・キーキーで行います。これはシークレット機能です。
Page Up Page Down	1画面以上の文章を入力した場合にスクロールします。

ノートを分類して入れる

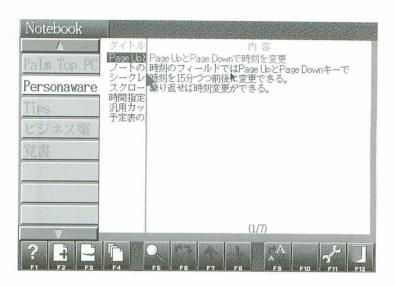
ここでは例として、Personawareに関する情報を入力してみましょう。

操作手順

ノートの各幅の変更	「表題」には、覚書として分かるタイトルを付けます。
Tab→| Personaware	「分類」にカーソルを移動し「Personaware」と入れます。これが分類タブの項目になります。
Tab→| Tab→|	「秘」機能は飛ばして、文字入力のフィールドにカーソルを移動します。
Ctrl ＋→・・・	覚書の本文を入力します。
F4 Enter	保管の確認パネルが出るのでEnterキーを押すと保管されます。続けて別の項目も入力したい場合にはF2キーを押すと、保管後新しい編集画面になります。
F6	分類タブを表示します。

ノートを見る

ノートで個人情報を管理すると、各種の情報がきれいに整理され一覧できます。

基本操作

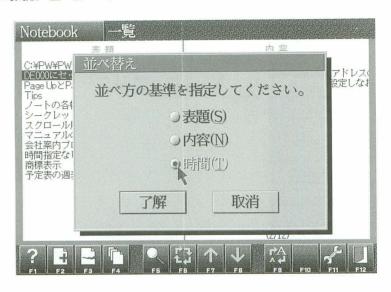
Notebook	Personawareからノートを選択します。
← →	分類タブとタイトルのカラムをカーソルが移動します。
↑ ↓	タイトルのカラムにあるときはタイトル選択、分類タブのカラムにあるときは分類タブの選択をします。
Page Up　Page Down	カーソルがタイトルのカラムにあるときはタイトル・リストが1画面以上ある場合はタイトル・リストをスクロールします。F7、F8キーも同様です。 カーソルが分類タブのカラムにあるときは、分類タブが一画面以上にある場合には、分類タブをスクロールします。F6キーで分類タブを表示します。
F9	文字の大きさを変更します。

ノートを分類して見る

ノートが分類されて入力してある場合に、どのように情報を見渡すかを説明します。

操作手順

[F6]	分類タブを表示します。
[←]	分類タブへカーソルを移動します。
[Ctrl]+[→]数回	タブの幅を変更して各分類がすべて見えるようにします。このようにCtrl+→キーやCtrl+←キーで、分類タブの幅を変更できます。
[↑][↓]	分類タブ間を移動します。それにともなって、右側のタイトルと一覧が変わります。
[→]	タイトルのリストへカーソルを移動します。
[Ctrl]+[←]数回	タイトルのカラムの幅を縮めます。タイトルは右側の内容の上にも表示されるので、タイトルのカラムは少なくても右側で確認できます。
[Enter]	カーソルのある項目の内容がフルスクリーン（編集画面）で表示されます。
[F3]	もとの画面に戻ります。

ノートを並べ替える

ノートに入れた情報は表題、内容、時間順に並べ替えることができます。ここでは時間順に並べ替えを試します。

操作手順

F4	「並べ替え」パネルが表示されます。
↓ 数回	「時間順」を選択します。
Tab→| Enter	「了解」が押されてタイトルが並べ替えられます。
Ctrl + → 数回	タイトルのカラムを広げると、時間順に並び替えられていることが確認できます。

ノートを検索する

個人情報で入力したデータの詳細を忘れてしまったような場合には、検索によって探し出すことができます。例として「ノート」をキーワードにノートに関する情報を探し出してみます。

操作手順

F6	分類タブが表示されている場合は、その表示を消します。これで全体に対する検索ができます。どの分類内にあるかが分かっている場合には、分類タブを表示させたまま、各分類内だけでも検索できます。
F5	「文字列の検索」パネルが表示されます。
ノート	検索する文字列を入力します。
Tab→ Tab→	「大文字と小文字を区別する」は全角文字では必要ないためスキップします。この選択は半角英数字の検索でのみ有効です。
Enter	検索が瞬時に行われ、最初に見つかったタイトルにカーソルが移動します。
F5	先程入力した「ノート」という文字列が残っているので、そのまま次を検索します。
Enter	次に見つかった「ノート」という文字列のあるタイトルにカーソルが移動します。以上の操作を繰り返すことで、次々に検索できます。

住所録を入れる

Personawareの住所録は電話、ファックス、電子メールと連動できるすぐれモノ。ですから重要な人は必ずアドレス帳に入れておきましょう。

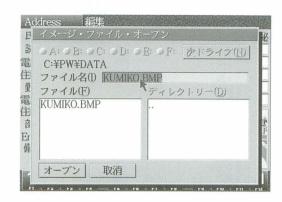
郵便番号を入れると、住所を一覧から選択できます

注）これは住所録の例です。写真の人物と内容は関係ありません。

基本操作

Address	Personawareから住所録を選択します。
F2	住所録の編集画面になります。
Tab→| Tab|←	入力する項目を選択します。戻りたい場合はShiftキーを押しながらTab|←キーを押します。
スペース	「秘」のチェック・マークのオン/オフはスペース・キーで行います。

住所録にイメージ・ファイルを入れる

住所録に記入する人の顔写真のイメージをビットマップ・ファイルとして用意すれば、住所録に貼り込むことができます。

操作手順

阿部久美子	「氏名」を入れます。
[Tab→|] 会社関係	「分類」には会社関係、個人など分類しやすい項目を入れます。
[Tab→|] [Tab→|] あべくみこ	「読み」は漢字の名前の並べ替えに使用するので、必ず入れるようにします。
[Tab→|] 1969-1-20	生年月日は年、月、日の順にこのような形式で入力します。
[Tab→|]	Tab→| キーを使いながらそれぞれの項目を入力します。備考まで入力します。
[F11] [O]	「ファイルの指定」パネルを表示します。
	Tab→| キーとEnterキーを使ってイメージのファイル名を指定します。ファイルの形式はWindowsのVGA16色（150×150）のBMPファイル*[1]です。
[Enter]	これで写真が住所録に追加されます。
[F4]	データが保管されます。続けて別の作業も入力したい場合にはF2キーを押すと、保管後新しい編集画面になります。

*[1] BMPファイルの作成方法は本体内のREADME.TXTファイルを参照してください。

住所録を見る

住所録は自分の見やすいように、リストに出る項目を自由にカスタマイズする機能があります。ここではそれを説明します。

Address　一覧

名前	電話1	FAX 1	住所1
カストマー・サービス・インフォメーション・センター	0120-550-132		
紀伊國屋書店 東京営業所	03-3808-1645	03-3808-0180	
ダイヤルIBM	0120-04-1992		
Personaware			
ぱそこん教室大阪	06-532-5550		
ぱそこん教室静岡	054-254-7211		
ぱそこん教室東京	03-3585-2150		
ぱそこん教室東北	022-222-5553		
ぱそこん教室富山	0764-41-291		
ぱそこん教室名古屋	052-564-970		
ぱそこん教室新潟	025-247-7416		
ぱそこん教室広島	082-262-5540		
ぱそこん教室福岡	092-472-5550		
ぱそこん教室北海道	011-898-5550		
ぱそこん教室横浜	045-325-5550		
PCソフトウェア・サービスセンター	03-3798-9340		
PCソフトウェア・サービスセンター OS関連	03-3798-9352		
PC DOCK秋葉原	03-3258-7025		千代田区外神田4-3-

あ か さ た な は ま や ら わ

F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12

基本操作

Address　Personawareから住所録を選択します。

F9 数回　一覧が見やすいようにフォントの大きさを変更します。

↑ ↓　氏名間を移動します。

Page Up Page Down　住所録が1画面以上ある場合は住所のリストをスクロールします。

Tab→| Tab|←　住所録の各項目のカラム間をカーソルが移動します。

F11　「一覧表設定」を選択すると、一覧表示される内容を変更することができます。

Ctrl ＋ → 数回　カーソルのある列の幅が変更できます。

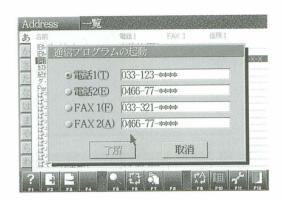
住所録を検索する

住所録には直接文字入力による頭出し検索機能と、汎用の文字列検索機能があります。それらを順番に試してみましょう。

操作手順

[W] [a] または [わ]	「わ」のタブが前面に出て、「わ」行のアドレスの頭出しができます。このように文字を直接入力して頭出しを行います。（ローマ字入力も可能）
[F5]	「文字列の検索」パネルが表示されます。
パワーユーザー	検索する文字列を入力します。
[Tab→] [Tab→]	「大文字と小文字を区別する」は全角文字では必要ないためスキップします。この選択は半角英数字の検索でのみ有効です。
[Enter]	検索が瞬時に行われ、最初に見つかった氏名にカーソルが移動します。氏名以外の文字列も検索対象となります。
[F5]	先程入力した「パワーユーザー」という文字列が残っているので、そのまま次を検索します。
[Enter]	次に見つかった「パワーユーザー」という文字列のある住所録の氏名にカーソルが移動します。以上の操作を繰り返すことで、次々に検索できます。

住所録から電話をする

アドレス帳に入れた電話番号を利用して、そのまま電話をかけてみましょう。もちろん、事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

操作手順

Address	Personawareから住所録を選択します。
↑ ↓	氏名間を移動し、かけたい相手を選択します。
F10	「通信プログラムの起動」パネルを表示します。
Enter	「電話1」が選択されていることを確認してEnterキーを押すと「了解」が押されて電話の画面になります。このとき電話オフ・フック・スイッチを右にスライドします。これで電話の受話器を上げた状態です。
Enter	内蔵モデムにコマンドが送られ、電話がかかります。

重要

電話が終わったら必ず電話オフ・フック・スイッチを左にスライドして戻してください。

ヒント

内蔵モデムを使用するには4-73ページを参照して設定を行ってください。

住所録からファックスをする

アドレス帳に入れたファックス番号を利用して、そのままファックスをしてみましょう。もちろん、事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

操作手順

	Personawareから住所録を選択します。
↑ ↓	氏名間を移動し、かけたい相手を選択します。
F10	「通信プログラムの起動」パネルを表示します。
↓ 数回 Enter	「FAX1」が選択されたことを確認してEnterキーを押すと「了解」が押されてFAXの画面になります。

文書や絵などを送りたい場合は「ファックス文書を送る」(3-35ページ)を参照してください。

重要

ファックスをする場合は電話オフ・フック・スイッチが左にスライドしてあることを確認してください。これは受話器を置いた状態です。

3 Application アプリケーション

住所録を分類する

住所録に入れたデータに分類を付けている場合には、それらの分類ごとに住所の一覧を表示することができます。

操作手順

Personawareから住所録を選択します。

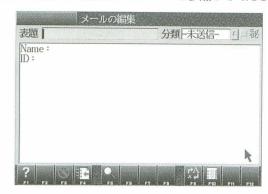
F7

「分類の変更」パネルが表示されます。

↓ ↓ Enter

「会社関係」が選択され「了解」が押されます。この操作によって一覧には会社関係の人の住所のみが表示されます。もとに戻すには同じ操作で「分類の変更」パネルから「(分類しない)」を選択し、「了解」を押します。

電子メールを書く

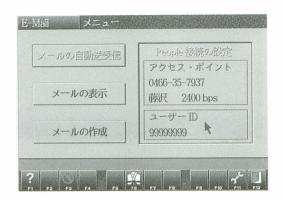
電子メールを送るには、最初にメールを用意しておく必要があります。
Personawareの電子メール機能はPeople専用になっています。People以外のパソコン通信へ接続する場合は3-33ページを参照してください。

操作手順

操作	説明
E-Mail	Personawareから電子メールを選択します。
Tab Tab Enter	「メールの作成」にカーソルを移動し選択します。新しいメールの編集画面になります。
F10	アドレス帳のデータの一覧が表示されます。
↓ ↑ Enter	メールを送りたい相手にカーソルを合わせてEnterキーを押すと、そのIDの氏名が編集画面に取り込まれます。その下に内容を書いてください。メールの内容、表題は自由に編集できますが、最初の2行（IDと氏名）を変更すると正しく送信できなくなる可能性がありますので注意してください。作成を中止するときはF3キーです。
Tab 次回のミーティング・・・	ここで表題を入力します。
F4	作成されたデータをメールとして保管するにはF4キーを押します。ここで保管された「＝未送信＝」の分類に含まれるメールは「メールの自動送受信」を実行すると、それぞれ送り先に送信されます。

重要

E-Mailメニュー画面はF11キーでアクセス・ポイントをPeople以外を選択すると、表示されなくなります。またユーザIDの初期値として登録されているPAMGUESTは、Peopleのオンライン・サインアップ用IDです。

電子メールを自動送受信する

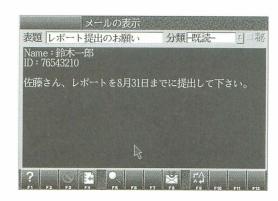
「電子メールを書く」（⇒3-29ページ）でメールを作成しておくと、電子メールを送信できます。Personawareの電子メール機能はPeople専用で、最短の接続時間で電子メールの送受信を自動的に行います。事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

操作手順

E-Mail	Personawareから電子メールを選択します。
Enter	「メールの自動送受信」が選択されます。F11キーで設定したユーザーIDとパスワード、電話番号を使用して、自動的にPeopleに接続し、電子メールの送信が行われます。受信のメールがある場合は、自動的にPalm Top PCへダウンロード（PC側へ読み込む）します。

重要

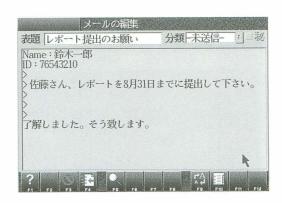
電子メールをする場合は電話オフ・フック・スイッチを左にスライドしてあることを確認してください。これは受話器を置いた状態です。

電子メールを見る

送受信した電子メールは、一覧から選択してみることができます。
Personawareの電子メール機能はPeople専用になっています。

操作手順

E-Mail	Personawareから電子メールを選択します。
Tab Enter	「メールの表示」にカーソルを移動し選択します。「=未読=」、「=既読=」、「=未送信=」、「=既送信=」の順で分類を検索し、見つかった分類ごとに一覧が表示されます。
↑ ↓ Enter	見たいメールのタイトルを矢印で選択してEnterキーでを押すと、その内容を見ることができます。ここでの操作はノート機能での操作とまったく同じです。ただし、ここでは編集はできません。
F3	電子メールの表示を終了します。「=未読=」の分類にあったメールは自動的に「=既読=」の分類に移動します。

電子メールを返信をする

自動的に送受信した電子メールの中に、返信が必要なものがあった場合は、その電子メールを利用して、簡単に返信を行うことができます。

操作手順

E-Mail

Personawareから電子メールを選択します。

Tab→| Enter

「メールの表示」にカーソルが移動し選択します。「=未読=」、「=既読=」、「=未送信=」、「=既送信=」、の順で分類を検索し、見つかった分類ごとに一覧が表示されます。

↑ ↓ Enter

見たいメールのをタイトル矢印で選択してEnterキーを押すと、その内容を見ることができます。ここでの操作はノート機能での操作とまったく同じです。ただし、ここでは編集はできません。

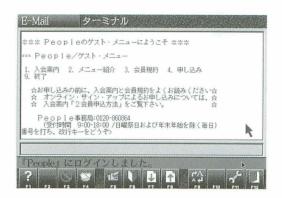
F8

返信メールを編集する画面になります。表示されていた各行の先頭に“>”マークが付きます。メールの内容・表題は自由に編集できますが、最初の2行（IDと氏名）を変更すると正しく送信できなくなる可能性がありますので、注意してください。返信を中止するときはF3キーを押します。

F4

作成されたデータを返信メールとして保管するにはF4キーを押します。ここで保管された「=未送信=」の分類に含まれるメールは「メールの自動送受信」を実行すると、それぞれの送り先に送信されます。

パソコン通信をする

Personawareの電子メールには、もうひとつ汎用簡易ターミナル機能があります。パソコン通信を行う場合には、このターミナル機能と内蔵モデムを利用します。事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

操作手順

Personawareから電子メールを選択します。

F6

「ターミナル」パネルが表示されます。

F4

内蔵モデムにコマンドが送られ、F11キーの設定で指定したアクセス・ポイントへ接続します。あとはパソコン通信のコマンドをキーボードから入力します。ファイルのダウンロードとアップロードはF7とF8キーで行います。

F3

電話回線との接続を切ります。

重要

パソコン通信する場合は電話オフ・フック・スイッチを左にスライドしてあることを確認してください。これは受話器を置いた状態です。

ファックス文書を書く

ファックスで文書を送るには、最初に文書を用意しておく必要があります。文書作成はPersonawareのエディターまたはファックスからもできます。ここではファックスから作成する手順を説明します。

送る内容や順序の違いを選択します。

操作手順

FAX	Personawareからファックスを選択します。
F10	「文書作成」にカーソルを移動し選択しても同じです。
F8 F4 または → F4	「文字+絵」を選択して作成画面になります。これはエディター機能の画面と操作方法はまったく同じです。
明日のミーティングの・・・	ファックスする文章を入力します。
F4 ↑ ↓	保管すると、次に絵を指定するための手書きメモの画面になります。「絵」とはPersonawareの「手書きメモ」で書いたイメージ・データの白黒 2 値のビットマップ・ファイルのことです。↑↓キーで送りたい絵を選択します。
F4	編集作業を終了します。ファックスのメイン画面が表示されます。ファックスの情報に紙が挿入された絵になります。
1234567	ファックス先の電話番号を入力します。
F4	「スタート」にカーソルを移動し選択しても同じです。入力した電話番号にファックスが送られます。

ファックス文書を送る

ファックスで文書を送るには、最初に文書を用意しておく必要があります。文書作成はPersonawareのエディターまたはファックスからもできます。ここではエディターで事前に書いておいたファイルを送る方法を説明します。事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

操作手順

FAX	Personawareからファックスを選択します。
F6	送る文書ファイルと絵ファイル（白黒ビットマップ・ファイル）を指定するパネルが表示されます。事前にエディターなどで書いておいたファイルのファイル名を「ファイルをリストに追加」で選択します。文書を作成してから送る場合はF10キーを押します。
F4	指定を終了してファイル指定のパネルから、ファックスのメイン画面に戻ります。
F9	「住所録」にカーソルを移動し選択しても同じです。
↑ ↓ Enter	アドレス帳から送り先のファックス番号を選択します。電話番号が表示されたファックス画面になります。
F4	入力した電話番号にファックスが送られます。

重要

ファックス文書を送るには電話オフ・フック・スイッチを左にスライドしてあることを確認してください。これは受話器を置いた状態です。

ファックス文書を受ける

Personawareのランチャーは電話が着信すると、自動的にファックスの受信機能が実行されます。画面はファックス機能のメイン画面になります。事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

操作手順

受信後5秒待つ	受信完了のメッセージが表示された後、5秒後に自動的にファックス・ビューアーが起動します。
F9 F9 F9	受け取ったファックスのイメージが画面に表示されます。縮小率は33％（デフォルト）です。F9キーで50%、100%と変更できます。
↑ ↓ ← →	ビュアーの画面内のイメージを上下左右にスクロールします。ビュアーの画面の大きさは576×330ドットです。
Page Up Page Down	表示中のファックスの前ページ、次ページを表示します。F7、F8キーを押しても同じです。
F4	表示しているファックスのデータを保存します。

重要

- 受信文書はF4キーで保存しなければ、消去されます。
- ファックス文書を受けるには、電話オフ・フック・スイッチを左にスライドしてあることを確認してください。これは受話器を置いた状態です。

ファックス・サービスを使う

ファックスには手動でファックスを受信するファックス・サービスを利用するためのボタンが用意されています。ここではその操作方法を説明します。事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

操作手順

FAX	Personawareからファックスを選択します。
F6	「FAXサービス」にカーソルを移動し選択しても同じです。
9876543 F4	ファックス・サービスを提供している電話番号を入力しF4キーを押すと電話が接続します。「スタート」にカーソルを移動して選択しても同じです。サービスの音声に従ってキー操作をします。
F4	データが送られ始めたらF4キーを押して受信を開始します。「スタート」ボタンを押しても同じです。
受信後5秒待つ	受信完了のメッセージが表示された後、5秒後に自動的にファックス・ビューアーが起動します。
F4	表示しているファックスのデータを保存します。受信文書は保存しないと消去されます。

重要

・受信可能なページサイズはA4で長さは3000ラインまでです。3000ラインを超えたページがある場合は、その時点で受信は中断し回線を切ります。

・電話オフ・フック・スイッチが左にスライドしてあることを確認してください。

電話をかける

Personawareの電話機能は、住所録と連動して電話がかけられるので大変便利です。電話番号は直接キーボードからも入力できますが、普通は住所録に事前に入力しておいて電話します。

基本操作

F10	カーソルで「住所録」を選択してても同じです。アドレス帳の一覧を表示します。
↓ ↑ Enter	↓ ↑キーで選択した電話番号と氏名がダイヤルの上部に表示されます。このとき、電話オフ・フック・スッチを右へスライドしてください。
Enter	内蔵モデムにコマンドが送られ、電話がかかります。電話の使い方は4-9ページを参照してください。

重要

電話が終了したら、必ず電話オフ・フック・スイッチを左にスライドして戻しておいてください。

補足

ダイヤル形式で「セルラー」を選べるのは、ATDコマンドにVオプションを受けつけて、「音声通信モードによる接続」をサポートした携帯電話接続用PCカードと、それに対応した携帯電話の組合せに限ります。（例：NTT DoCoMoデジタルムーバHYPERシリーズと同社のData/FAXカード9600の組み合わせ）また、「セルラー」を選ぶと、内線発信が「する」の設定は無視されます。

ポケベル機能を使う

Personawareの電話機能には、NTT DoCoMoと東京テレメッセージの2つの方式で、ポケベルにメッセージを送る機能があります。ここではその操作方法を説明します。事前にWing Jackからケーブルを電話回線に接続しておいてください。（⇒4-9ページ）

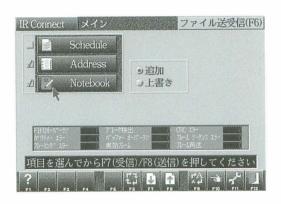
基本操作

Telephone	Personawareから電話を選択します。
F10	「アドレス」を選択してアドレス帳の一覧を表示します。
↓ F10 Enter	↓↑キーで選択した電話番号と氏名がダイヤルの上部に表示されます。
F6	電話が接続したら「ポケベル・メッセージ送信」画面に切り替えます。スピーカーからの声に従って待ちます。
↓ ↑ ← → Enter	送りたいメッセージを選択してEnterキーで「スタート」ボタンを押して送信を開始します。もちろんキーボードからメッセージを入力することもできます。この操作の繰り返しで複数のメッセージが送れます。

重要

ダイヤル形式で「セルラー」が選択されている場合は、このポケベル機能は使用できません。

赤外線でデータを送る

Personawareの赤外線通信機能は、2台のPalm Top PC間で予定表、アドレス帳、ノートのデータをやり取りできます。ケーブルをいちいち接続しなくても、高速転送できるので大変便利です。また任意のファイルを指定して転送することもできます。ここではアドレスとノートの情報を送信する手順を説明します。ハードウェアの設定については4-73ページを参照してください。

操作手順

IR Connect	Personawareから赤外線通信を選択します。受信側(サーバー側)に同じ選択をしておく必要があります。
↓ ↓ Enter ↓ Enter	[Address]と[Notebook]が選択されます。
F8	「送信」を選択します。通信が自動的に確立され、ファイルが転送されます。デフォルトでは追加になっていますが、Tab→| キーと↑↓キーとスペース・キーで「上書き」を選択すれば、ファイルを置き換えることもできます。通信がうまくできない場合はF11キーから通信速度の設定を変更して転送スピードを落としてください。また赤外線通信がうまくいかない場合は5-55ページを参照してください。

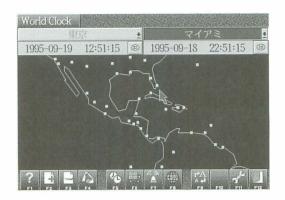
赤外線でファイルを受ける

Personawareの赤外線通信機能は、ケーブルをいちいち接続しなくても、高速転送できるので大変便利です。ここでは任意のファイルを受信する手順を説明します。ハードウェアの設定については4-73ページを参照してください。

操作手順

IR Connect	Personawareから赤外線通信を選択します。送信側（サーバー側）に同じ選択をしておく必要があります。
F6	「ファイル名指定」をカーソルで選択しても同じです。ファイル選択用の「ファイル参照」画面になります。
F8	赤外線接続されているサーバー側のディスクを選択します。「リモートファイル」を選択してても同じです。
Tab ↑ ↓ Enter	「ファイル参照」からディレクトリーを選択します。
Tab ↑ ↓ Enter	転送したいファイルを指定します。
F8	「ファイル送信」を選択します。送信先のディレクトリーを指定して、「送信」を選択します。通信がうまくできない場合はF11キーから通信速度の設定を変更して転送スピードを落としてください。赤外線通信がうまくいかない場合は5-55ページを参照してください。

世界時計を使う

Personawareの世界時計は世界300都市以上をサポートしています。時差の計算やアラームの設定などもできます。ここでは世界時計の使い方を説明します。

操作手順

World Clock	Personawareから世界時計を選択します。
→ → → F9 F9 F9	知りたい場所を中央にスクロールしてからF9キーで拡大します。この例ではアメリカのフロリダ近辺が拡大されます。
地図上をクリック!	地図上のマイアミの当たりの正方形をポインティング・ヘッドで指してクリックすると、画面右下に「マイアミ」と表示されます。
Tab→| Tab→|	デフォルトで「ニューヨーク」となっているところにカーソルが移動します。
F4 Enter	都市をニューヨークからマイアミに変更する問合せが出るので、Enterキーで「了解」を選択します。これで右側はマイアミの日時に変更されます。画面から直接都市名の右側の下矢印をクリックして、↑↓キーで都市を直接選択することもできます。サマータイムの場合は、日時表示の左側の浮輪のアイコンをクリックします。デフォルトで左側は基準都市になるので、東京以外に在住の場合は、こちらも同様な手順で変更してください。
F5 Enter	各都市を計算して表示します。

世界時計をセットする

Personawareの世界時計をセットすると、システム時計がセットされます。アラームの設定をすれば定期的にアラームも鳴らせます。

基本操作

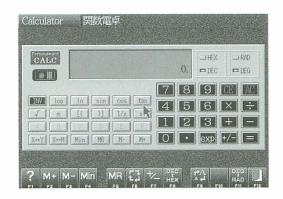
World Clock	Personawareから世界時計を選択します。
F11	「システム・クロックの設定」パネルが表示されます。
Tab→| と スペース と Page Up Page Down ↑ ↓	日付、時刻、サマータイムのオン/オフ、基準都市などを設定します。日本もデフォルトの東京以外に、札幌、仙台、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡、那覇などを基準都市にできます。Page Up、Page Downキーでスクロールして選択します。
Enter	「了解」にカーソルを移動してEnterキーで設定します。
F7	「アラームの設定」パネルが表示されます。
Tab→| と スペース と ↑ ↓	毎日の昼食時間などのアラームは、予定表よりもこちらで設定した方が便利です。

電卓で計算する

Personawareの多機能電卓は、関数計算、度量衡計算、ローン計算までこなします。16進数（HEX）計算機能もあります。

基本操作

Personawareから多機能電卓を選択します。「関数電卓」画面が表示されます。

1 - 9、+ - * /

数字キーで数字を、+-*/キーで四則演算の＋－×÷を入力します。

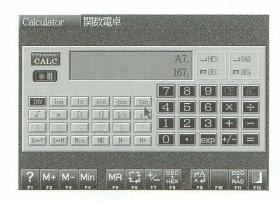
Delete、End

それぞれCE（置数クリアー）、AC（オール・クリアー）キーに対応します。

. ^ F7 Enter

それぞれ小数点、エキスポーネント（指数置数キー）、正/負符号変換、＝キーに対応します。

電卓で関数計算をする

Personawareの多機能電卓は、関数計算のほかに16進数計算なども可能です。ここで様々な関数計算を例題を使って説明します。

操作手順

(10 * 4 - 30) / 2.5 + 6 Enter	(10×4−30)÷2.5+6=10の計算です。カッコ（[()]）を使った計算は、そのままキーボードからカッコを入れるか、画面の[(、)]キーを押して入れます。
6.4 ^ 8 / 3.2 ^ F7 4 Enter	(6.4×10⁸)÷(3.2×10⁻⁴)=2.e12の計算です。前回のデータが残っている場合には、最初にEndキーでクリアーします。
10 + + 20 Enter 30 Enter 40 Enter	10+20=30、10+30=40、10+40=50という定数計算を連続して行います。数字を定数にして何度も使うときには、このように演算記号を2度押します。−×÷演算でも同様です。表示に演算記号の前にKが表示されます。
5 * (4 + 6) / / 100 Enter	$\frac{100}{5\times(4+6)}$ =2という分数計算です。このようにーーや÷÷で計算の順序を逆にできます。
1 * 2 Enter F4 2 * 3 Enter F2 3 * 4 Enter F3 F5	(1×2)+(2×3)−(3×4)=-4の計算です。メモリー機能を使用して計算しています。

3 Application アプリケーション

Minでメモリーへ記憶、M+でメモリーへ加算、M-でメモリーから減算、最後にMRでメモリーの内容を呼び出しています。

[F8] [4d] + [b2] [Enter]

4D＋B2＝FFの16進数の計算です。F8キーで10進数（DEC）、16進数（HEX）の切り替えを行います。F9キーを押すと10進数と16進数が同時表示されます。

[F11] [p] / [6] [Enter] [s]

$\sin(\frac{\pi}{6}\text{ rad})=0.5$の計算です。最初にF11キーで度（DEG）からラジアン（RAD）の計算に変更します。π（円周率）はPキー、sinはSキーに割り当てられています。cos、tanも同様に計算結果に対して操作します。

[F11] 1 [i] [s] [Enter]

$\sin^{-1} 1=90$度の計算です。最初にF11キーでラジアン（RAD）から度（DEG）の計算に変更します。INVキーで逆関数や逆三角関数を出す場合に使いIキーに割り当てられています。次にsinを押すと逆三角関数を出せます。cos、tanも同様です。

1.3 [l]

log1.3＝0.11394335230の対数関数です。

80 [n]

$\ln 80 (= \log_e 80) = 4.38202663467$の対数関数です。

5 [r] [Enter]

$\sqrt{5}=2.2360679775$のルートの計算です。

2.3 [i] [l]

$10^{2.3}=199.526231497$のlogの逆関数計算（10^x）です。

3 [F7] [i] [n]

$e^{-3}=0.04978706836$のlnの逆関数計算（e^x）です。

5 [i] [r]

$5^2=25$の計算です。$\sqrt{\ }$の逆関数（X^2）です。

4 [1/x]

1/4＝0.25という逆数の計算です。分数計算にも利用できます。1/xは画面のボタンのみで動作します。

10 [x!]

10！(＝1×2×3×・・×9×10)＝3,628,800という階乗の計算です。x!は画面のボタンのみで動作します。

電卓で度量衡計算をする

Personawareの多機能電卓には、度量衡換算の機能があります。長さ、面積、体積、重量、温度などの換算ができます。例題で使い方を説明します。

操作手順

操作	説明
Calculator	Personawareから多機能電卓を選択します。「関数電卓」画面が表示されます。
[F6]	「度量衡換算」画面に切り替わります。
[面積] 140 [平方メートル]	画面のボタンを押します。キーから入力する場合にはTab→|キーと↑↓キー、スペースキーで選択できます。
[坪]	140m²=42.35坪ということが分かります。
[*]50 [Enter]	2,117,5と答えが出ます。これは坪単価50万円で140m²の家の建築費を求める計算です。結果は2,117.5万円となります。
[End]	AC（オール・クリアー）キーで一度画面をクリアーします。
14.7 [長さ] [キロメートル] [マイル]	14.7km=9.13415652589mileという換算ができます。
[/]1 [体積] [リットル] [ガロン]	1l=0.26417078112ガロンの計算です。
	34.5767101378Mile/Gallon(mpg)という答えが出ます。これは燃費14.7km/lのmpg換算する計算です。このようにして様々な換算ができます。

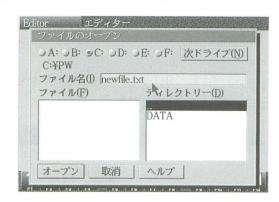
電卓でローン計算をする

Personawareの多機能電卓には、ローン計算の機能もあります。例題で使い方を説明します。

操作手順

Calculator	Personawareから多機能電卓を選択します。「関数電卓」画面が表示されます。
[F6] [F6]	「ローン電卓」画面に切り替わります。
2500000 [Enter]	「借入金額」を250万円と仮定して入力します。
4.8 [Enter]	年利は4.8%と仮定して入力します。
5 [Enter]	期間は5年で返済すると仮定して入力します。
50 [Enter]	ボーナス比は50%と仮定して入力します。結果はボーナス時142,086円、毎月の支払いが23,475円で250万円の年利4.8%のローンが5年で返済できることが分かります。ここでボーナス比をもう少し下げてみます。
[ボーナス比] 40 [Enter]	結果はボーナス時113,669円、毎月の支払いが28,170円となります。このようにしてシミュレーションをしながら返済方法を検討することが可能です。

エディターで文章を作る

Personawareのエディターは、複数ファイルの編集とカット・アンド・ペースト、文字列の検索、置換、フォントの大きさの変更など、エディターとして必要な基本機能はほとんど網羅されています。ファックスや電子メールでファイルを送る場合も、このエディターでファイルを事前に作成できます。

操作手順

Editor	Personawareからエディターを選択します。「ファイルのオープン」画面が表示されます。
newfile.txt Enter	新しいファイルがNEWFILE.TXTという名前でオープンします。デフォルト・ディレクトリーはC:¥PW¥NEWFILE.TXTになります。
文章の入力	漢字キーで日本語入力モードにして（⇒A-4ページ）、文章を入力します。
F9	フォントの大きさを変更します。1画面におさまる文字数が増えます。
F7 F8	文章が1画面以上の場合にはスクロールします。Page Up、Page Downキーでも同様です。
F4	「別名保管」のパネルが表示されます。
Tab→I Tab→I Tab→I Enter	「保管」が選択され、NEWFILE.TXTファイルが保管されます。

エディターで文章を編集する

次は複数ファイルの編集とカット・アンド・ペースト、文字列の検索、置換などを試してみましょう。

```
Editor   C:¥CONFIG.SYS
DOS=HIGH,UMB
LASTDRIVE=Z
COUNTRY=081,932,C:¥DOS¥COUNTRY.SYS
SHELL=C:¥DOS¥COMMAND.COM /P /E:1024
DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS /machine:2
DEVICEHIGH=C:¥DOS¥$FONT.SYS /f=hn /24=ON /msg=of
f
rem DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS /INT15=500
DEVICEHIGH=C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM
rem DEVICEHIGH=C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 RAM B=60
00
rem DEVICE=C:¥DOSV¥$DISP.SYS /TS=21504
DEVICE=C:¥DOS¥$DISP.SYS /msg=off
DEVICEHIGH=C:¥DOS¥SETVER.EXE
F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12
```

操作手順

操作	説明
Editor	Personawareからエディターを選択します。「ファイル - オープン」画面が表示されます。
Tab→ ↓数回 Enter	先程作成したNEWFILE.TXTファイルを探し出しオープンします。
F2	「ファイル - オープン」画面が表示されます。
Tab→ ↑ ↓ Enter 数回	別のファイルを指定してオープンします。ここではCONFIG.SYSファイルを例にします。
F5	文字列を検索する「検索」パネルが表示されます。
IAS Enter	検索が開始され、見つかった文字列が反転します。
Shift + → または Shift + ←	カット・アンド・ペーストしたい文字列をマークします。↑↓キーを使うと複数行の指定ができます。逆方向にするとマークを解除できます。
Ctrl + Ins	文字列をコピーします。カットしたい場合はCtrl+Delキーを使います。
F10	オープンしているファイル間を移動します。Ctrl+PとCtrl+Nでもファイル間を前後に移動できます。
Shift + Ins	文字列をペーストします。

手書きでメモをする

Personawareの手書きメモ機能は、Palm Top PCのメモ・パッドを使ってボールペンなどの手書きイメージをファイルに保管するものです。保管したファイルはファックスなどで送ることができます。

基本操作

Draw Memo	Personawareから手書きメモを選択します。
ボールペンでメモ・パッドへ手書き!	画面には手書きしたイメージが現れます。
F5	F5キーでペンが消しゴムに変わり、手書きしたものを消しゴムで訂正できます。
F3 Enter	画面に出ている手書きしたデータ・ファイルを削除します。
F9	6枚ずつ一覧表示します。
F7 F8	6枚ずつ表示を前後します。Page Up、Page Downキーでも同様です。
F4 Enter	手書きメモを保管します。

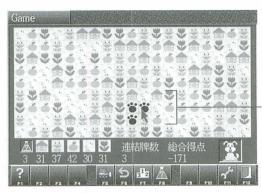
ヒント

F11キーでメモの枚数を変更できます。ただし枚数が増えると保存のためにスマート・ピコ・フラッシュなどの追加が必要になることがあります。ポインティング・ヘッドやマウスのドラッグ動作でも描けます。

補足

メモ・パッド・シートが傷んできたら交換してください。（⇒4-16ページ）

ゲームで遊ぶ

Personawareのゲームは時間制限なしの思考型パズル・ゲームです。マウス・ポインターで上下左右に並んだ同じ種類の牌を消して、残る牌を少なくすることで得点を争います。なるべく一度に大量に消すことが高得点への秘訣です。

足あとのマークのものが左クリックで消去されます

基本操作

Personawareからゲームを選択します。

マウス・ポインターの移動と左クリック！

ポインティング・ヘッドまたはカーソル・キーでマウス・ポインターを牌の上に移動すると並んでいる牌が足跡に変わります。ここで左クリックまたはPage Downするとそれらの牌が消えて、全体がずれます。つながった牌が多いほど高得点になります。

[F4] 左クリック！（[Page Down]）

魔法の薬を使います。これである牌を別の牌にランダムに変更できます。ただし、どの牌に変わるかはわかりません。どうしても変更したい牌はこの魔法の薬で3回まで変更できます。ただし一回使用すると-100点減点されます。

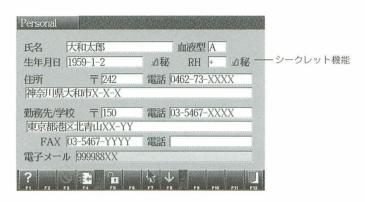
右クリック！（[Page Up]）

ひとつ前の状態に戻ります。ただし10点減点されます。

得点表示後[Enter]

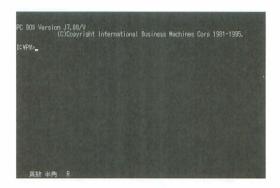
消せる牌をすべて消すと、自動的に終了判断をしてゲームが終了します。得点が表示され、ハイスコアなら名前が登録できます。ある種類の牌すべてを取った場合にボーナス得点が加算されます。

個人情報を入れる

Personawareに個人情報で入力したデータは、秘書機能などで活用するための基本データとなるので必ず入力しておきましょう。バイオリズムや有効期限などの表示は、すべて個人情報のデータをもとに計算します。

基本操作

Personal	Personawareから個人情報を選択します。
パスワード入力！	パスワードと確認の入力が最初に現れます。これは個人情報の機密保護のためです。パスワードの変更にはF5キーで行います。
Tab→| とキー入力！	Tab→| キーで入力フィールドを移動しながら個人データを入力します。生年月日は1995-1-20のように入力します。これはバイオリズムの計算に使用されます。
F7 F8	前ページ、次ページへ進みます。Page Up、Page Downキーでも同様です。保険証、運転免許証、パスポート、カード、記念日などはすべて秘書機能で期限が近くなると表示されます。
F12	個人情報を保管しPersonawareへ戻ります。

DOSコマンドを使う

PersonawareからDOSを呼び出すことができます。完全にPersonawareを終了するのではなく、一時的に呼び出します。ExitでPersonawareに戻ります。

操作手順

PersonawareからDOSを選択します。

dir

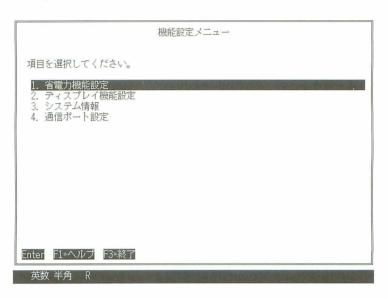
ディレクトリーを表示します。

exit Enter
Personawareへ戻ります。

重要

Palm Top PCで使用できるのはDOSの内部コマンドです。（⇒A-25ページ）
フルセットのDOSを使用したい場合は4-78ページを参照してください。

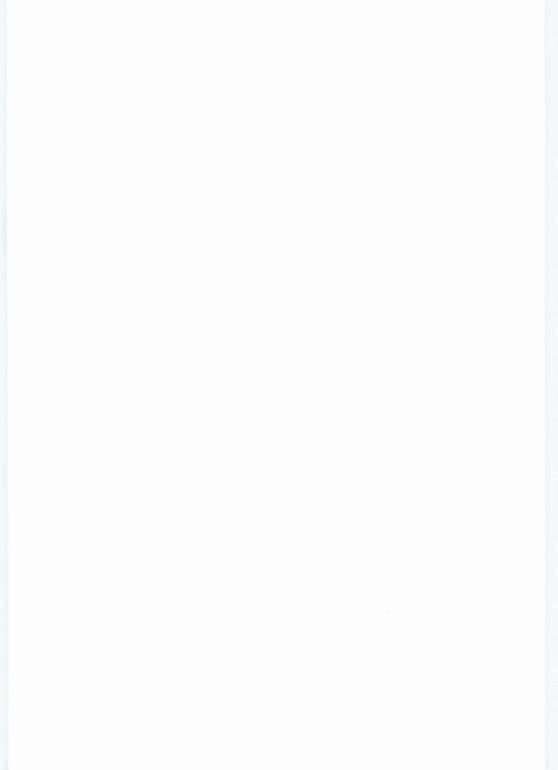
パワー・モード設定をする

Personawareからパワー設定を選択すると、Palm Top PCの機能設定メニュー（PS2.EXE）が表示されます。ここでは省電力機能、ディスプレイ、システム情報、通信ポートなどの設定ができます。詳しくは4-65ページを参照してください。

基本操作

Power MGT	Personawareから機能設定メニュー（PS2.EXE）が呼び出されます。
↑ ↓ と Enter	設定したい項目を選択してEnterキーを押します。F5キーで詳細設定ができるものもあります。
F3	機能設定メニューを終了し、Personawareへ戻ります。

第4章

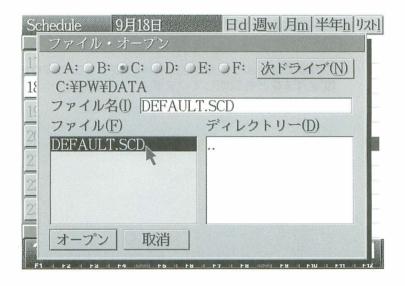
Advanced

アドバンスト

この章では、より高度な使い方やオプションの取り付けと
設定方法などを説明しています。

Personawareのデータを活用する

ここではPersonawareに入力されたデータを活用する方法を説明します。データ・ファイルの切り替え、バックアップの方法、シークレット・データの使い方、印刷、データの変換方法などを説明します。

データ・ファイルを切り替える

予定表、備忘録、ノート、アドレス帳のデータ・ファイルはそれぞれF11キーの設定から変更できるようになっています。

Schedule 予定表

F11キーを押し「ファイル」ボタンを選択するとファイル操作のパネルが出ます。デフォルトではC:¥PW¥DATA¥DEFAULT.SCDというファイルになっています。これを変更することで新しい予定表ファイルが作成できます。

ToDo List 備忘録

F11キーを押し「ファイル」ボタンを選択するとファイル操作のパネルが出ます。デフォルトではC:¥PW¥DATA¥DEFAULT.TDDというファイルになっています。これを変更することで新しい備忘録ファイルが作成できます。

Notebook ノート

F11キーを押し「ファイル」ボタンを選択するとファイル操作のパネルが出ます。デフォルトではC:¥PW¥DATA¥DEFAULT.NTDというファイルになっています。これを変更することで新しいノート・ファイルが作成できます。

Address 住所録

F11キーを押し「ファイル」ボタンを選択するとファイル操作のパネルが出ます。デフォルトではC:¥PW¥DATA¥DEFAULT.ADDというファイルになっています。これを変更することで新しい住所録ファイルが作成できます。

データ・ファイルをバックアップする

PersonawareのデータはデフォルトではC:¥PW¥DATAというディレクトリーに保管されます。おのおののデータは各アプリケーションにより、それぞれ違った拡張子が付けられています。バックアップはポートリプリケーター経由でディスケット（⇒4-29ページ）に行うか、スマート・ピコ・フラッシュ（⇒4-15ページ）、またはPCカードのフラッシュ・メモリーに行います。DOSコマンドで各データをディスケットへバックアップする例を示します。

Schedule 予定表

```
C:¥>copy c:¥pw¥data¥*.scd a:
```

ToDo List 備忘録

```
C:¥>copy c:¥pw¥data¥*.tdd a:
```

Notebook ノート

```
C:¥>copy c:¥pw¥data¥*.ntd a:
```

Address 住所録

```
C:¥>copy c:¥pw¥data¥*.add a:
```

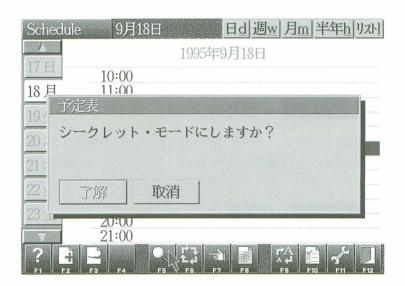
Personal 個人情報

```
C:¥>copy c:¥pw¥data¥personal.dat a:
```

重要

大切なデータを不注意で失わないように、定期的にバックアップを行ってください。

シークレット・データ機能を活用する

Personawareにはシークレット・データ機能が装備されています。この機能を活用すると、人に見られたくない予定や情報を隠すことができます。それぞれのアプリケーションでシークレット・データを使う方法を示します。

Schedule 予定表

編集画面で「秘密」にスペース・キーでチェック・マークを付けF4キーでデータを保管します。予定表画面からF11キーで「シークレット」を選択すると、チェック・マークが付けられたデータは非表示になります。

ToDo List 備忘録

編集画面で「秘密」にスペース・キーでチェック・マークを付けF4キーでデータを保管します。備忘録画面からF11キーで「シークレット」を選択すると、チェック・マークが付けられたデータは非表示になります。

Notebook ノート

編集画面で「秘」にスペース・キーでチェック・マークを付けF4キーでデータを保管します。ノート画面からF11キーで「シークレット」を選択すると、チェック・マークが付けられたデータは非表示になります。

Address 住所録

編集画面で「秘」にスペース・キーでチェック・マークを付けF4キーでデータを保管します。アドレス画面からF11キーで「シークレット」を選択すると、シークレット・モードになりチェック・マークが付けられたデータは非表示になります。

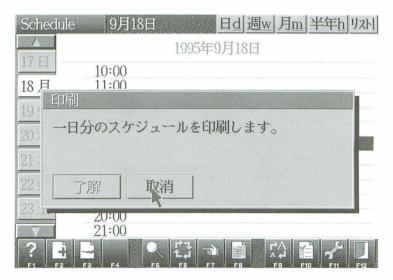
Personal 個人情報

個人情報画面で「秘」にスペース・キーでチェック・マークを付けF12キーでデータを保管します。ランチャー画面からF10キーで秘書機能を選択すると、チェック・マークが付けられたデータは（秘密情報F6キーで解除）と表示されます。

ヒント

予定表、備忘録、ノート、アドレス帳でシークレット・モードを解除して「秘」がチェックされたデータを表示するには、各画面からF11キーで「シークレット」を選択してください。その後パスワードを入力するパネルが表示されますので、パスワードを入力し、Enterキーを押してください。ここで入力するパスワードは個人情報で設定されているパスワードです。

データを印刷する

Palm Top PCには最小限のDOS／Vシステムがインストールされています。そのためプリンターに予定表、備忘録、ノート、アドレス帳などのデータを印刷する場合は、A-42ページを参照して必要なプリンター・ドライバーをインストールしておく必要があります。各アプリケーションでの印刷方法は次のとおりです。

Schedule 予定表

F11キーで「印刷」を選択します。日表示と月表示のみ印刷できます。

ToDo List 備忘録

F11キーで「印刷」を選択します。

Notebook ノート

F11キーで「印刷」を選択します。

Address 住所録

F11キーで「印刷」を選択します。

ほかのアプリケーションでデータを活用する

Personawareの予定表、備忘録、ノート、アドレス帳のデータはすべてCSV形式のテキスト・データとして保管されます。この形式のファイルはたとえばExcel**などのアプリケーションで読み込んで編集することが可能です。ただしシークレット機能をオンにしたデータは、その行だけ人間には読めないデータ並びに変更されて保管されています。各アプリケーションのCSVデータは次のとおりです。

```
Editor  C:¥PW¥DATA¥DEFAULT.ADD
yomi,name,category,home tel number,home fax number,home zip,home address,birth day,offic
e,station,post,office tel number,office fax number,office zip,office address,email,photo file na
me,voice file name,note1,note2,note3
あいびーえむさーびすせんたー,IBMサービスセンター,IBM,0120-20-5550,,,,,,,,,,,,,,,,"営
業時間　平日/土曜日 9:00-18:00(日・祝祭日・年末年始はお休み)
"
あいびーえむふぁっくすさーびす,IBM FAX サービス,IBM,,044-200-8600,,,,,,,,,,,,,,,
あべくみこ,阿部久美子,会社関係,033-123-****,033-321-****,104,中央区銀座X-X-X,1969
-12-20,ABC化粧品,第二製品企画課,,0466-77-****,0466-77-****,252,神奈川県藤沢市X-X
-X,99999999,ADDYUKI.BMP,,,,
かすとまーさーびすいんふぉめー,ｶｽﾄﾏｰ･ｻｰﾋﾞｽ･ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ･ｾﾝﾀｰ,IBM,0120-550-132,,,,,,,,,
,,,,,,,受付時間：平日10:00-17:00
きのくにやしょてんとうきょうえ,紀伊國屋書店 東京営業所,IBM,03-3808-1645,03-3808-0
180,,,,,,,,,,,,,,,,受付時間：平日10:00-16:00 除12:30-13:30(土・日・祝祭日・年末年始はお
休み)　FAX 24時間受付
だいやるあいびーえむ,ダイヤルIBM,IBM,0120-04-1992,,,,,,,,,,,,,,,,"受付時間: 9:00-18:00
(土・日・祝祭日・年末年始・6/17を除く)"
ぱーそなうぇあ,Personaware,IBM,,,,,,,,,,,PERSONAW@VNET.IBM.COM,,,,,Personaware
に関するご意見・ご要望等ありましたら、メールでお送りください。
ぱそこんきょうしつおおさか,ぱそこん教室大阪,IBM,06-532-5550,,,,,,,,,,,,,,,,受付時間：
F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12
```

この画面は住所録のCSVファイルの例です。

予定表

初期値ではC:¥PW¥DATA内の拡張子がSCDのファイルです。

ToDo List

備忘録

初期値ではC:¥PW¥DATA内の拡張子がTDDのファイルです。

ノート

初期値ではC:¥PW¥DATA内の拡張子がNTDのファイルです。

Address

住所録

初期値ではC:¥PW¥DATA内の拡張子がADDのファイルです。

電話機能を活用する

Palm Top PCに付属の電話ケーブルを接続することにより、Palm Top PCを電話として使うことができます。ファックス機能、電子メール、パソコン通信などを使うときも、ケーブルの接続のしかたは同じです。

⚠ 危険

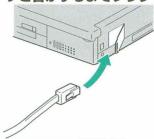
雷の発生時には、電話ケーブルの抜き差しはしないでください。

⚠ 注意

Palm Top PCの電話機能は、公衆回線／アナログPBX構内回線（2線式）でご使用できます。絶対にデジタルPBX構内回線には接続しないでください。デジタル回線に接続すると、回線に障害を与えたり、火災、感電のおそれがあります。（Palm Top PC自身も機能が作動しないばかりか、故障の原因となることがあります。）多くのホテルやオフィスではデジタル回線が使用されていることがありますので、そのような場所ではご使用（接続）の前にご確認ください。

電話ケーブルを接続する

1 本体の電源を切り、Wing Jackを引き起こす

2 Wing Jackに付属の電話ケーブルのプラグを45°の方向から差し込んで、カチッと音がするまでプラグを倒す。

補足

●電話ケーブルのもう一方のプラグを電話回線に接続してから電話機能を使います。

●電話ケーブルを取り外すときは、プラグのつまみを押してロックを外してから引き抜きます。

電話をかける

1 **電話ケーブル接続後、本体の電源を入れる**

2 **Personawareの「Telephone」を起動する**

3 **電話オフ・フック・スイッチを右側にスライドさせる（受話器を上げた状態）**

4 **Personawareの「Telephone」を使って電話をかける**

使い方について詳しくは、3-38ページをお読みください。

5 **カバーを閉じてPalm Top PCを持ち、電話機として使う**

電話用ヘッドセットも使うことができます。（電話用ヘッドセット・ジャック⇒1-2ページ）

6 **電話をかけ終わったら、電話オフ・フック・スイッチを左側にスライドさせる**

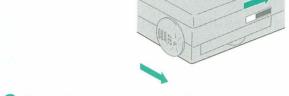
スイッチは必ず左側に戻してください。これを行わないと、電話の受話器が上がったままの状態になり、また、むだな電力を消費します。

電話を受ける

1 電話ケーブルが接続され、電話オフ・フック・スイッチが左側にスライドされていることを確認する（受話器を置いた状態）

電話がかかってくると、電話着信ランプが点滅します。
着信音切り替えスイッチを右側に寄せておくと、着信音が鳴ります。
（音を出したくない場合は、左側へ切り替える）

> ヒント
> 電源が切れている状態や内蔵モデムの設定が「使用しない」でも着信ができます。
> ただし、バッテリーのみの使用で容量が残っていないときは、着信できません。

2 ランプが点滅したら、電話オフ・フック・スイッチを右側にスライドさせる

3 Palm Top PCを持ち、電話機として使う

電話用ヘッドセットも使うことができます。（電話用ヘッドセット・ジャック⇒1-2ページ）

4 電話が終ったら、電話オフ・フック・スイッチを左側にスライドさせる。

スイッチは必ず左側に戻してください。これを行わないと、電話の受話器が上がったままの状態になり、また、むだな電力を消費します。

PCカードを活用する

Palm Top PCでは、JEIDA4.2（PCMCIA2.1）のPCカードを使うことができます。PCカードを使うことによってPalm Top PCをさまざまにご利用いただけます。

PCカードは、タイプⅠまたはタイプⅡであれば2枚、タイプⅢは1枚、取り付けることができます。PCカードの取り付けについては、それぞれのPCカードに付属のマニュアルを読んでから作業を始めてください。PCカードは、Palm Top PCの電源を入れた状態で取り付け、取り外しができます。

> **重要　PCカードをお使いになる前に**
> ●電源が入っている状態でのPCカードの抜き差しについては、PCカードおよびソフトウェアがこの機能に対応しなければなりません。たとえば、モデムとファックス以外の通信ソフトウェアには、この機能を使えないものがありますので、注意してお使いください。
> ●PCカードのコネクターの部分には、手を触れないようにしてください。

PCカードを取り付ける

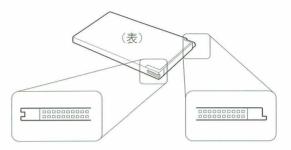
Palm Top PCには、PCカード用のスロットが二つあります。タイプⅠまたはタイプⅡのカードは上下どちらのスロットに取り付けてもかまいませんが、タイプⅢのカードは下側のスロットにしか取り付けられません。

> **ヒント　各ソケットにはソケット番号がある**
> 各ソケットにはソケット番号があります。上側のソケットがソケット番号1で、下側のソケットがソケット番号2です。（番号はPalm Top PCに刻印されていません）

> **重要　タイプⅢのPCカードは**
> タイプⅢのPCカードは、取り付けるとソケット番号2になります。

> **重要　IBM Chip Card TC-100のときは**
> 「IBM Chip Card TC-100」をPalm Top PC上でお使いになるときは必ず下側のスロットに取り付けてください。上側のスロットに取り付けると、取り外しができなくなる場合があります。

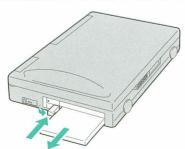
1 PCカードのコネクターの形状と表裏を確認する

PCカードのコネクターの形状（左右）と、表裏を確認してください。

2 PCカードを差し込む

PCカードの表を上にして奥まで確実に差し込んでください。また、PCカードを差し込むとボタンが飛び出てくるので、倒してください。

PCカードを取り外す

1 PCカードを取り出す

「PCカード取り出しボタン」を立ててから、押してください。

いろいろなPCカードを使うには

いろいろなPCカードを使うためには、PCカード・サポート・ソフトウェアが必要です。Palm Top PCにはあらかじめ、DOS用のサポート・ソフトウェアが導入されています。

ヒント

PCカードによっては、ドライバー・ソフトウェアを導入する必要があります。各カードのマニュアルを参照してください。

ヒント　ケーブルを使うPCカードを取り付ける場合は

ケーブルはPCカードに付属のものをお使いください。ケーブルの接続方法や、その他の必要な作業については、PCカードに付属のマニュアルをお読みください。

ヒント　PCカードから始動するには

PCカード（ハードディスクやフラッシュROMなどで、ATA/IDE規格に準拠したもの）を取り付けて始動することができます。イージー・セットアップを使って設定できます。（⇒4-60ページ）

補足

- Palm Top PCにはあらかじめ、必要最低限のPlayAtWill* Version3.0のDOS用ドライバーが組み込まれていますが、PlayAtWill本体は含まれていません。本体が必要な場合は、別途お買い求めください。
- ATA/IDE規格に対応していないフラッシュROMカードは、Palm Top PCに導入されているPlayAtWillのDOS用ドライバーでは、使うことができません。フラッシュROMカードをお買い求めの際にはご注意ください。

スマート・ピコ・フラッシュを取り付ける

Palm Top PCの本体には、ハードディスクと同じ動きをする4MBの内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブが取り付けられていて、Personawareはここに導入されています。増設ドライブとして、スマート・ピコ・フラッシュ（別売）を取り付けることができます。（4MB, 10MB, 15MBがあります。）

重要

スマート・ピコ・フラッシュの着脱は必ず本体の電源を切った状態で行ってください。内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブやスマート・ピコ・フラッシュがこわれたり、データが失われたりするおそれがあります。

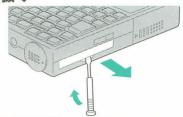
1 本体の電源が切れていることを確認する（⇒1-13ページ）

2 スマート・ピコ・フラッシュ・スロットに、スマート・ピコ・フラッシュを差し込む

スマート・ピコ・フラッシュの表を上にして奥まで確実に差し込んでください。

取り外しかた

1 本体の電源が切れていることを確認する（⇒1-13ページ）

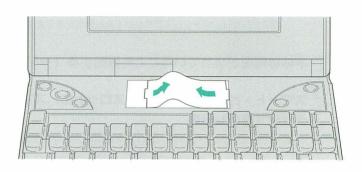
2 ドライバー（マイナス）などをスマート・ピコ・フラッシュ・スロットの下の切り込み部分に差し込み、スマート・ピコ・フラッシュをひっかけて抜く

補足

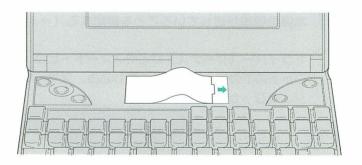
スマート・ピコ・フラッシュを使うために特別なソフトウェアは必要ありません。

メモ・パッド・シートを取り換える

メモ・パッドのシートに傷がついてきたら、付属のメモ・パッド・シートと交換します。

1 メモ・パッド・シートを取り外す

メモ・パッド・シートの両端を真ん中に寄せるようにして、シートの端の凸部をメモ・パッドから取り外します

2 付属のメモ・パッド・シートを取り付ける

メモ・パッド・シートのどちらかの端をメモ・パッドに差し込み、もう一方も同じように差し込みます。

補足

- インクがついたら布などで拭いてください。
- 使っていくうちに、メモ・パッド・シートに筆跡が残ったりキズがついてきます。キズがついてきたら適宜メモ・パッド・シートを交換してください。

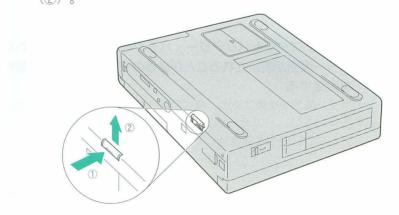
ボタン電池を取り換える

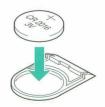
ボタン電池は装置の構成情報や日時などを保持します。電池が切れた場合は新しいボタン電池（リチウム電池CR2016）と交換します。

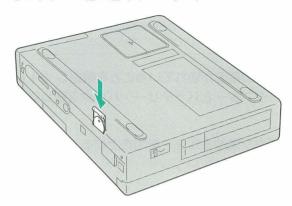
> ⚠ 注意
> ivページの「安全に正しくお使いいただくために」の中のリチウム電池（ボタン電池）についてを必ずお読みください。

1 本体の電源が切れていることを確認し（⇒1-13ページ）、ACアダプターとバッテリー・パックを取り外す

2 ボタン電池ホルダーを引き上げる

ホルダーを図のように押しながら（①）、垂直に引き上げてください（②）。

3 ホルダーの電池を交換する

＋が上になるようにホルダーに置きます。

4 ホルダーを差し込む

ホルダーをまっすぐに差し込んでください。

5 ACアダプターとバッテリー・パックを接続し電源を入れると、エラー画面が表示されることがあるので、画面に従って構成情報を設定する

ボタン電池を交換すると、構成情報や日時は失われます。再設定をしてください。（エラー画面が表示されなくても、イージー・セットアップで日時などを確認してください。）

重要

メモリーのフォント・アドレスが初期値（CC000H）に戻ってしまいます。UMBの効率利用のために必ず「DE000H」に設定し直してください。

（⇒4-43）

ポート・リプリケーターを使う

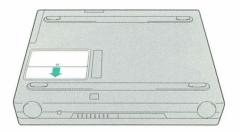
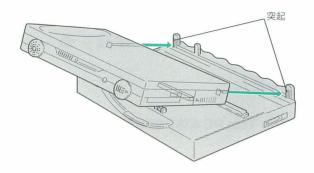
Palm Top PCにポート・リプリケーター（別売）を接続し、オプションを取り付けます。オプションを取り付けることによってPalm Top PCが強化され、パソコンとしてフル活用できます。

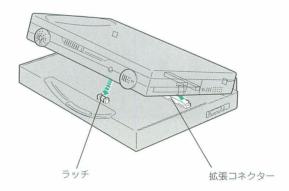
ポート・リプリケーターを接続する

接続のしかた

1 **Palm Top PC本体の電源を切る**

2 **ACアダプターを取り外す**

3 **底面の拡張コネクターのカバーをスライドさせて開けておく**

4 本体背面の切り込みを、ポート・リプリケーターの突起に合わせる

5 本体底面の拡張コネクターをポート・リプリケーターの拡張コネクターに合わせ、奥まで押し込む

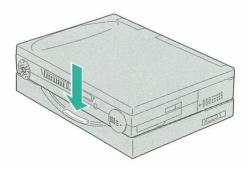
「カチッ」と音がしてラッチがかかるまで押してください。

6 ACアダプターを接続する

ACアダプターをポート・リプリケーター側面のDC-INコネクターに接続してください。

取り外しかた

1 本体の電源を切る

2 ポート・リプリケーターの本体取り外しボタンを押しながら、本体の手前を軽く持ち上げる

ラッチが外れて本体が取り外せます。

補足

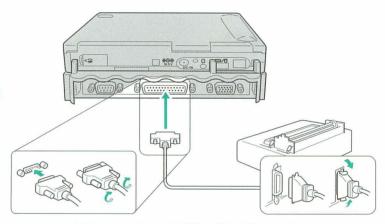
ポート・リプリケーターを取り外したら、本体底面の拡張コネクターのカバーをスライドさせて閉めておいてください。ACアダプターはポート・リプリケーターから取り外し、本体側のDC-INコネクターに接続してください。

プリンター、シリアル装置を接続する

ポート・リプリケーターのパラレル・コネクターにプリンター、シリアル・コネクターにシリアル装置を接続します。プリンター、シリアル装置の接続については、それぞれの装置に付属のマニュアルを読んでから作業を始めてください。ここでは、プリンターの接続を例にとって説明します。

1 本体の電源スイッチを切る

2 プリンターを接続する

プリンターの信号ケーブルおよび電源コードは、プリンターに付属のマニュアルを読んでから正しく接続してください。

シリアル・コネクターも同様の手順で接続できます。シリアル・コネクターには、外付けモデムなどを接続できます。シリアル装置を使うときは、シリアル・ポートの設定を行ってください。（⇒4-46ページ）

> **重要　ポート・リプリケーターをお使いになるときは**
>
> ●ポート・リプリケーターのコネクターのピンには、手を触れないでください。
>
> ●プリンターやシリアル装置を取り外すときも、電源を切ってから行ってください。

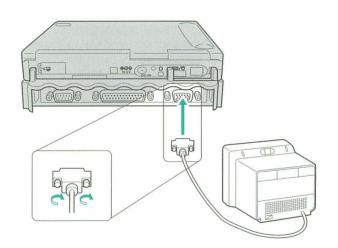
> **重要**
>
> 使用するプリンターの機種によって、プリンターのデバイス・ドライバーを入れ替える必要があります。（⇒A-42ページ）

外付けディスプレイを接続する

Palm Top PCでは、本体の液晶ディスプレイのほかに、外付けディスプレイを接続できます。外付けディスプレイは、ポート・リプリケーター背面のディスプレイ・コネクターに接続します。

1 本体の電源スイッチを切る（またはサスペンド状態にする）

2 ディスプレイを接続する

外付けディスプレイの信号ケーブルおよび電源コードは、ディスプレイに付属のマニュアルを読んでから正しく接続してください。

> **重要　ポート・リプリケーターをお使いになるときは**
> ●ポート・リプリケーターのコネクターのピンには、手を触れないでください。
> ●外付けディスプレイを取り外すときも、電源を切ってください。

ヒント **液晶ディスプレイと外付けディスプレイを切り替えるには**

外付けディスプレイに表示させるには、次の方法があります。

●Fnキーを押しながらF7キーを押す（⇒1-18ページ）

●ディスプレイ機能設定メニュー画面で設定する（⇒4-71ページ）

●PS2.EXE（DOSコマンド）で設定する（⇒4-75ページ）

また、出荷時は本体のカバー（液晶ディスプレイ）を閉めるとサスペンドするように設定されています。カバーを閉めて外付けディスプレイで使う場合、設定の変更は「PS2.EXE（機能設定）を活用する」をお読みください。

ヒント

Palm Top PCにWindowsを導入する（⇒4-81ページ）と、640×480の解像度で256色（最大）が800×600の解像度で16色（最大）が使えます。

Palm Top PCで640×480の解像度に設定した場合は水平同期周波数（H-Sync）31.5kHz, 垂直同期周波数（V-Sync）60Hzになり、800×600の解像度に設定した場合は、水平同期周波数（H-Sync）37.5kHz, 垂直同期周波数（V-Sync）60Hzとなります。この設定ができないディスプレイ（例：2414A04）を接続した場合、全領域の表示ができません。

外付けキーボードを接続する

外付けキーボードは、ポート・リプリケーターのキーボード・コネクターに接続します。

1 本体の電源スイッチを切る

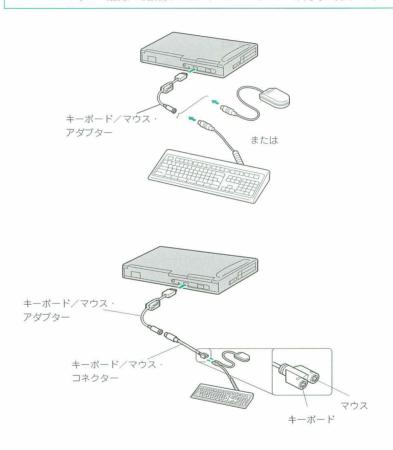
2 キーボードを接続する

コネクターの「IBM」マークや「▲」の印を上に向けて接続してください。

重要　キーボードをお使いになるときは

Palm Top PCを使用中に、外付けキーボードをコネクターから抜き差しすると、本体のキーボードと外付けキーボードは使えなくなります。再び使えるようにするには、Palm Top PCの電源を入れ直してください。

補足

●ポート・リプリケーターを使わなくても、キーボード／マウス・アダプター（別売）をPalm Top PC背面の専用コネクターに接続すると（本体背面⇒1-4ページ）、キーボードまたはマウスが使えます。
●キーボード／マウス・アダプターの先に、さらにキーボード／マウス・コネクター（別売）を接続すると、キーボードとマウスが同時に使えます。

ヒント

キーボード／マウス・コネクタにキーボードとマウスを接続するときは、Y字型コネクターの［キーボード］側にキーボードを、［マウス］側にマウスを接続してください。

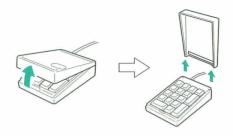
マウス、数値キーパッドを接続する

マウスと数値キーパッドは、ポート・リプリケーターのマウス／数値キーパッド・コネクターに接続します。

1 本体の電源スイッチを切る

2 マウスまたは数値キーパッドを接続する

コネクターの「IBM」マークや「▲」の印を上に向けて接続してください。

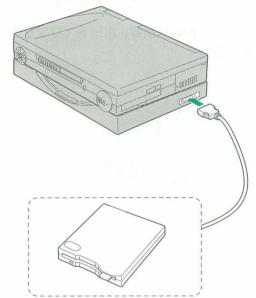
3 数値キーパッドのカバーを取り外す

ヒント　数値キーパッドの傾きを変える場合は
取り外したカバーの裏側の溝に合わせて数値キーパッドを上に重ねておいてください。

重要　コネクターを抜き差しするときは
Palm Top PCを使用中に、マウスや外付け数値キーパッドをコネクターから抜き差しすると、本体のポインティング・ヘッドとマウスや外付け数値キーパッドは使えなくなります。再び使えるようにするには、Palm Top PCの電源を入れ直してください

外付けディスケット・ドライブを接続する

外付けディスケット・ドライブ（別売）は、ポート・リプリケーターのディスケット・ドライブ・コネクターに接続します。付属のオプション・ディスケットはこのディスケット・ドライブで使えます。

1 本体の電源スイッチを切る（またはサスペンド状態にする）

2 ディスケット・ドライブを接続する

重要　コネクターの向きについて

コネクターには上下の向きがあります。確認してから接続してください。

補足　接続できる外付けディスケット・ドライブは

次のディスケット・ドライブが接続できます。

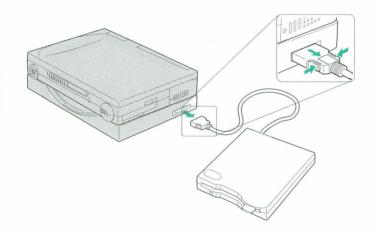
●外部ディスケット・ドライブ（2432-Y）（ThinkPad 230Cs用オプション）（ID番号：84G8571）

ヒント **1.2MBのディスケットを使う場合は**

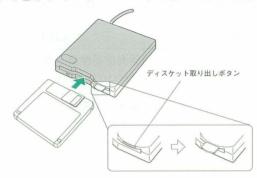
- 1.2MBのディスケットを使うには、DOSをフルセットでインストールする必要があります。（⇒4-78ページ）
- 1.2MBのディスケットを使う場合は、必ず電源を切ってからディスケット・ドライブを接続してください。サスペンドしただけでは使えません。

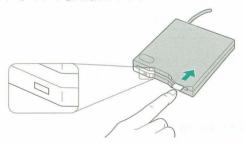
外付けディスケット・ドライブを取り外す

1 **本体の電源スイッチを切る（またはサスペンド状態にする）**

2 **左右のツメを押しながら、ポート・リプリケーターからコネクターを引き抜く**

ディスケットを挿入する、取り出す

1 ディスケットを挿入する

ディスケットのラベル面を上側に向けて、外付けディスケット・ドライブにまっすぐに差し込みます。ディスケットが完全に入ると、カシャッと音がしてディスケット取り出しボタンが飛び出します。

2 ディスケットを取り出す

ディスケット・ドライブ・ランプが消えていることを確かめてから、ディスケット取り出しボタンを押します。ディスケットが少し飛び出したら、そのまま引き抜きます。

重要

外付けディスケット・ドライブを取り外すときは、ディスケット・ドライブ・ランプが消えていることを必ず確認してください。動作しているときに取り外すと、作成したデータなどをディスケットにきちんと記録できなかったり、ディスケットに記録してある内容を読み出せなくなったりすることがあります。

ディスケットの種類

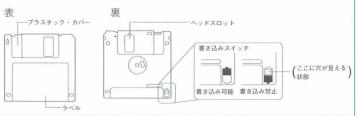
Palm Top PCでは、3.5インチのディスケット（フロッピーディスクとも呼ばれる）を使います。ディスケットを使ってアプリケーション・ソフトを導入したり、ディスケットに作成したデータを保存することができます。使用可能な3.5インチのディスケットは、2HD（1.44Mバイトまたは1.2Mバイト）および2DD（720Kバイト）の2種類（記憶容量は3種類）です。

2HD	2DD
両面高密度倍トラック (2 side High density Double track)	両面倍密度倍トラック (2 side Double density Double track)
最大記憶容量 ・1.44Mバイト ・1.2Mバイト （フォーマットの方法で変わる）	最大記憶容量 ・720Kバイト
穴がある	穴はない

重要

2HDのディスケットを720Kバイト（2DD用）でフォーマットしたり、2DDのディスケットを1.44Mバイト（2HD用）や1.2Mバイト（2HD用）でフォーマットしたりしないでください。

ヒント　書き込みスイッチ

書き込みスイッチを「書き込み禁止」状態にしておけば、すでに記憶されている内容を誤って消してしまうことを防げます。ただし、内容を読み出すことはできますが、新しい内容を記録することはできません。

ヒント　ドライブとドライブ名
ドライブとドライブ名について詳しくは、イージー・セットアップの「始動優先順位を設定する（⇒4-60ページ）」をお読みください。

1.2Mバイトのディスケットを使う

> **重要　1.2MBのフォーマットをするには**
> - 1.2MBのディスケットを使うには、DOSをフルセットでインストールする必要があります。
> - 1.2MBのフォーマットをするには、事前にPC DOS J7.0/Vのセットアップから、1.2MBフォーマット・サポートをインストールしておく必要があります。インストールについて詳しくは、「DOSをフルセットで使う （⇒4-78ページ）」をお読みください。

ディスケットを1.2Mバイトで使えるようにする（フォーマットする）には、フォーマット・ユーティリティーを使います。

1 DOSのコマンド・プロンプトを表示する

```
C：￥＞
```

2 コマンドを入力する

コマンド・プロンプトに対して次のコマンドを入力し、［Enter］キーを押します。

```
C：￥＞ｆｏｒｍａｔ１２ [Enter]
```

3 フォーマット・タイプ番号を指定する

1または2を入力し、［Enter］キーを押します。

```
(1)    1.2MBフォーマット (1024バイト/セクター)
(2)    1.2MBフォーマット ( 512バイト/セクター)

フォーマット・タイプを番号で入力してください====>
```

ヒント　**フォーマット・タイプには**
1.2Mバイトでフォーマットする場合は、他社製PCのフォーマット・タイプに応じて「1」または「2」を入力してください。
●NEC製　（PC98, MS-DOS）　……(1)
●東芝製　……(2)

重要　**ディスケット・タイプを間違えないで**
1.2Mバイトでフォーマットする場合は「2HDディスケット」を使用します。ディスケット・タイプを間違えてフォーマットすると使えなくなります。

4 ドライブを指定する

1.2Mバイトのディスケットをフォーマットするドライブを指定します。
例：ドライブをAに指定します。

```
ドライブを指定してください。（A，B）==========> a
```

ヒント
フォーマットをおこなう場合は、ドライブ名をAまたはBに指定します（どちらでもかまいません）。

5 新しいディスケットをドライブに入れる

画面の指示に従ってディスケットをドライブに入れ、［Enter］キーを押します。フォーマットが開始されます。

```
新しいディスケットをドライブA:に入れてください。
準備ができたらEnterキーを押してください
```

6 ボリューム・ラベルを付ける

フォーマットが終了すると、ディスケットに名前（ボリューム・ラベル）を付けます。名前をタイプし、［Enter］キーを押します。

```
フォーマットが終了しました。

ボリューム・ラベルを指定してください
（半角11字まで、ラベルなしはEnterキー）
```

ヒント

ボリューム・ラベルを付けないときには
名前をタイプせずに、［Enter］キーだけ押します。

7 終了する

次のメッセージが表示されて終了します。

```
1250304バイト　：全ディスク空間
1250304バイト　：使用可能ディスク空間
1024：　　クラスター当たりのバイト数
1221：　　ディスク中の使用可能クラスター数

ボリューム・シリアル番号はXXXX-XXXXです。
```

これで1.2Mバイトで使えるディスケットが準備できました。

イージー・セットアップを使う

イージー・セットアップの機能

イージー・セットアップは、Palm Top PCの各種機能を簡単に設定するための機能です。アイコン操作で、どなたにでも簡単に操作することができます。ここで設定した値は本体の電源を切っても保持されます。

イージー・セットアップ・メニュー画面

アイコンとその選択方法

画面内の機能を示す絵をアイコンといいます。各機能を使うには、矢印キー（[←] [↑] [↓] [→]）でアイコンを選んで特に指定がないかぎり [Enter] キーを押します。ポインティング・ヘッドを使う場合は、マウス・ポインターをアイコンに移動して、左ボタンを押します。

> ヒント　**イージー・セットアップの配色を変えるには**
> [Ctrl] キーと [PgUp] キーまたは [Ctrl] キーと [PgDn] キーを押して、イージー・セットアップメニューの配色を変えることができます。押すたびに配色が変わります。元の配色に戻すには、[Ctrl] キーと [Home] キーを押してください。

> 補足
> オーディオ機能とメモ・パッドの設定は、PS2.EXE（機能設定）で行います。

4 Advanced アドバンスト

Config

Configメニューには次の項目があります。

Memory

取り付けられているメモリーのサイズを表示します。
また、フォントROMアドレスを選びます。

Keyboard

タイパマティック（反復作動間隔）のスピードとポインティング・ヘッドを使用するかしないかを設定します。

Serial

内蔵ファックス・モデム、PCMCIAモデム、赤外線通信ポート、シリアル・コネクターの各ポート・アドレスを選びます。

Parallel

パラレル・コネクターに接続されたプリンターなどの装置用にポート・アドレス（Parallel_1、Parallel_2、または Parallel_3）を選びます。
「Bi-directional」を選ぶと、データの転送は選ばれたポートと装置間で双方向におこなわれます。
「Uni-directional」を選ぶと、データは単一の方向、つまりPalm Top PCから装置の方向にのみ転送されます。

SystemBoard

取り付けられているシステム・ボードの情報を示します。

Initialize

「Config」メニューの全項目を初期値に設定し直します。

Date／Time

現在の日付と時刻を設定するために使用します。

Password

始動パスワードを設定するときに使います。

Startup

システムの始動優先順位を変更するのに使います。

Test

Palm Top PCのハードウェアをテストするために使います。「Start」アイコンをクリックし、テストを開始してください。エラーが検出されると、エラーが検出された装置の左にXという文字が表示され、その装置の下にエラー・コードが表示されます。エラー・コードを書き留めておき、Palm Top PCの修理を依頼してください。

Restart

Palm Top PCを設定後に再始動するために使います。

イージー・セットアップの始動と終了

イージー・セットアップの始動と終了の方法を説明します。

イージー・セットアップを始動する

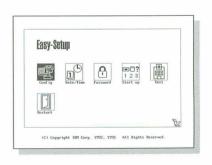
1 電源オフを確認する

電源が切れていることを確認してください。（⇒1-13ページ）

2 ［F1］キーを押したまま、電源スイッチを入れる

［F1］キーを押し続けると、数秒後にイージー・セットアップが呼び出されて、メニュー画面が表示されます。画面が表示されたらスイッチから指を離してください。

3 アイコンを選ぶ

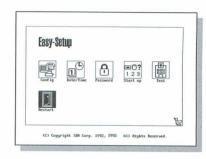
矢印キーで選んで、［Enter］キーを押します。あるいは、ポインティング・ヘッドでマウス・ポインターをアイコンに移動して、左ボタンをクリックします。マウスが接続してある場合は、マウスでも操作ができます。

イージー・セットアップを終了する

1 「Restart」アイコンを選ぶ

矢印キーで「Restart」アイコンを選んで、［Enter］キーを押します。あるいは、ポインティング・ヘッドでマウス・ポインターを「Restart」アイコンに移動して、左ボタンをクリックします。
終了の確認メッセージが表示されます。

2 ［Enter］キーを押す

電源スイッチを入れたときと同じ状態で、Palm Top PCが再始動します。
イージー・セットアップ・メニューの画面に戻るには、［Esc］キーを押します。

> **ヒント　電源スイッチでもイージー・セットアップを終了できる**
> メニュー画面が表示された状態で、電源スイッチを切ることにより、イージー・セットアップを終了させることができます。

メモリー情報を確認する

本体に取り付けられているメモリーのサイズとオペレーティング・システムやアプリケーション・ソフトが使えるメモリーのサイズを表示します。

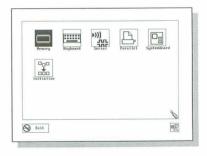
1 「Config」アイコンを選ぶ

Configメニューが表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 「Memory」アイコンを選ぶ

メモリー情報が表示されます。

Configメニュー

3 メモリー情報を確認する

「Installed」はPalm Top PCのすべてのメモリー容量を示し、「Usable」はそのうちの使用できるメモリー容量を示します。容量の差の分は、システムが使っています。

4 フォント・アドレスを設定する

ポインティング・ヘッドを使って上矢印または下矢印にポインターを合わせます。
その時☑ マークがついていないと設定できません。

重要 システムの初期値は「CC000H」ですが、工場出荷時にはUMBの効率利用のために「DE000H」に設定されています。詳しくは、『付録』の「メモリー構成」（⇒A-43ページ）をお読みください。

補足 Palm Top PCでは、システムの起動を高速化するためにフォントROMを搭載しています。（16ドット、24ドット）

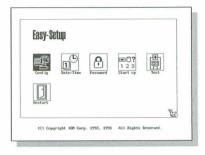
5 ［Enter］キーを押す

フォント・アドレスが設定され、Configメニューの画面に戻ります。［Esc］キーを押すと設定を中止してConfigメニューの画面に戻ります。もう一度［Esc］キーを押すと、イージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。

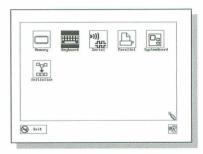
キーボード、ポインティング・ヘッドを設定する

キーボードのタイパマティック（反復作動間隔）のスピードと、ポインティング・ヘッドを使用するかしないかを設定します。

1 「Config」アイコンを選ぶ

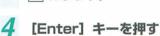
Configメニューが表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

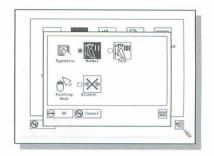
2 「Keyboard」アイコンを選ぶ

キーボードとポインティング・ヘッドの設定画面が表示されます。

Configメニュー

3 変更したい内容を矢印キーで選び、［スペース］キーで決定する

タイパマティックのスピードを高速にする場合は「Fast」を選び、普通のスピードにする場合は「Normal」を選びます。また、ポインティング・ヘッドを使わない場合は「Disable」をにします。

4 ［Enter］キーを押す

キーボードとポインティング・ヘッドが設定されConfigメニューの画面に戻ります。
［Esc］キーを押すと、設定を中止してConfigメニューの画面に戻ります。もう一度［Esc］キーを押すと、イージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。

内蔵ファックス／モデム、PCカード・モデム、赤外線通信ポート、シリアル・ポートを設定する

内蔵ファックス／モデム、PCカード・モデム、赤外線通信ポートのポート・アドレス、シリアル・ポートに接続されたシリアル装置を設定します。

重要

内蔵ファックス／モデム・ポート、赤外線通信ポート、シリアル・ポート（ポート・リプリケーター使用時）、またはPCMCIAシリアルのうち、同時に使えるのは2つまでです。いずれも「Disable」にして使わない設定にすることができます。ただし、赤外線とシリアルは同時には使えません。Palm Top PCには、PlayAtWillのDOSのサポート・ソフトウェアがインストールされていますので、PCMCIAは、通常は「Disable」にしておいてください。（ここで設定する必要はありません。）

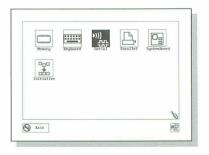
1 「Config」アイコンを選ぶ

Configメニューが表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 「Serial」アイコンを選ぶ

ファックス／モデム・ポート、PCMCIAシリアル、赤外線通信ポート、シリアル・ポートの設定画面が表示されます。

Configメニュー

3 変更したい内容を矢印キーで選び、[スペース] キーで決定する

次の中から2つを選びます。
ファックス／モデムを使う場合は、「Modem 1」または「Modem 2」を選びます。
モデムなどのPCMCIAシリアル・デバイスを使う場合は、「PCMCIA 1」または「PCMCIA 2」を選びます。
赤外線通信ポートを使う場合は、「Infrared 1」または「Infrared 2」を選びます。
ポート・リプリケーターを用い、シリアル装置を使用する場合は、「Serial 1」または「Serial 2」を選びます。

[Enter] キーを押す

重要 同時には、2つの機能しか選べません。（1から1つ、2から1つの組み合わせになります。）

補足
- InfraredとSerialは、同時に選ぶことはできません。
- 使わないものすべてをDisableにすることもできます。

4 Advanced アドバンスト

4 ポートが設定されConfigメニューの画面に戻ります。

［Esc］キーを押すと、設定を中止してConfigメニューの画面に戻ります。もう一度［Esc］キーを押すと、イージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。

パラレル・ポートを設定する

パラレル・ポートに接続されたプリンターのポート・アドレスを設定します。また、双方向モード、または単一方向モードのどちらかを設定できます。

1 「Config」アイコンを選ぶ

Configメニューが表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 「Parallel」アイコンを選ぶ

パラレル・ポートの設定画面が表示されます。

Configメニュー

3 変更したい内容を矢印キーで選び、［スペース］キーで決定する

プリンターなどパラレル装置を使う場合は、「Parallel-1」、「Parallel-2」または「Parallel-3」を選びます。また、双方向モードは「Bi-directional」、単一方向モードは「Uni-directional」を選びます。

4 ［Enter］キーを押す

パラレル・ポートが設定されConfigメニューの画面に戻ります。

［Esc］キーを押すと、設定を中止してConfigメニューの画面に戻ります。もう一度［Esc］キーを押すと、イージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。

システム・ボード情報を確認する

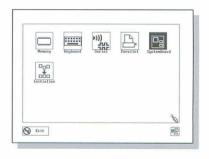
システム・ボードの情報を表示します。

1 「Config」アイコンを選ぶ

Configメニューが表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 「SystemBoard」アイコンを選ぶ

システム・ボードの情報が表示されます。

Configメニュー

3 確認したら［Esc］キーを押す

Configメニューの画面に戻ります。もう一度［Esc］キーを押すと、イージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。

設定を元に戻す

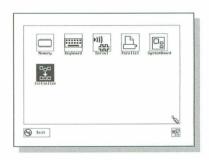
Configメニューで設定したすべての設定を初期値に戻します。

1 「Config」アイコンを選ぶ

Configメニューが表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 「Initialize」アイコンを選ぶ

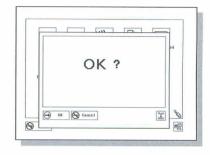
確認の画面が表示されます。

Configメニュー

3 [Enter] キーを押す

Configメニューの中のすべての設定が初期値になり、Configメニューの画面に戻ります。

[Esc] キーを押すと、設定を中止してConfigメニューの画面に戻ります。もう一度 [Esc] キーを押すと、イージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。

ヒント

フォント・アドレスは「CC000H」に設定されます。工場出荷値に合わせるために「DE000H」にセットしてください。(⇒4-43ページ)

日時を設定する

本体に内蔵の時計を現在の日付、時刻に合わせます。年月日、時分秒を設定できます。

1 「Date/Time」アイコンを選ぶ

日時の設定画面が表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 設定したい項目（西暦年、月、日、時、分、秒)を選んで、数値を入力する

ポインティング・ヘッドを使うときは、画面の上矢印（▲▲）または下矢印（▼▼）にポインターを合わせ、左ボタンを押します。

3 [Enter] キーを押す

日時が設定されメニュー画面に戻ります。

[Esc] キーを押すと、設定を中止してメニュー画面に戻ります。

パスワードを使う

大切なデータを保護したいときは、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、パスワードを知っている方以外はPalm Top PCを使うことができなくなります。
パスワードは7文字以内で、アルファベット（大文字と小文字の区別なし）と数字を使えます。また、一度設定した後で変更することもできます。

> **重要**
> パスワードを設定すると、サスペンド／レジューム機能を利用してレジューム（再開）するときに「ブブッ」というブザー音が鳴り、パスワードの入力が必要になります。レジューム後、サスペンドする直前の画面が表示されても、正しいパスワードを入力しないと始動できません。

> **重要　設定したパスワードはメモしておく**
> 設定したパスワードは忘れないようにメモしておくことをおすすめします。パスワードを忘れると、Palm Top PCを始動できなくなり使えません。こうなったときには、パスワードの解除方法がありません。その場合は、IBMサービス・センターにご連絡ください。

パスワードを設定する

パスワードを設定します。一度パスワードを設定すると、イージー・セットアップ・メニューのパスワード・アイコンは淡色表示になり選べなくなります。

1 「Password」アイコンを選ぶ

パスワードを選ぶ画面が表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 「Power-on」アイコンを選ぶ

パスワード設定画面が表示されます。

3 7文字以内の英数字を入力して、[Enter] キーを押す

キーを押しまちがえたときは、[Back space] キーで消して入れ直します。

4 手順 3 で入力したパスワードを、もう一度入力して [Enter] キーを押す

入力したパスワードが設定されます。

重要 手順 3 と 4 で入力したパスワードが一致していない場合は、二度ブザー音が鳴り、手順 2 へ戻ります。もう一度設定し直してください。

パスワードを入力する

パスワードが設定されていると、電源を入れたときにパスワード入力画面が表示されます。サスペンド／レジューム機能でレジューム（再開）するときも入力が必要ですが、パスワードの入力画面は表示されませんのでご注意ください。

1 本体の電源を入れる

パスワード入力画面が表示されます。

2 設定したパスワード（7文字以内の英数字）を入力する

入力した数だけ反転部に・が表示されます。

> **重要** キーを押し間違えた場合は、［Enter］キーを押し、最初からやり直してください。

・・・

3 ［Enter］キーを押す

パスワードが正しいときは、通常の操作に入ります。

> **補足** 誤ったパスワードを入力したときは、ブザー音が鳴ります。続けて3回間違えると、本体の操作ができなくなります。その場合は、いったん電源を切り、入れ直してから、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを解除する

いったん設定したパスワードを解除するときは、電源を入れたときのパスワード入力画面でおこないます。

1 パスワードを入力する

入力した数だけ・が表示されます。

重要　キーを押し間違えた場合は、一度［Enter］キーを押し、最初からやり直してください。

・・・

2 ［スペース］キーを押す

・が一つ表示されます。

・・・・

3 ［Enter］キーを押す

パスワードが解除され、Palm Top PCの通常の操作に入ります。

ヒント　改めてパスワードを設定するときは、イージー・セットアップの始動からおこなってください。

パスワードを変更する

いったん設定したパスワードを変更するときは、電源スイッチを入れたときのパスワード入力画面でおこないます。

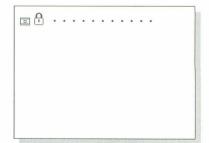
> **重要** パスワードを変更するときに、キーを押し間違えた場合は、最初からやり直してください。

1 パスワードを入力する

2 [スペース] キーを押す

・が一つ表示されます。

3 続いて新しいパスワードを入力する

再度［スペース］キーを押し、確認のためにもう一度新しいパスワードを入力し、［Enter］キーを押します。新しいパスワードが設定され、Palm Top PCの通常の操作に入ります。次に電源スィッチを入れたときは、ここで設定した新しいパスワードを入力してください。

> **補足** 今のパスワード　新しいパスワード　新しいパスワード[Enter]

始動優先順位を設定する

システムが始動するドライブの優先順位を４つまで設定することができます。Palm Top PCはどのドライブから始動するかを判断します。設定したドライブの順に、オペレーティング・システムのシステム・ファイルがあるか見にいきます。ドライブにシステム・ファイルがあれば、そのシステムを始動します。

> ヒント **システムが始動するドライブ**
> システムが始動するドライブには、オペレーティング・システムのシステム・ファイルがなければなりません。Palm Top PCではシステムを始動できるドライブとして、外付けディスケット・ドライブ、PCカード（ATAカード）、スマート・ピコ・フラッシュなどがあります。外付けディスケット・ドライブから始動した場合以外は、始動したドライブがドライブCになります。

1 「Start up」アイコンを選ぶ

始動優先順位の設定画面が表示されます。

イージー・セットアップ・メニュー

2 アイコンを矢印キーで選び、［スペース］キーで決定する。

優先順位を高く設定したいドライブのアイコンから順に選んでいきます。「Reset」アイコンを選ぶと順番がリセットされます。
ポインティング・ヘッド使って指定することもできます。

> 補足 HDD-1は内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブを、HDD-2はスマート・ピコ・フラッシュを意味します。

3 [Enter] キーを押す

始動優先順位が設定されイージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。[Esc] キーを押すと、設定を中止してイージー・セットアップ・メニュー画面に戻ります。

ヒント　始動優先順位を設定した場合の例

始動優先順位を次のように設定した場合、システム・ファイルがどこに存在するかによってドライブ名が変わります。

・優先順位１：FDD-1（外付けディスケット・ドライブ）
・優先順位２：PCMCIA（PCカード）

場合１：システム・ファイルがディスケットにあるとき

ディスケットからシステムが始動します。ドライブ名は、システムの内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブがCになり、ドライブDがPCカード、ドライブAが外付けディスケット・ドライブになります。

場合２：システム・ファイルをPCカードに導入し、ディスケットを取り出したとき

PCカードからシステムが始動します。ドライブ名は、ドライブCがPCカード、ドライブAが外付けディスケット・ドライブになります。そして、システムの内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブがドライブDになります。

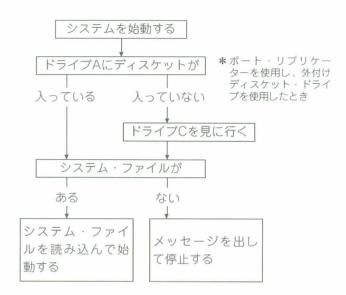
補足　ドライブのブート・デバイス別割り当ての表

ブート・デバイス	FDD	内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブ	スマート・ピコ・フラッシュ	PCカード（ATAカード）
内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブ（4MB）（HDD-1）	A: または B:	C:	(D:)	＊1
スマート・ピコ・フラッシュ（別売）（HDD-2）	A: または B:	D:	C:	＊1
PCカード（ATAカード）（別売）（PCMCIA）	A: または B:	D:	(E:)	C:

＊1：PlayAtWillまたは始動優先順位の設定により決定されます。

4 Advanced アドバンスト

ヒント　システムを始動するときの流れ（例）

システムを始動すると、次のことがおこなわれます。

内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブには、出荷時にオペレーティング・システムを始動するためのシステム・ファイルがあります。したがって、ディスケット・ドライブにディスケットが入っていなくても、オペレーティング・システムは始動します。正常に始動しない場合は、メッセージが表示されたり、何も画面に表示されないことがあります。（詳しくは⇒6-3ページ）

システム・テストを行う

本体のテストを行います。

> **重要** シリアル・コネクターとパラレル・コネクターに接続している機器は取り外してください。

1 「Test」アイコンを選ぶ

システム・テスト画面が表示されます。

2 「Start」アイコンを選ぶ

テストが開始されます。
テストの結果、問題がなかったものはOKが表示されます。
問題が見つかったものは、×印が付きます。
システム・テスト画面に表示されているアイコンのうち、実際に接続されていない機器については、淡色表示されます。

3 テストを終了する

［Esc］キーを押します。
メニュー画面に戻ります。

> **補足** HDD-1は内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブを、HDD-2はスマート・ピコ・フラッシュを意味します。

システム・テストの内容

SystemBoard　CPUなど本体のシステム・ボードのテストを行います。

Memory　メイン・メモリー（主記憶RAM）のテストを行います。

Display　液晶ディスプレイおよび外付けディスプレイのテストを行います。

FDD-1　ディスケット・ドライブ・コントローラーとディスケット・ドライブのテストを行います。外付けディスケット・ドライブが接続されていない場合は淡色で表示され、テストを行いません。

Parallel　パラレル・ポートのテストを行います。

Serial　シルアル・ポートと赤外線通信ポートのコントローラーのテストを行います。

PCMCIA　PCカード・コントローラーのテストを行います。

Internal Modem　内蔵ファックス／モデムのテストを行います。

HDD-1　内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブのテストを行います。

HDD-2　スマート・ピコ・フラッシュ（別売）のテストを行います。

PS2.EXE（機能設定）を活用する

PersonawareからPalm Top PCの各種機能の設定を行うことができます。

画面から設定する

機能設定メニューの「1.省電力機能設定」を使い、設定のしかたを説明します。

1 PersonawareのPower MGTを選ぶ

2 PS2.EXEの機能設定メニューが表示される

3 メニューを選ぶ

「1.省電力機能の設定」を選びます。

4 設定したい項目を選ぶ

［↓］キーや［↑］キーを押して、設定したい項目に反転表示部分を移動させます。

5

選択肢を選ぶ

現在の設定状態は［］の中に表示されています。

- ［*］は［→］キーや［←］キーで移動して選びます。
- ［X］はカーソルを［］に移動した後、［スペース］キーを押して選びます。
- 細かく設定する場合は、［F5］キーを押します。
- ポインティング・ヘッドを使って設定することもできます。

ヒント　選択肢の種類や使える数値の範囲など詳しいことを知りたいときは

［F1］キーを押すと［ヘルプ］画面が表示されます。「ヘルプ」画面が表示されているときは、項目の設定はできません。［Esc］キーを押すと「ヘルプ」画面がきえます。

6 設定を変更したい項目について、手順 4 ～ 5 を繰り返す

7 すべて設定し終わったら、［Enter］キーを押す

表示されている設定になります。

ヒント　設定を中止したいときは

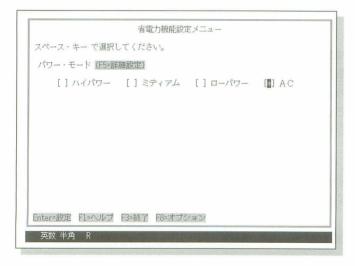
［Enter］キーを押さずに、［F3］キーを押します。

8 設定を終える

［F3］キーを押します

こんな設定ができる

機能設定メニューからは次のような設定ができます。

省電力機能設定

Palm Top PCでは、電力消費量を抑えるために次の設定ができます。バッテリーまたは電池で使用しているときには【ハイパワー】、【ミディアム】、または【ローパワー】のどれかを設定できます。バッテリー使用時の出荷時の設定は【ミディアム】の設定になっています。【ローパワー】を選ぶとバッテリーまたは電池を長持ちさせることができます。ACアダプターで使用しているときには【AC】の設定になります。

詳細設定について　（【F5】キー）

省電力機能設定メニュー

スペース・キー で選択してください。

パワー・モード (F5=詳細設定)

[ ] ハイパワー　[ ] ミディアム　[ ] ローパワー　[*] AC

< ACモード >

タイマー:　単位: 分
サスペンド・タイマー:　[00] ↑↓
ディスプレイ・タイマー:　[00] ↑↓

プロセッサー速度:
[*] 高速　[ ] 中速　[ ] 低速

Enter=設定　F1=ヘルプ　F3=終了　F5=初期値

英数 半角　R

パワー・モードでは各設定に対して必要に応じて詳細設定ができます。次の3つの設定をおこないます。

ー自動的にサスペンド（中断）状態になるまでの時間　【サスペンド・タイマー】
ー画面の電源が自動的に切れるまでの時間　【ディスプレイ・タイマー】
ーCPUの速度を高速、中速、または低速のどれかにする　【プロセッサー速度】

出荷時の設定は、次のような値になっています。

パワー・モード	タイマー		プロセッサー速度
	サスペンド・タイマー	ディスプレイタイマー	
ハイパワー	30分	17分	高速
ミディアム	10分	5分	高速
ローパワー	5分	3分	低速
AC	0分（サスペンドしない）	0分（オフしない）	高速

サスペンド・タイマー

Palm Top PCを使っていない状態でPalm Top PCが何分後に自動的にサスペンド状態（カバーを閉めたのと同じ状態）になるかを設定します。サスペンドすると、画面の電源も同時に切れます。サスペンド状態からレジュームするには、Fnキーを押すか、カバーを閉じてから開きます。時間は、0.1分から1分まで0.1分刻み、1分から99分まで1分刻みに設定できます。0分にするとサスペンド状態になりません。

ディスプレイ・タイマー

画面の電源が何分後に自動的に切れるかを設定します。電源が切れると、画面に何も表示されなくなります。
作業を再開するときは[Shift]キーを押してください。
時間は、0.1分から1分まで0.1分刻み、1分から17分まで1分刻みに設定できます。0分にすると電源が切れません。

プロセッサー速度

プロセッサー速度には次の三つのモードがあります。［高速］にすると電力消費量が増します。次の速度で動作します。

高　速 …… 33MHzで動作します
中　速 …… 16MHzで動作します
低　速 …… 8MHzで動作します

ヒント
PS2.EXEで「省電力」「F 5 詳細」「中速」のときのみ、中速（16MHz）となります。

重要 プロセッサー速度を低速または中速にした場合、アプリケーション・ソフトによっては、入出力が少し途切れると正常に動かなくなることがあります。このようなアプリケーション・ソフトを使用するときには、プロセッサー速度を高速にしてください。入出力が途切れても正常に働きます。

オプションについて（［F8］キー）

```
サスペンド／レジューム・オプション設定メニュー

スペース・キー で選択してください。

 サスペンド・オプション

      [■] LCD を閉じてもサスペンドしない


 レジューム・オプション

      [ ] レジューム・タイマー

          日付:                  時刻:
          [----]-[--]-[--] ↑↓    [--]:[--]:[--] ↑↓
          [ ] 毎日

      [ ] モデム着信


Enter=設定  F1=ヘルプ  F3=終了
  英数 半角  R
```

ーサスペンド・オプション

●LCDを閉じてもサスペンドしない

使用中にカバーを閉めることにより、サスペンド状態にするかしないかを設定します。

有効‥‥‥閉めてもサスペンドしない。

無効‥‥‥閉めるとサスペンドする。出荷時には、この設定になっています。

> **ヒント　「LCDを閉じてもサスペンドしない」を有効にするのは**
> 外付けディスプレイを接続する場合に、無効のままでカバーを閉めるとサスペンドしてしまい、画面に表示されなくなります。このときは有効に設定してください。

ーレジューム・オプション

●レジューム・タイマー

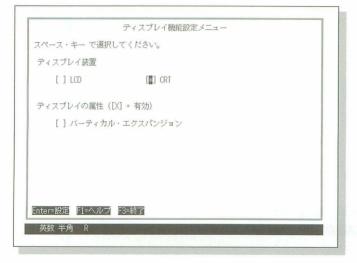
Palm Top PCがサスペンドしている状態で、設定した日時になるとレジュームさせることができます。設定方法は、レジューム・タイマーの［　］を選んで［X］としたうえで、変更したい数字（年、月、日、時間）をクリックした後、右の矢印部分をクリックしておこないます。

●モデム着信によるレジューム

Palm Top PCが電源オフまたはサスペンドしている状態で、内蔵ファックス/モデムやPCカード・スロットに接続したモデムに着信（リングインジケーター）があったときに自動的にレジュームするかしないかを設定します。（PCカードによって着信をサポートしていない場合もあります。）

有効……着信があると起動またはレジュームする。

無効……着信があっても起動またはレジュームしない。電源オフまたはサスペンド中にFAXを受信するときは「有効」に設定してください。

ディスプレイ機能設定

Palm Top PCを使用中に、液晶ディスプレイから外付けディスプレイ、外付けディスプレイから液晶ディスプレイに切り替えます。（外付けディスプレイを接続する⇒4-24ページ）

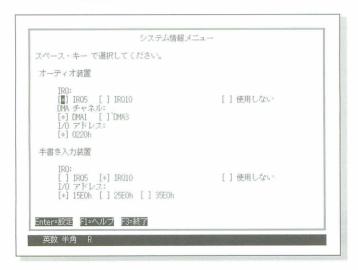
LCD ………… 液晶ディスプレイに表示する。

CRT ………… 外付けディスプレイに表示する。ただし、外付けディスプレイが接続 されていない場合は液晶ディスプレイに表示されます。

バーティカル・エクスパンション

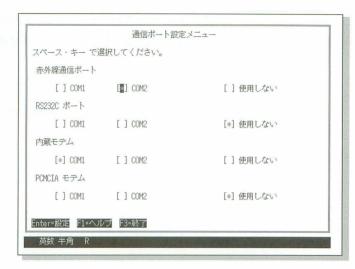
英語モードで使用している場合、画面表示を縦方向に伸張することができます。
ただし、文字が縦方向に伸張するわけではありません。

> **補足**
> 英語モードの使用にはDOSをフルセットで導入する必要があります。

システム情報

オーディオ機能の割り込みレベル（IRQ）とDMAチャネルを変更することができます。I/Oアドレスの確認もできます。また、メモ・パッドの割り込みレベル（IRQ）とI/Oアドレスも変更することができます。

> **ヒント** Palm Top PCでWindowsを使っていて（⇒4-81ページ）、割り込みレベルまたはI/Oアドレスを変更した場合は、Windowsの「コントロール パネル」の「ドライバ」で設定を合わせてください。合っていないとオーディオ機能を使うことができません。割り込みレベル、DMAチャネル、またはI/Oアドレスを変更した場合は、システムを再始動してください。

通信ポート設定

通信ポート設定メニュー
スペース・キー で選択してください。
赤外線通信ポート
[ ] COM1 [*] COM2 [ ] 使用しない
RS232C ポート
[ ] COM1 [ ] COM2 [*] 使用しない
内蔵モデム
[*] COM1 [ ] COM2 [ ] 使用しない
PCMCIA モデム
[ ] COM1 [ ] COM2 [*] 使用しない
Enter=設定 F1=ヘルプ F3=終了
英数 半角 R

通信ポートでは、赤外線通信ポート、シリアル・ポート（RS232Cポート）、内蔵モデム、またはPCMCIAモデムの4つのうち、2つまでを「COM 1」と「COM 2」として使用可能にできます。使わないすべてのポートを「使用しない」にすることができます。この設定により、使わないポートには電源は入りません。

ヒント　ポート番号の設定

同一のポート番号に複数の装置を割り付けることはできません。設定を変更した場合は、システムを再始動してください。

重要

赤外線通信ポートとシリアル・ポート（RS232Cポート）の両方を同時に使用可能とすることはできません。

コマンド・プロンプトから設定する

DOSのコマンド・プロンプトに適切なコマンドを入力してください。パラメーター１およびパラメーター２の（　）で括られた小文字はタイプする必要はありません。

> **重要**
> WindowsのDOSプロンプト（全画面表示およびウィンドウ表示共に）からは、PS2.EXEは使えません。

コマンド形式

PS2␣パラメーター１␣パラメーター２

パラメーター１	パラメーター２
PM（ode）	H（igh）｜M（edium）｜L（ow）

例：　PS2 PM L

パワー・モードをローパワーに設定します。

PO（wer）	XX（minutes）

例：　PS2 PO 3

自動的にサスペンド状態に入るまでの時間（サスペンド・タイマー）を３分に設定します。

XX：0～99

LC（d）	XX（minutes）

例：　PS2 LC 5

自動的に画面の電源が切れるまでの時間（ディスプレイ・タイマー）を５分に設定します。

XX：0～17

SP（eed）	F（ast）｜M（edium）｜S（low）

例：　PS2 SP S

プロセッサー速度を低速に設定します。

DEFAULT	−

例：　PS2 DEFAULT
PO（wer）、LC（d）、DISK、SP（eed）の四つの項目を出荷時の設定にします。

SC（reen）	LCD	CRT

例：　PS2 SC LCD
Palm Top PCの液晶ディスプレイの画面にだけ表示します。

VEXP（ansion）	ON	OF（f）

例：　PS2 VEXP ON
英語モードを使用中、画面表示を縦方向に伸張します。

補足
英語モードの使用には、DOSをフルセットで導入する必要があります。
（⇒4-78ページ）

C（over switch）	E（nable）	D（isable）

例：　PS2 C D
カバーを閉めても中断しません。

CL（ick）	ON	OF（f）

例：　PS2 CL OF
キーを入力するときのクリック音が出なくなります。

ON （at）	（yyyy-mm-dd） HH：MM：ss	C（lear）

例：　PS2 ON 23:59:01
サスペンド状態から11:59:01 p.m.にレジュームします。
yyyy：1995～2099, mm：01～12, dd：01～31, HH：00～23, MM：00～59, ss：00～59（省略可能）
PS2 ON C
セットした時間を解除します。

RI	E（nable）｜D（isable）

例：　PS2 RI E

サスペンド状態のときに、ファックス/モデム・ポートまたはPCカードからのモデム着信によってレジュームします。

IRQAU（dio）	5｜10｜D（isable）

例：　PS2 IRQAU 5

オーディオ機能の割り込みレベルを 5 に設定します。このパラメーターを有効にするには、Palm Top PCを始動し直してください。

DMAAU（dio）	1｜3

例：　PS2 DMAAU 1

オーディオ機能のDMAチャネルを 1 に設定します。このパラメーターを有効にするには、Palm Top PCを始動し直してください。

ADDINK（ing）	15E0｜25E0｜35E0

例：　PS2 ADDINK 15E0

メモ・パッドのI/Oアドレスを 15E0 に設定します。このパラメーターを有効にするには、Palm Top PCを始動し直してください。

IRQINK（ing）	5｜10｜D（isable）

例：　PS2 IRQINK 5

メモ・パッドの割り込みレベルを5に設定します。
このパラメーターを有効にするには、Palm Top PCを始動し直してください。

重要 Palm Top PCでWindowsをお使いの方で、割り込みレベル、DMAチャネル、I/Oアドレスなどを変更した場合は、Windowsの「コントロール パネル」の「ドライバ」の設定も変更してください。

SE（rial）	1 ｜ 2 ｜ D（isable）

例： `PS2 SE 2`

シリアル・ポートをポート番号2に設定します。このとき、赤外線通信ポートは使えません。（赤外線通信ポートとシリアル・ポートを同時に使うことはできません。）

IR	1 ｜ 2 ｜ D（isable）

例： `PS2 IR 2`

赤外線通信ポートをポート番号2に設定します。このときシリアル・ポートは、使えません。（赤外線通信ポートとシリアル・ポートを同時に使うことはできません。）

IMODEM	1 ｜ 2 ｜ D（isable）

例： `PS2 IMODEM 1`

内蔵FAX/MODEMを通信ポート1に設定します。

PMODEM	1 ｜ 2 ｜ D（isable）

例： `PS2 PMODEM 1`

PCMCIAモデムを通信ポート1に設定します。
PCMCIAモデムをスロットに挿入し、Palm Top PCの電源を入れると、自動的に通信ポート1に割り付けられます。

OFF	―

例： `PS2 OFF`

このコマンドを実行すると、Palm Top PCがサスペンド状態になります。レジュームするにはFnキーを押すか、カバーを閉めて開けます。

DOSをフルセットで使う

本体に内蔵の4MBフラッシュ・メモリー・ドライブには、DOS J7.0／Vが最小限の構成でインストールされています。付属のディスケットでフルセットのDOS J7.0／Vをインストールするには、最低でも15MB以上のスマート・ピコ・フラッシュかPCカード・フラッシュ・メモリーまたはPCカード・ハードディスクが必要です。また本体のみでインストールするには、オプションのポートリプリケーターとディスケット・ドライブを用意して事前に接続してください。Palm Top PC以外のパソコンを利用する場合は、その機種がPCカード・ブート（ATAブート）可能である必要があります（たとえばThinkpad 230Csや530CSなど）。

> **補足**
> モデルによっては付属のハード・ディスクにDOSがフルセットでインストールされています。この場合はDOSのディスケットは付属していません。

DOSをフルセットでインストールする

DOSをインストールする方法は本体のみで行う場合も、他のパソコンを利用する場合も同じです。最初にスマート・ピコ・フラッシュやPCカード・フラッシュ・メモリーまたはハードディスクをフォーマットして、システムを転送しておく必要があります。この作業を行わないとドライブとして認識されません。次にイージー・セットアップ（Easy-Setup）を使用して、このスマート・ピコ・フラッシュやPCカード・フラッシュ・メモリーなどをブート・ドライブ（ドライブC）に設定します。（⇒4-60ページ）最後にDOSのセットアップ・ディスケットを入れてブートし、インストールを行います。次に手順を示します。

1 ディスケット・ドライブに「PC DOS J7.0/Vセットアップ・ディスケット DISK1」を挿入する。

本体からポートリプリケーター経由でディスケット・ドライブを接続する方法は、4-29ページを参照してください。

2 本体にスマート・ピコ・フラッシュ、PCカードフラッシュ・メモリーまたはPCカードハードディスクを挿入する。

各々の取り付け方法は4-12ページを参照してください。

3 電源をオンにしてPalm Top PCを始動する。

DOS J7.0/Vが始動してセットアップの初期画面が表示されます。

4 [F3]キーを2回押してセットアップを一度終了する。

DOS J7.0/Vのコマンド・プロンプトが表示されます。

5 コマンド・プロンプトから`A:¥>format d:/s`コマンドでPCカードなどをフォーマットする。

本体に挿入されたPCカード（スマート・ピコ・フラッシュ、フラッシュ・メモリーPCカード、PCカード・ハードディスクなど）は、通常ドライブDになります。PCカードやスマート・ピコ・フラッシュを合計2枚以上挿入している場合は、そのPCカードに割り当てられているドライブ文字をformatコマンドで指定してください。フォーマットとともにDOSシステムも転送されます。

6 フォーマットが終了したら、本体の電源をオフにする。

一度電源を切ります。次は今フォーマットしたPCカードなどをブート・ドライブに設定します。

7 ディスケット・ドライブから「PC DOS J7.0/Vセットアップ・ディスケット DISK1」を取り出す。

ディスケットから始動してしまうので一度、ディスケットを取り出します。

8 [F1]キーを押しながら本体の電源をオンにする。

イージー・セットアップ（Easy-Setup）の画面が表示されます。

9 フォーマットしてDOSシステムを転送したPCカードなどをブート・ディスクに設定する。

「始動優先順位を設定する」（⇒4-60ページ）を参照して、Start upからPCカードなどの優先順位をディスケット・ドライブ（FDD-1）の次に設定します。フラッシュ・メモリーPCカードやハードディスクPCカードなら「FDD-1」「PCMCIA」「HDD-1」の順に、スマート・ピコ・フラッシュなら「FDD-1」「HDD-2」「HDD-1」の順に設定します。

補足

HDD-1は内蔵の4MBフラッシュ・メモリー・ドライブを、HDD-2はスマート・ピコ・フラッシュを示しています。

10 ディスケット・ドライブに「PC DOS J7.0/Vセットアップ・ディスケット DISK1」を再び挿入する。

DOS J7.0/Vをインストールする準備です。

11 イージー・セットアップ（Easy-Setup）からRestartを選択して[Enter]を押して再始動する。

DOS J7.0/Vが始動してセットアップの初期画面が表示されます。あとは画面に従ってインストールします。

重要　10MB以下のPCカードやスマート・ピコ・フラッシュへのインストール

10MBのサイズにDOS J7.0/Vをインストールするには、DOSセットアップの選択で最小限の構成にする必要があり、さらに作業エリアはほとんど確保できません。そのため15MB以上のPCカードや、15MB以上のスマート・ピコ・フラッシュにインストールすることをお勧めします。

重要　ディスクがDOSのインストールで認識されない場合

以上の手順でDOSのインストールがうまくできない場合は、「システム・インストール・ディスケット」を入れて再始動してください。メニューから「区画設定プログラム(FDISK)の起動」を選択し、DOSをインストールしようとしているPCカードまたはスマート・ピコ・フラッシュに基本区画を設定してください。さらにメニューから「ドライブ・イメージの復元」でPalm Top PC用DOSを、そのPCカードにインストールしてください。その後上記ステップ8から継続してインストールできます。

Windowsを使う

日本語Windows 3.1を使用するには、Palm Top PCのメイン・メモリーを8MBにする必要があります。4MBモデルをお持ちの方は、8MBモデルへのアップグレードを受けてください。またWindowsをインストールする前に「DOSをフルセットでインストールする」（⇒4-78ページ）を参照してDOSをインストールしてください。

Windowsをインストールする

DOS J7.0/Vのインストールが終了して再始動すると、DOSシェルが始動します。以下にDOSシェルの画面が始動してからのインストール手順を示します。なお、前提としてポート・リプリケーターとディスケット・ドライブがPalm Top PCに接続されているものとします。

1 [F3]を押してDOSシェルを終了する。

DOSシェルが終了して画面にはコマンド・プロンプトが表示されます。

2 ディスケット・ドライブにIBM版「Microsoft Windows Version 3.1 ディスク1」を挿入する。

Windowsのインストールの準備をします。

3 a:[Enter]でドライブAに変更する。

カレント・ドライブがディスケット・ドライブになり、A:¥>のコマンド・プロンプトが表示されます。

4 setup[Enter]でWindowsのインストールを開始する。

あとは画面に従ってインストールしてください。「コンピュータ：」は「DOS/V System with APM」「ディスプレイ：」は「VGA」の選択でインストールしてください。

重要　Windowsインストールの注意点

- Windowsをインストールして CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BAT内のファイルのパスがC:¥WINDOWSに書き変わる場合には、C:¥DOSに訂正してください（EMM386、SMARTDRVなど）。DOS J7.0/VのEMM386やSMARTDRVの方が最新です。またドライブC以外にはインストールしないでください。ドライブ文字がPCカードの抜き差しやイージー・セットアップで変更されると、正しく動作しません。
- 事前にWindowsをインストールするドライブに十分な容量が残っていることを確認してから、インストールを行ってください。

Windowsにディスプレイ・ドライバーをインストールする

Windowsをインストールしたら、Windowsの表示を高速化し256色表示するため、Palm Top PC専用のディスプレイ・ドライバーをインストールします。本体に付属の「ユーティリティー・ディスケット1」を用意してください。

1 **[F3]キーでDOSシェルを終了する。**

DOSを始動するとDOSシェルが始動するのでそれを終了します。

2 cd windows**[Enter]キーでWindowsのディレクトリーに移動する。**

インストールを行うため、Windowsのディレクトリーに移動します。

3 setup**[Enter]キーでセットアップを開始する。**

Windowsセットアップが始動します。

4 **[↑]矢印キーで「ディスプレイ」にカーソルを移動して[Enter]キーを押す。**

「ディスプレイ」からリストが現われます。

5 **一覧から「その他(ハードウェアメーカが提供するディスクが必要)」を[↓]下矢印キーで選択し[Enter]キーを押す。**

ディスケットの挿入を促すパネルが表示されます。

6 **ドライブAに「ユーティリティー・ディスケット1」を入れて[Enter]キーを押す。**

ディスケットの内容が読み込まれ、ディスプレイ・ドライバーが一覧されます。

7 「CHIPS 65535 640x480 256色 ゴシック 9pt.」を選択し[Enter]キーを押し、a:[Enter]でドライブを指定する。

ドライバーのインストールが開始します。外部ディスプレイを接続している場合は800x600 16色の方を選択することもできます。またフォントのサイズはゴシック 9pt.以外でもかまいません。

8 Win [Enter]キーでWindowsを始動する。

インストールが終了するとWindowsのディレクトリーが表示されます。上記のコマンドでWindowsを始動します。256色表示が使用できます。

補足

Palm Top PCに外部ディスプレイを接続して800×600の解像度で使用した場合、色数は16色となります。

Windowsにサウンド・ドライバーをインストールする

Palm Top PCには業界標準のサウンド・カードと互換のチップを使用したモノラル・オーディオ機能が搭載されています。ここではWindowsにサウンド・ドライバーをインストールする手順を説明します。インストールはWindowsの初期画面から開始します。Windowsの「ディスク5」を用意してください。

1. **「メイン」フォルダー内の「コントロール パネル」アイコンをダブルクリックする。**
   コントロール パネルの各種設定アイコンが表示されます。

2. **「ドライバ」アイコンをダブルクリックする。**
   ドライバの一覧が表示されます。

3. **「追加」ボタンをクリックする。**
   追加するドライバの一覧が表示されます。

4. **「Creative Labs Sound Blaster** 1.5」を一覧からダブルクリックする。**
   ディスケットの挿入を促すパネルが表示されます。

5. **ドライブAにWindowsのディスク5を挿入して[Enter]を押す。**
   サウンド・ドライバーのインストールが開始します。

6. **ポートは220、割り込みは5を選択する。**
   Palm Top PCではこのように選択してください。

7. **「再起動」のボタンをクリックする。**
   Windowsが再始動して始動サウンドが鳴ります。

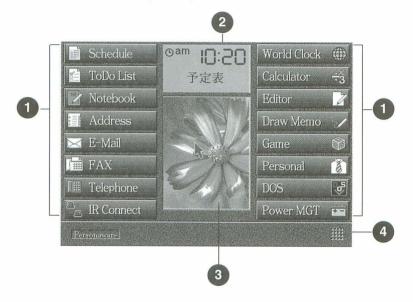
第5章

Reference

リファレンス

この章では、Personawareの各機能を機能別に参照できます。

ランチャー機能

Personawareのメイン・メニューはDOSの上で動作するひとつのランチャー・プログラムです。ランチャーとは、多数のプログラムをまとめて管理し、一覧からスタートするためのアプリケーションのプログラムのことです。発射台のような役割をするためランチャーと呼びます。

1 プログラム名エリア

ここにはプログラム名が並んでいます。左側は固定ですが、右側は矢印キーや前ページ、次ページ・キー、F7、F8キーでスクロールします。またF2キーで登録もできます。

2 デジタル時計

現在の時刻が表示されます。設定の変更はWorld Clockから行うか、DOSからTIMEコマンドで変更できます。

3 ピクチャー表示エリア

ここには各プログラム名に関連付けられた、ビットマップ・ファイルが表示されます。

4 ファンクション・キー・エリア

ランチャーのファンクション・キー・エリアは通常は隠れています。F12キーまたは右下のマークをクリックして表示できます。ランチャーにプログラムを追加したり、削除、変更する場合にのみ、このファンクション・キーを使用します。Personawareの終了はCtrlキーを押しながらQ キーを押します。もう一度Personawareを起動するには，電源を入れ直すか，DOSプロンプトでpw Enter と入力してください。

ヘルプ

ランチャーに関するヘルプを表示します。

追加

ランチャーにプログラム名とプログラムを登録します。追加されたプログラムはカーソルの直前に追加されます。追加は右側の列のみ可能です。

削除

ランチャーからプログラム名を削除します。ただし初期登録済みの16個は削除できません。

変更

カーソルが示しているプログラム名と関連項目を変更します。ただし初期登録済みの16個は変更できません。

移動

登録されているプログラムの位置を移動します。右側のアプリケーションのみ有効です。移動対象のアプリケーションは点滅します。矢印キーかマウス・ポインターで直接入れかえてください。矢印キーを使用する場合、確定はスペース・キー（またはEnterキー）またはEscキーです。

未使用

前方スクロール

右側のプログラムのボタンが上方向へスクロールします。（16個以上追加した場合）

後方スクロール

右側のプログラムのボタンが下方向へスクロールします。（16個以上追加した場合）

未使用

秘書機能呼び出し

今日のイベントやバイオリズム、数日後までの予定が一覧できます。（秘書機能⇒5-7ページ）

設定

各設定を行います，また状態を保存後電源をオフにします。

パネルのオン／オフ

ファンクション・キーの機能をアイコン表示する最下段のパネルを表示/非表示します。

キー操作

ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

キー	機能
↑ ↓ ← →	プログラム名を選択するカーソルを上下左右に移動します。
Enter	カーソルのある位置のプログラムを実行します。
F12	最下段のパネルを表示/非表示します。
Page Up	前方にスクロールします。
Page Down	後方にスクロールします。
Home	登録してあるプログラムの先頭へカーソルが移動します。
End	登録してあるプログラムの最後へカーソルが移動します。

ランチャー機能

アプリケーションの登録

Personawareのランチャーには、プログラムの登録機能があります。新規に登録する場合はF2キー、すでに登録されているボタンを変更する場合はF4キーを押します。次のパネルが現れます。

1 主タイトル

中央の上方に表示されるプログラムの内容を入力します。

2 ボタンタイトル

ボタンの上に表示されるプログラム名を入力します。

3 実行ファイル

コマンドラインから実行されるコマンドを入力します。一般的にはDOSのプログラム・ファイル名を指定します。

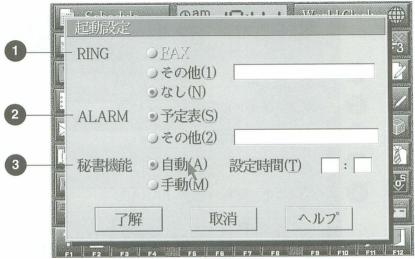
4 アイコン

ボタン上に表示されるアイコンのファイル名を指定します。未指定の場合は、デフォルトのアイコンが選択されます。

5 ピクチャー

Personawareのメインパネルの中央部に表示されるイメージのファイル名を指定します。この「ピクチャー」を指定して各プログラムにカーソルを移動すると、それに関連したイメージが中央に表示されるようになります。イメージはC:¥PW¥SYSTEMにあるものを参照します。イメージ・ファイルはWindowsのVGA16色カラー（190×250）のBMPファイルです。未指定の場合は、デフォルトのピクチャーが選ばれます。

起動設定

Personawareのランチャーから F11キーを押すと、「各種設定と終了」を選択できます。その中の「起動設定」は電話の呼び出しやアラーム時刻で、アプリケーションを起動する設定を行います。

❶ **モデム着信**
電話がかかってきたとき、どのアプリケーションを起動するかを指定します。「その他」では他のアプリケーションのプログラム名を指定できます。FAX受信待機中のとき、FAXにセットしてください。

❷ **アラーム**
アラームを設定でどのアプリケーションが起動するかを指定します。「その他」では他のアプリケーションのプログラム名を指定できます。

❸ **秘書機能**
「自動」を指定して「設定時間」を設定すると、設定時間を過ぎてPersonawareを起動した場合に限り、1回だけ自動的に秘書機能が呼び出される設定になります。夜の12時以降に翌日の予定が表示されてしまうのを防ぐための機能です。

重要 サスペンド中または電源オフの状態から、モデム着信時に起動させるためには，Power MGTで「モデム着信」を選択してください。

パネル設定

F11キーを押して「パネル設定」を選択すると、アプリケーションを起動するためのクリック回数の設定や、ボタン名を英語から日本語へ一瞬で変更できる、主タイトルとボタンタイトル入れ替えが可能です。

Secretary 秘書機能

すでに入力済みの予定表や備忘録データ、アドレス帳個人情報、今日の日付と時刻、バイオリズムなどを利用して、本日の予定や数日後までの予定が一覧できる機能です。ランチャーからF10キーで実行します。

1 今日のタイトル
今日の年月日と六曜を表示します。

2 今日の予定
予定表で入力した今日の予定のうち、現在時刻以降でかつ最近の予定を最大で3件表示します。

3 今日の備忘録
備忘録で入力した予定のうち、その期日を過ぎている、または期日が今日の予定を、順に最大で3件表示します。期日を過ぎている予定は赤で表示します。

4 今日の情報
個人情報で入力した記念日や各種有効期限、あるいはアドレス帳で入力した誕生日などの情報のうち、今日がその日のものを最大で3件表示します。

5 バイオリズム
個人情報で入力した誕生日データと今日の日付をもとにしてバイオリズムを計算し表示します。

6 近い将来の予定
予定表で入力した将来の予定のうち、最近の予定を最大で7件表示します。

❼ 近い将来の備忘録

備忘録で入力した予定のうち、その期日が将来の予定を、最大で3件表示します。

❽ 近い将来の情報

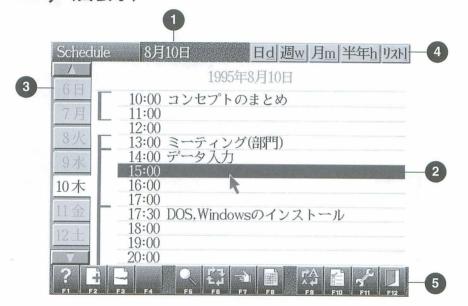
個人情報で入力した記念日や各種有効期限、あるいはアドレス帳で入力した誕生日などの情報のうち、最近の情報を最大で3件表示します。

> **ヒント**
>
> ❻-❽の近い将来についての表示には今日の予定や情報は含まれません。
>
> また表示される予定や情報は、それが過去のものとなるか、あるいは各プログラムにおいてその予定や情報を消去または変更するまで表示され続けます。
>
> 予定表、備忘録、アドレス帳、または個人情報で入力したデータ・ファイルをバックアップするなどして、ファイルが各々複数個ある場合は、各アプリケーションが現在選択しているファイルの中からのみデータが検索されます。したがって、バックアップファイルからは検索表示されません。
>
> また各データ・ファイルの大きさが非常に大きい場合、検索するのに時間がかかる場合があります。

Schedule

予定表機能

Personawareの一番重要な機能はスケジューラーによるスケジュール管理です。Personawareではスケジュールがファンクション・キーひとつで多角的に確認できます。この機能でスケジュールをマクロとミクロの視野で検討することできます。

Daily（日表示）

❶ 今日の日付
正しい日付が設定されていれば、今日の予定を入力するページが開きます（日付の設定⇒3-43ページ）。

❷ 選択している時刻
正しい時刻が設定されていれば、F8キーで現在の時刻にカーソルが移動して表示されます（時刻の設定⇒3-43ページ）。Page Up, Page Downキーで画面は前後に一画面づつスクロールします。

❸ 日付変更タブ
←, →キーで日付を1日づつ移動できます。

❹ 表示切り替えボタン
日、週、月、半年、リスト表示にそれぞれd,w,m,h,lキーで瞬時に切り替わります。

❺ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ

スケジューラーの日表示に関するヘルプを表示します。

追加

カーソルのある時間に予定表を登録します。編集画面が表示されます。これはカーソルの位置でEnterキーを押すのと同じ意味です。

削除

スケジューラーからカーソルの位置の予定表を削除します。Deleteキーを押しても同じです。

未使用

検索

予定表に入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り替え

日表示、週表示、月表示、半年表示、一覧表示を順番に一望できます。

ジャンプ機能オン／オフ

他の日へ直接ジャンプするためのカレンダーを2ヵ月分表示します。もう一度押すとオフします。ジャンプは矢印キーまたはポインターで日付を指定してEnterキーを押します。ジャンプ指定の他にもカレンダーの参照用としても便利な機能です。Tab ⇥ キーを押し、直接日付を入力することもできます。

現在の日付と時刻へ戻る

現在の日付と時刻にカーソルが戻ります。別の日を見た後で瞬時に戻る場合に便利です。

フォントの大きさ変更

予定表を表示しているフォントが、4種類の大きさに順番に変更されます。画面を見やすくしたり、予定表を一望することが瞬時に行えます。

備忘録へジャンプ

予定を計画しながら備忘録を参照したい場合はこのキーを押してください。同じキーをもう一度押すと日表示へ戻ります。

設定

各種のオプション、休日、年号、表示時間幅の設定、予定表・データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

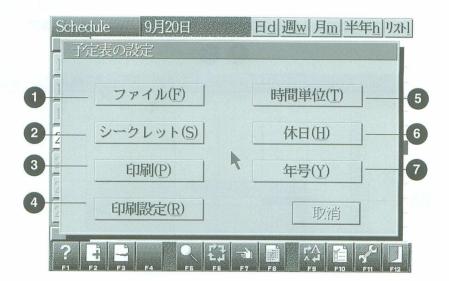
終了

予定表を終了します。

Schedule

予定表機能

設定パネル

ここではF11キーで表示される設定パネルについて解説します。移動は矢印キー、選択はスペース・キーで行います。

❶ ファイル

予定表のデータを入れておくファイルのオープン、別名保管，削除が行えます．ファイルのオープンで新しいファイル名を指定すると、予定表の新規作成ができます。

❷ シークレット

シークレット・モードをオン/オフします。（シークレット機能⇒4-5ページ）

❸ 印刷

日表示と月表示で予定表を印刷します。DOSで正しいプリンター・ドライバーがポート・リプリケーター経由で設定され、本体にプリンターが接続されている必要があります。（⇒A-42ページ）

❹ 印刷設定

プリンターの種類を選択します。

❺ 時間単位設定

日表示および週表示の予定表で何分間隔で予定表を表示するかを指定します。既定値は1時間で、30分や15分も選べます。「日表示ではイベントの時刻のみ表示」チェックボックスをオンにすると、日表示でイベントのある時間のみが表示できます。

❻ 休日

年間の休日を設定できます。
会社の設立記念日なども入れられます。

❼ 年号

新しい年号にも対応できるオプションです。追加や変更が行えます。

Schedule **予定表機能**

Weekly（週表示）

スケジューラーの「日表示」からF6キーを押すと瞬時に「週表示」の画面になります。Personawareではこのように予定表がビジュアルに表示され、週が見渡せるようになっています。フォント変更機能と組み合わせて使用すると、全体の予定表の詰まり具合が一目で分かり、予定をバランスよく配分できます。

1 前週ボタン
前の週を表示します。pキーを押しても同じです。

2 次週ボタン
次の週を表示します。nキーを押しても同じです。

3 選択している時刻
正しい時刻が設定されていれば、F8キーで現在の時刻にカーソルが移動して表示されます（時刻の設定⇒3-43ページ）。Page Up, Page Downキーで画面は前後に一画面ずつスクロールします。

4 表示切り替えボタン
前週、次週、日、週、月、半年、リスト表示にそれぞれp,n,d,w,m,h,lキーで瞬時に切り替わります。

5 ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ

スケジューラーの週表示に関するヘルプを表示します。

追加

カーソルのある時間に予定表を登録します。編集画面が表示されます。これはカーソルの位置でEnterキーを押しても同じです。

削除

スケジューラーからカーソルの位置の予定表を削除します。Deleteキーを押しても同じです。

未使用

検索

予定表に入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り替え

週表示、月表示、半年表示、一覧表示、日表示を順番に一望できます。

ジャンプ機能オン／オフ

他の日へ直接ジャンプするためのカレンダーを2ヵ月分表示します。もう一度押すとオフします。ジャンプは矢印キーまたはポインターで日付を指定してEnterキーを押します。ジャンプ指定の他にもカレンダーの参照用としても便利な機能です。Tab ⇥ キーを押し、直接日付を入力することもできます。

現在の日付と時刻へ戻る

現在の日付と時刻にカーソルが戻ります。別の日を見た後で瞬時に戻る場合に便利です。

フォントの大きさ変更

予定表を表示しているフォントが、4種類の大きさに順番に変更されます。画面を見やすくしたり、予定表を一望することが瞬時に行えます。

備忘録へジャンプ

予定を計画しながら備忘録を参照したい場合はこのキーを押してください。同じキーをもう一度押すと週表示へ戻ります。

設定

各種のオプション、休日、年号、表示時間単位の設定、予定表・データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

終了

予定表を終了します。

キー操作

ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

キー	機能
↑ ↓	時間を選択するカーソルが上下に移動します。
← →	週の間をカーソルが左右に移動します。
Enter	カーソルのある位置にスケジュールを追加、またはその位置にすでにスケジュールがあれば変更の画面になります。
Tab→| Tab|←	時刻指定「なし」のスケジュールへカーソルを移動します。
Esc	スケジューラーを終了します。確認パネルが出ます。
Delete	カーソルの位置のスケジュールを削除します。
Page Up Page Down	前後に一画面づつスクロールします。

Schedule 予定表機能

Monthly（月表示）

スケジューラーの「週表示」からF6キーを押すと、瞬時に「月表示」の画面になります。月のカレンダーに書き込まれた予定表を見渡せば、大きな視点で予定表管理が行えます。フォント変更機能で小さいフォントに設定すれば、一覧がしやすくなります。

❶ 月変更タブ
月の変更を行えます。Page Up, Page Downキーでも前月、次月へ移動できます。

❷ 今日の日付
正しい日付が設定されていれば、今日の日付にカーソルが移動して表示されます（日付の設定⇒3-43ページ）。数字が反転して表示されているのが今日の日付です。

❸ 表示切り替えボタン
日、週、月、半年、リスト表示にそれぞれd,w,m,h,lキーで瞬時に切り替わります。

❹ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
スケジューラーの月表示に関するヘルプを表示します。

追加
カーソルのある位置の日付の「日表示」画面になります。予定表の追加、または変更をしたければ、さらに時刻を選択してEnterキーを押します。これはカーソルの位置でEnterキーを押しても同じです。

削除
その日のデータをすべて削除します。

未使用

検索
予定表に入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り替え
月表示、半年表示、一覧表示、日表示、週表示を順番に一望できます。

ジャンプ機能オン／オフ
他の日へ直接ジャンプするためのカレンダーを2ヵ月分表示します。もう一度押すとオフします。ジャンプは矢印キーで日付を指定してEnterキーを押します。ジャンプ指定の他にもカレンダーの参照用としても便利な機能です。Tab ⇥ キーを押して直接日付を入力することもできます。

現在の日付へ戻る
現在の日付にカーソルが戻ります。別の日を見た後で瞬時に戻る場合に便利です。

フォントの大きさ変更
予定表を表示しているフォントが、2種類の大きさに交互に変更されます。画面を見やすくすることが瞬時に行えます。

備忘録へジャンプ
予定を計画しながら備忘録を参照したい場合はこのキーを押してください。同じキーをもう一度押すと月表示へ戻ります。

設定
各種のオプション、休日、年号、表示時間幅の設定、予定表・データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

終了
予定表を終了します。

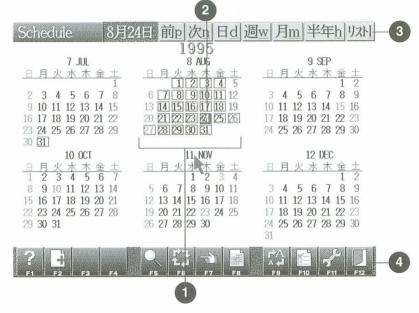
キー操作

ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

キー	機能
↑ ↓ ← →	日付を選択するカーソルが上下左右に移動します。
Enter	カーソルのある位置の日付の「日表示」画面になります。予定表の追加、または変更をしたければ、さらに時刻を選択してEnterキーを押します。「月表示」画面に戻るにはEscキーを押します。
Tab→| Tab|←	未使用
Esc	スケジューラーを終了します。確認パネルがでます。
Delete	カーソルがある日の予定表をすべて削除します。
Page Up Page Down	前の月、次の月に移動します。

Schedule **予定表機能**

6 Month（半年表示）

スケジューラーの「月表示」からF6キーを押すと瞬時に「半年表示」の画面になります。現在の月が含まれる1-6月、または7-12月の半年のカレンダーが表示されます。予定がある日は四角で日付が囲まれるので、一見して予定表のつまり具合が分かります。

❶ 予定のある日の表示

四角で囲まれているのが予定の入力されている日です。Page Up, Page Downキーで前の半年、次の半年へ移動できます。

❷ 今日の日付

正しい日付が設定されていれば、F8キーで今日の日付にカーソルが移動して表示されます（日付の設定⇒3-43ページ）。数字が反転して表示されているのが今日の日付です。

❸ 表示切り替えボタン

前半年、次半年、日、週、月、半年、リスト表示にそれぞれp,n,d,w,m,h,lキーで瞬時に切り替わります。

❹ ファンクション・キー・エリア

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
スケジューラーの半年表示に関するヘルプを表示します。

追加
カーソルのある位置の日付の「日表示」画面になります。予定表の追加、または変更をしたければ、さらに時刻を選択して Enterキーを押します。これはカーソルの位置でEnterキーを押しても同じです。

未使用

未使用

検索
予定表に入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り替え
半年表示、一覧表示、日表示、週表示、月表示を順番に一望できます。

ジャンプ機能オン／オフ
他の日へ直接ジャンプするためのカレンダーを2ヵ月分表示します。もう一度押すとオフします。ジャンプは矢印キーで日付を指定してEnterキーを押します。
Tab ⇥ キーを押して直接日付を入力することもできます。

現在の日付へ戻る
現在の日付にカーソルが戻ります。別の日を見た後で瞬時に戻る場合に便利です。

未使用

備忘録へジャンプ
予定を計画しながら備忘録を参照したい場合はこのキーを押してください。同じキーをもう一度押すと半年表示へ戻ります。

設定
各種のオプション、休日、年号、表示時間幅の設定、予定表・データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

終了
予定表を終了します。

キー操作

ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

↑ ↓ ← →	日付、月を選択するカーソルが上下左右に移動します。
Enter	カーソルのある位置の日付の「日表示」画面になります。予定表の追加、または変更をしたければ、さらに時刻を選択してEnterキーを押します。「日表示」画面から「月表示」画面に戻るにはEscキーを押します。
Tab→ Tab←	未使用
Esc	スケジューラーを終了します。確認パネルがでます。
Delete	未使用
Page Up Page Down	半年前、半年後に移動します。

Schedule

予定表機能

リスト表示

スケジューラーの「半年表示」からF6キーを押すと瞬時に「リスト表示」の画面になります。予定表の一覧表示は、入力済みの予定を時系列に並べて一度に見るのに便利です。またすでに入力した予定表を目で確認して検索したい場合にも利用できます。

Schedule　8月24日　日d　週w　月m　半年h　ﾘｽﾄl　❷

1995

8/23 17:00 -20:30 画面の取り込みテスト(オフィス)　❶
8/25 0:00 - 0:00 (8/30) 最終ドラフト・レビュー
8/31 0:00 - 0:00 表紙ターゲット

❸

❶ 今日に一番近い予定の日付
正しい日付が設定されていれば、F8キーで今日に一番近い予定にカーソルが移動して表示されます（日付の設定⇒3-43ページ）。

❷ 表示切り替えボタン
日、週、月、半年、リスト表示にそれぞれd,w,m,h,lキーで瞬時に切り替わります。

❸ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
スケジューラーのリスト表示に関するヘルプを表示します。

追加
カーソルのある時間に予定表を登録します。編集画面が表示されます。これはカーソルの位置でEnterキーを押すのと同じ意味です。

削除
スケジューラーからカーソルの位置の予定表を削除します。Deleteキーを押しても同じです。

未使用

検索
予定表に入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り替え
一覧表示、日表示、週表示、月表示、半年表示を順番に一望できます。

ジャンプ機能オン／オフ
他の日へ直接ジャンプするためのカレンダーを2ヵ月分表示します。もう一度押すとオフします。ジャンプは矢印キーで日付を指定してEnterキーを押します。ジャンプ指定の他にもカレンダーの参照用としても便利な機能です。

現在の日付と時刻へ戻る
現在の日付と時刻にカーソルが戻ります。別の日を見た後で瞬時に戻る場合に便利です。

フォントの大きさ変更
予定表を表示しているフォントが、4種類の大きさに順番に変更されます。画面を見やすくしたり、予定表を一望することが瞬時に行えます。

備忘録へジャンプ
予定を計画しながら備忘録を参照したい場合はこのキーを押してください。同じキーをもう一度押すとリスト表示へ戻ります。

設定
各種のオプション、休日、年号、表示時間幅の設定、予定表・データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

終了
予定表を終了します。

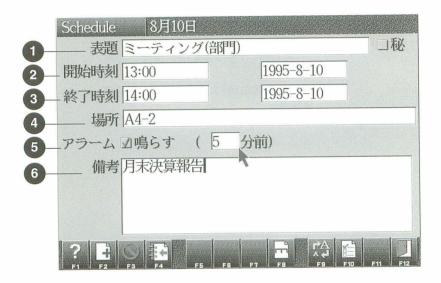
キー操作

ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

キー	機能
↑ ↓	時間を選択するカーソルが上下に移動します。
← →	未使用
Enter	カーソルのある位置のスケジュールを変更する画面になります。
Tab→｜ Tab｜←	未使用
Esc	アプリケーションを終了します。確認パネルがでます。
Delete	カーソルの位置のスケジュールを削除します。
Page Up Page Down	未使用

予定表機能

編集

スケジューラーの編集画面へは日表示、週表示からEnterキーまたはF2キーを押して入ります。予定表の編集画面では、連続して予定表を入力したり、一定の日数毎の予定表設定、シークレット機能なども設定できます。

❶ 表題
スケジュールに表示される題目を入力します。

❷ 開始時刻
数字と:（コロン）を入力します。Page Up,Page Downキーで15分ずつ増減します。開始時刻は選択した時刻が自動的に入力されます。

❸ 終了時刻
数字と:（コロン）を入力します。Page Up,Page Downキーで15分ずつ増減します。右側にある日付は通常は変更と、2日以上に渡るスケジュールの入力に使用します。日付ではCtrl+Tキーで今日の日付が入力できます。またPage Up,Page Downキーで1日ずつ増減します。

❹ 場所
場所を入力します。日表示、リスト表示では表題に続き（）で囲まれて表示されます。

❺ アラーム
アラームのオン/オフと、何分前にアラームを鳴らすのかを指定します。オン/オフはスペース・キーで行います。

❻ 備考
入力したイベントに関連する情報を入力します。メモなどに使用します。

ヘルプ
スケジューラーのリスト表示に関するヘルプを表示します。

追加
現在編集中のイベントを保管して、次の編集画面になります。

取り消し
現在入力しているイベントを破棄して選択前の画面（日表示、週表示、またはリスト表示）へ戻ります。

保管
現在編集中のイベントを保管して、選択前の画面（日表示、週表示、またはリスト表示）へ戻ります。

未使用

未使用

未使用

予定表・オプションの設定
毎日、毎週、毎月、毎年、また何日おきに予定表するかのオプション指定ができます。

未使用

備忘録へジャンプ
予定を計画しながら備忘録を参照したい場合はこのキーを押してください。同じキーをもう一度押すと一覧表示へ戻ります。

未使用

終了
予定表を終了します。

キー操作

ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

キー	機能
↑ ↓ ← →	文字列内または項目間をカーソルが移動します。
Enter	次の項目へ進みます。
Tab→| Tab|←	次の項目、前の項目へ進みます。
Esc	選択前の画面（日表示、週表示、またはリスト表示）へ戻ります。

ToDo List

備忘録

備忘録はスケジューラーと相互に行き来できるように作られています。朝、備忘録にやらなければいけないタスクをまとめて入れ、あとでスケジューラーで検討しながら、逐次備忘録を参照するような使い方が効果的です。

ToDo List　一覧

2 1995-08-09　電話機能を先行して書くこと
1 1995-08-18　章タイトルの変更
1 1995-08-08　訂正個所のまとめ作業
2 1995-08-24　画面取り込み
2 1995-08-30　索引の作成
2 1995-09-04　目次、索引のレイアウト

F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12

1 今日が期限内のタスク

今日が期限として設定されているタスクです。

2 期限内のタスク

設定された期限がまだ過ぎていないことを表しています。または期限が設定されていない場合もこの表示になります。

3 期限を過ぎたタスク

期限が過ぎても完了していないタスクを示しています。期限が設定されていて、完了のチェック・マークが付けられていない場合はこの表示になります。

4 処理済みタスク

完了したタスクを示しています。備忘録の編集画面内で完了チェック・マークを付けるとこの表示になります。

5 開始日前のタスク

まだ開始日に達していないタスクです。

6 優先順位表示

指定した優先順位をこのように表示します。F4キーで優先順位の順番で並べ替えることもできます。

7 ファンクション・キー・エリア

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
備忘録に関するヘルプを表示します。

追加
新規に備忘録を登録します。編集画面が表示されます。

削除
備忘録からカーソルの位置の備忘録を削除します。Deleteキーを押しても同じです。

ソート
開始日、期限、優先順位、状況、表題、の各順番で並べ替えます。

検索
備忘録に入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り換え
カテゴリータブを左側に表示して、カテゴリー別に備忘録を分けます。もう一度押すともとに戻って一覧表示になります。

前ページ
備忘録の一覧を一画面分だけ前にスクロールします。Page Upキーと同じです。

後ページ
備忘録の一覧を一画面分だけ後にスクロールします。Page Downキーと同じです。

フォントの大きさ変更
備忘録を表示しているフォントが、3種類の大きさに順番に変更されます。画面を見やすくしたり、備忘録を一望することが瞬時に行えます。

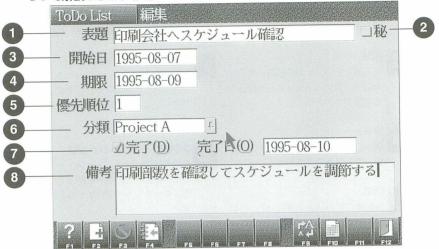
スケジューラーヘジャンプ
予定を計画しながらスケジューラーを参照したい場合はこのキーを押してください。同じキーをもう一度押すと備忘録へ戻ります。

設定
オプション、年号、備忘録データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

終了
備考録を終了します。

5 Reference リファレンス

編集画面

ここではF2キー（新規）またはEnterキー（更新）で表示される、編集画面について解説します。移動はTab⇥キー、選択はスペース・キーで行います。

❶ **表題**

備忘録に表示される題目を入力します。

❷ **秘密**

シークレット機能をオン/オフします。スペース・キーでチェック・マークが付きます。個人情報でパスワードを入力しておく必要があります。

❸ **開始日**

数字と-（ハイフン）を入力します。開始時刻は現在の日付が自動的に入力されます。Ctrl+Tキーで今日の日付が入力できます。Page Up,Page Downキーで1日ずつ増減します。

❹ **期限**

そのタスクを行う期限を数字と-（ハイフン）で入力します。Ctrl+Tキーで今日の日付が入力できます。Page Up,Page Downキーで1日ずつ増減します。

❺ **優先順位**

数字で優先順位を入力します。1-9までが使用できます。

❻ **分類**

備忘録からF6キーで右側にカテゴリー・タブを出した場合に表示されるカテゴリー名です。分類には16文字入力できます。右側のボタンを押すとリストから分類を選択できます。

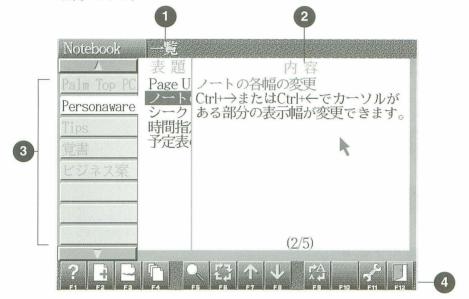
❼ **完了/完了日**

表題のタスクが完了したら「完了」のチェック・マークをスペース・キーで付けます。完了日には日付を数字と-（ハイフン）で入力します。Ctrl+Tキーで今日の日付が入力できます。Page Up,Page Downキーで1日ずつ増減します。

❽ **備考**

入力したイベントに関連する情報を入力します。メモなどに使用します。

Notebook ノート機能

ノート機能は備忘録に似た機能と操作方法で、情報をカテゴリー別に分けて管理できるものです。備忘録は行う必要があるタスクを中心に管理するのに比べ、ノート機能は情報そのものを分類して管理します。個人の知識データベースとして活用できます。

1 表題
カテゴリー分けされている場合は左のカテゴリーに付けられたノートのタイトルが表示され、分けられていない場合はすべてのタイトルが表示されます。

2 内容
タイトル内でカーソルで選択されている表題の内容が表示されます。

3 分類タブ
ノートの編集画面で「分類」を入力することによって、カテゴリー別に分けることができます。カーソルをリストと分類タブの間で移動するには、←、→を使用します。タブの各項目は↑，↓キーで選択します。

4 ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
ノート機能に関するヘルプを表示します。

追加
新規にノートを登録します。編集画面が表示されます。

削除
ノートからカーソルの位置のタイトルと内容を削除します。Deleteキーを押しても同じです。

ソート
表題、内容、時間の各順番で並べ替えます。

検索
ノートに入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り替え
カテゴリータブを左側に表示して、カテゴリー別にノートを分けます。もう一度押すともとに戻って全体一覧表示になります。

前ページ
タイトル一覧を1画面分だけ前にスクロールします。Page Upキーと同じです。

次ページ
タイトル一覧を1画面分だけ後にスクロールします。Page Downキーと同じです。

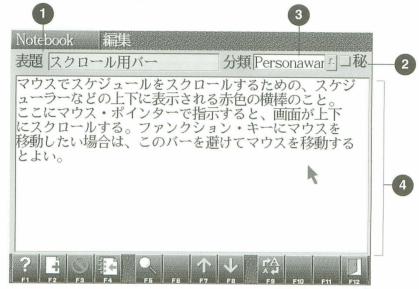
フォントの大きさ変更
ノートを表示しているフォントが、3種類の大きさに順番に変更されます。画面を見やすくしたり、ノートを一望することが瞬時に行えます。

未使用

設定
オプション、ノート・データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

終了

編集画面

ここではF2キーまたはEnterキーで表示される、編集画面について解説します。移動はTab⇥キーで行います。

❶ 表題

ノートに表示される題目を入力します。

❷ 秘密

シークレット機能をオン/オフします。スペース・キーでチェック・マークが付きます。個人情報でパスワードを登録しておく必要があります。

❸ 分類

一覧画面からF6キーで右側にカテゴリー・タブを出した場合に表示されるカテゴリー名です。分類には16文字入力できます。表示はカスタマイズ可能です。大文字、小文字は区別しますので、入力を間違えると違うカテゴリーに分類されます。右側のボタンを押すとリストから分類を選択できます。

❹ 内容

ここには具体的な内容を記述します。

Address 住所録

一覧

住所録では文字どおり住所と名前をまとめて管理します。Personawareの住所録にはイメージを貼り込む機能もあります。また住所録から直接電話したり、FAXを送ったり、登録したIDを電子メールから参照して接続することもできます。

Address 一覧

あ か さ た な は ま や ら わ

名前	電話1	FAX 1	住所1
カストマー・サービス・インフォメーション・センター	0120-550-132		
紀伊國屋書店 東京営業所	03-3808-1645	03-3808-0180	
ダイヤルIBM	0120-04-1992		
Personaware			
ぱそこん教室大阪	06-532-5550		
ぱそこん教室静岡	054-254-7211		
ぱそこん教室東京	03-3585-2150		
ぱそこん教室東北	022-222-5553		
ぱそこん教室富山	0764-41-291[illegible]		
ぱそこん教室名古屋	052-564-970[illegible]		
ぱそこん教室新潟	025-247-7416		
ぱそこん教室広島	082-262-5540		
ぱそこん教室福岡	092-472-5550		
ぱそこん教室北海道	011-898-5550		
ぱそこん教室横浜	045-325-5550		
PCソフトウェア・サービスセンター	03-3798-9340		
PCソフトウェア・サービスセンター OS関連	03-3798-9352		
PC DOCK秋葉原	03-3258-7025		千代田区外神田4-3-

F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12

❶ あかさたなタブ

あかさたな順に並んだタブをマウス・ポインターで選択することで、素早く名前が検索できます。漢字は読みをもとにあいうえお順に並べられるので、必ず入力してください。また読みを直接キーボードから入力しても頭出しができます。ひらがなも半角英字も使用できます。

❷ 住所録表示

ここに表示するものは、F11キーを押し、「一覧表設定」からどの項目を表示するかを選択することができます。また表示方法はF6キーで変更できます。

❸ ファンクション・キー・エリア

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーでランチャー（メイン・パネル）へ戻ります。

ヘルプ
アドレス帳に関するヘルプを表示します。

追加
新規にアドレスを登録します。編集画面が表示されます。これはカーソルの位置でEnterキーを押すのと同じ意味です。

削除
アドレス帳からカーソルの位置の名前と内容を削除します。Deleteキーを押しても同じです。

未使用

検索
アドレス帳に入力した文字列の中から指定した文字を検索します。

モード切り替え
住所表示を右上側に表示して、右下には画像（指定されている場合）を表示します。もう一度押すともとに戻って全体一覧表示になります。

分類
編集画面で「分類」を入力して分類してある場合は、それぞれの分類のアドレスのみを表示することができまう。

未使用

フォントの大きさ変更
アドレス帳を表示しているフォントが、3種類の大きさに順番に変更されます。画面を見やすくしたり、アドレス帳を一望することが瞬時に行えます。

通信
電話1、電話2、FAX1、FAX2に通信するアプリケーションを起動するパネルを表示します。

設定
一覧表設定、アドレス帳データ用ファイルの変更、シークレット機能のオン/オフ、印刷などが行えます。

終了
住所録を終了します。

アドレス表示画面

ここではF6キーで表示される、アドレス表示画面について解説します。

❶ アドレス表示

ここにはカーソルのある位置の名前のアドレスと電話番号などが表示されます。この表示へはF6キーで変更できます。もう一度押すと、もとに戻ります。

❷ 画像表示

編集画面でF11キーを押して画像ファイルを指定すると、ここに画像が表示されます。デジタル・カメラなどから、顔写真やお店の写真などを貼り込めば、簡単な画像データベースができます。詳しくはREADME.TXTを参照してください.

基本操作

↑ ↓	名前間を移動します。
Delete	カーソルの示す名前とそれに関連する住所を削除します。
Page Up Page Down	1画面ごとにスクロールします。

Address

住所録

編集

アドレス帳は編集画面では多くの情報が入力できます。その中で情報を選んで、一覧表示する機能もあります。イメージを貼り込むにはF11キーを押します。

❶ 氏名

名前を入れます。32文字まで入力できますが、一覧にはデフォルト5文字まで表示できます。桁幅はCtrl+左右矢印キー（←,→）で変更できます。

❷ 分類

ここにカテゴリー名を入れると分類できます。一覧表示でF7キーを押すと分類の指定画面になります。ここで特定の分類を選択すると、一覧にはその分類の名前だけが表示されます。右側のボタンを押すとリストから分類を選択できます。

❸ 秘密

シークレット機能をオン/オフします（シークレット機能⇒4-5ページ）。

❹ 読み

読みにくい名前の覚書としても利用できますが、漢字の名前をあいうえお順に並べるために必要なので、必ずひらがなで入れてください。

❺ 誕生日

ここに誕生日を入れておくと、秘書機能などで知らせてくれます。

❻ 住所1／住所2

勤務先を住所1、自宅を住所2として分けて入れられるようになっています。

❼ Email

電子メールの宛先を入れておきます。

❽ 備考

メモなどに使用します。

❾ 画像表示領域

F11キーで画像ファイルが指定されていると、ここに表示されます。

❿ ファンクション・キー・エリア

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
アドレス帳に関するヘルプを表示します。

追加
現在編集中のアドレスを保管し、新しいアドレス編集画面になります。

取り消し
現在編集中のアドレス・データを破棄します。確認パネルが表示されます。

保管
現在編集中のアドレスを保管して、一覧画面に戻ります。確認パネルが表示されます。

未使用

未使用

未使用

未使用

未使用

未使用

設定
画像ファイル名を指定します。

終了
住所録を終了します。

キー操作

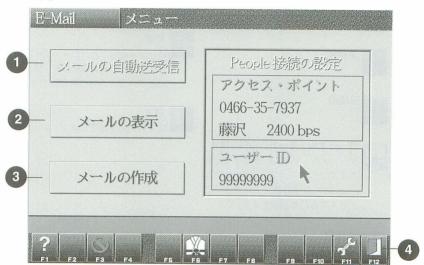
ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

↑ ↓	次／前のの入力フィールドにカーソルが移動します。
← →	文字列内をカーソルが移動します。
Tab→| Tab|←	次／前のの入力フィールドにカーソルが移動します。
Esc	F3キーと同じです。

E-Mail

電子メール機能

メニュー・パネル

電子メール機能を使用すると、住所録のE-Mailアドレスを参照して電子メールを事前に作成しておき、ボタンひとつで接続から自動送受信を行います（People専用）。また汎用ターミナル機能も備えているので、People以外のパソコン通信もOKです。

❶ メールの自動送受信

事前に作成されている電子メールの自動送信と、すでにPeopleのセンター・コンピューターに届いている電子メールの自動受信を同時に行います。受信されたメールは、メール用のデータベースに保管されます。

❷ メールの表示

送受信したメールを読むためにノート機能の画面になります。受信したメールでまだ読んでいないものは「=未読=」、一度読んだものは「=既読=」と分類されます。送信予定のメールは「=未送信=」、送信済みのメールは「=既送信=」と分類されます。

❸ メールの作成

メールの作成のための編集画面になります。ここで新しい送信メールを作成します。

❹ ファンクション・キー・エリア

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。

ヘルプ

電子メール機能に関するヘルプを表示します。

未使用

自動送受信の中止

メールの自動送受信を中止します。

未使用

未使用

ターミナル・モードへの切り替え

ターミナル・パネルに画面を切り替えます。ターミナル・パネルではPeopleその他のパソコン通信にアクセスすることができます。

未使用

未使用

未使用

未使用

設定

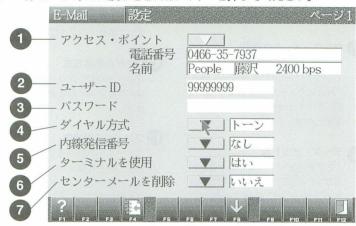
パソコン通信のアクセス・ポイント（ネットワークの名前と電話番号）や、ユーザーIDとパスワードなどを登録できます。

終了

電子メールを終了します。

電子メール機能

設定パネル

ここではメニュー・パネルからF11キーで表示される、設定パネルについて説明します。カーソルの移動はTab ⇥キーとTab ⇤ キーで行います。選択は矢印ボタンをクリックするか、スペース・キーで行います。2ページめに移動するにはF7キー、1ページめに戻るにはF8キーを押してください。メニュー・パネルまたはターミナル・パネルに戻るときにはF4キーを押してください。

❶ アクセス・ポイント

ネットワークの名前、接続する電話回線の通信速度とその電話番号を指定します。矢印ボタンを押すと「アクセス・ポイントの選択」リストが表示されます。↑、↓キーで上下にカーソルを移動させてアクセス・ポイントを選び、Tab⇥ キーで「選択」ボタンを選択してEnterキーを押します。リスト内にアクセスしたいポイントがない場合は、Tab⇥キーで「追加/変更」ボタンを押し、新しいアクセス・ポイントを追加することもできます。

❷ ユーザーID

すでに登録済みのユーザーIDを入力します。出荷時にはPeopleの「PAMGUEST」に設定されているので、そのままオンライン・サインアップでPeopleに入会できます。

❸ パスワード

Peopleのオンライン・サインアップで設定したパスワードを入力します。ただし機密保持のため、パスワードは画面には表示されません。

❹ ダイヤル形式

使用している電話回線のダイヤル形式を選択します。プッシュホン回線の場合には「トーン」を、ダイヤルパルスの回線の場合は「パルス」を選択してください。

❺ 内線発信番号

使用している電話回線がNTTの加入者回線の場合は「なし」を、構内回線の場合はその回線で決められた内線発信の番号を選択してください。

❻ ターミナルを使用

「アクセス・ポイント」でPeopleのアクセス・ポイントを選択した場合に、ターミナル・パネルを使用するかどうかを選択します。電子メールの送受信だけを使用するなら「いいえ」を選択してください。ただしPeopleにオンライン・サインアップする場合には「はい」を選択してください。

❼ センターメールを削除

「メールの自動送受信」の終了後にセンター・コンピューターにあるPeopleのメールの受信簿から、受信したメールを削除するかどうかを選択します。

❽ データ・ビット長

1文字を何ビットで送るかを選択します。Peopleやその他一般の国内ネットワークに接続する場合は「8」を選択してください。

❾ ストップ・ビット長

ストップ・ビットの長さを選択します。Peopleで使用する場合には「1」を選択してください。その他のネットワークに接続する場合には、そのネットワークの通信条件の値を選択してください。

❿ パリティ

パリティ・ビットの設定を選択します。Peopleでご使用の場合には「なし」を選択してください。その他のネットワークに接続する場合には、そのネットワークの通信条件の値を選択してください。

⓫ シリアルポート

電子メールの通信に割り当てられたシリアルポートを選択します。出荷時には内蔵モデムで動作するように設定されています。

⓬ ファイル転送方式

ファイルのダウンロードとアップロードに使用するファイル転送プロトコルを選択します。

⓭ ファイルの受信先

「メールの自動送受信」でPeopleから自動送受信されるメールや、ターミナル・パネルからダウンロードする場合の、ファイルの受信用ディレクトリーを設定します。

⓮ モデム初期化コマンド

モデムの初期設定のためのコマンド文字列を入力します。出荷時には内蔵モデム用の設定になっています。

電子メール機能

エラー・メッセージ一覧

「メールの自動送受信」機能や「電話回線の接続」機能の動作中に、次のメッセージが表示されて機能が中断される場合があります。それぞれのメッセージの意味を説明します。

電話回線の接続を中止しました。

アクセス・ポイントのダイヤルをしているときにF3キーかまたはEscキーが押されて、ダイヤルを中止したときに表示されます。

電話回線のすでに接続されています。

ターミナル・パネルですでにネットワークに接続されているときに「メールの送受信」機能や「電話回線の接続」を実行しようとしました。

アクセス・ポイントが「お話し中」です。

アクセス・ポイントの回線がすべて利用されていて、接続できないときに表示されます。

電話回線の接続が規制されています。

アクセス・ポイントがお話し中のときに、再ダイヤルがモデムで規制されている場合に表示されます。1分ほど待ってから実行してください。

電話ケーブルがつながっていません。

Wing Jackと電話のモジュラー・ジャックがつながっていない場合に表示されます。ケーブルがはずれていないかどうか確認してください。

モデムが動作していません。

モデムが動作していない場合に表示されます。「設定」パネルで選択した「シリアルポート」の設定が内蔵モデムの設定(PS2.EXEでの設定)と同じかどか、または使用中のPCカード・モデムが挿入されているかどうかを確認してください。

接続待ち時間をオーバーしました。

設定されているダイヤルの呼び出し時間が過ぎても、アクセス・ポイントのモデムが応答しない場合に表示されます。「アクセス・ポイント」で設定されている電話番号が間違っているか、またはパソコン通信のサービスが停止しているしていることが考えられます。

通信の途中で電話回線が切断されました。

通信の途中で予期せずに電話回線が切断された場合に表示されます。電話回線の状態がよくないか、またはセンター・コンピューターに障害があることが考えられます。

「People」のアクセスに失敗しました。

電話回線は接続されましたが、Peopleのアクセスに失敗しました。電話番号が正しくないか、またはアクセス・ポイントが混雑していることが考えられます。

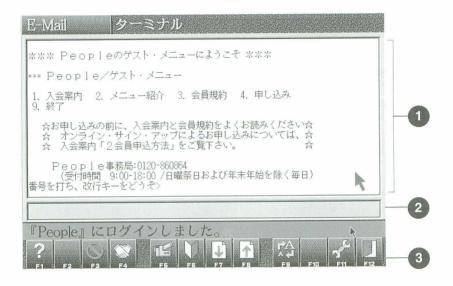
「People」のログインが拒否されました。

Peopleのログインに失敗したときに表示されます。ユーザーIDとパスワードが正しいかどうか確認してください。

メールの送受信が実行できません。

Peopleのメール機能にアクセスすることができません。ユーザーIDが「PUMGUEST」になっていないか、パスワードが入力されているかどうかを確認してください。

ターミナル・パネル

ここではメニュー・パネルからF6キーで切り替わるターミナル・パネルについて説明します。これは汎用の通信用ターミナル・プログラムです。

1 表示部
ここにはセンター・コンピューターから送られてきたテキスト・データを表示します。文字の大きさはF9キーで変更できます。↑↓キーで1行ずつ、Page UP、Page Downキーで1画面ずつ上下にスクロールできます。

2 キー入力行
キーボードからの入力はここに表示されます。Enterキーを押すと、それまで入力していた文字列がセンター・コンピューターに送られます。

3 ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。

ヘルプ
ターミナル・パネルに関するヘルプを表示します。

未使用

電話回線の切断、自動送受信の中止
電話回線を切断することができます。Escキーを押しても同じです。アクセス・ポイントをPeopleに設定している場合は、自動的にログアウトを実行します。またメールの自動送受信が動作中の場合は、メールの送受信を中止した後、電話回線を切断します。

電話回線の接続
設定パネルで設定したアクセス・ポイントの電話番号にダイヤルします。アクセス・ポイントの選択がPeopleの場合は、設定されているユーザーIDとパスワードで、電話回線接続に続けて、自動的にログインを実行します。

ログ・ファイルの記録開始と停止
センター・コンピューターから送られてくるデータのログ・ファイルへの記録を開始します。もう一度F5キーを押すと、ログ・フィアルへの記録を停止します。

メニュー・モードへの切り替え
メニュー・パネルに画面を切り替えます。メニュー・パネルではPeople専用の電子メールの自動送受信ができます。

ファイルのダウンロード
ファイルのダウンロードを実行します。指定されたファイルは、設定パネルの「ファイルの受信先」で指定されたディレクトリーへダウンロードされます。設定パネルの「ファイル転送方式」で設定されたプロトコルがダウンロードに用いられます。

ファイルのアップロード
ファイルのアップロードを実行します。指定されたファイルは、設定パネルの「ファイル転送方式」で設定されたプロトコルがアップロードに用いられます。

フォントの大きさの変更
表示部の文字の大きさを変更します。

未使用

設定
パソコン通信のアクセス・ポイント（ネットワークの名前と電話番号）や、ユーザーIDとパスワードなどを登録できます。

終了
電子メールを終了します。

FAX

ファックス機能

ファックス機能は住所録のファックス番号を利用してファックスを相手に送ったり、手書きメモ機能で手書きしたイメージを送ることができます。FAXサービスを利用して、手動で情報を入手する機能もあります。もちろん直接電話番号を指定することもできます。

❶ 文書作成

ファックスで送る文書や絵（手書き）を作成します。F10キーを押しても文書作成画面になります。すでに作成してある場合は、さらにF6キーを押し、ファイル名をリストに追加することで最大8ファイルまで送信できます。

❷ FAXサービス

このボタン（またはF6キー）を押すとFAXサービス受信モードになります。次に番号を入力（もしくは住所録で指定）して「スタート」ボタンを押します。スピーカーから聞こえる音声に従って各種FAXサービスをご利用ください。受信したイメージは受信後5秒すると自動的に表示されます。F9キーで拡大できます。

❸ 住所録

住所録の一覧を表示します（F9キーでも同じ）。相手先を指定すると、ファックスの画面に戻ります。

❹ ストップ／クリア

送信中は送信の中断、電話番号入力中は番号をクリアします。F3キーと同じです。

❺ スタート

FAXの送信を開始します。「FAXサービス」使用時は、電話をかけます。F4キーを押しても同じです。

❻ 表示部

上段は住所録から検索した相手の名前、下段はFAX番号が表示されます。「FAXサービス」使用時には、入力した番号も表示されます。

❼ テン・キー

電話番号を入力します。

❽ ファンクション・キー・エリア

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーでランチャー（メイン・パネル）へ戻ります。

ヘルプ
ファックス機能に関するヘルプを表示します。

未使用

ストップ／クリア
送信前は電話番号のクリア、送信中は通信の中断をします。

スタート
FAXの送信、「FAXサービス」では電話をかけるのに使用します。

表示
FAXビューワーを呼び出して、すでに受信済みの文書を表示します。

FAXサービス／FAX
FAXサービスの受信モードになります。もう一度押すとFAXに戻ります。

未使用

未使用

住所録
住所録を呼び出して送り先のFAX番号を指定します。

文書作成
文書作成の画面に移動します。

設定
ダイヤル形式、内線発信番号、ポートなどの設定ができます。

終了
ファックスを終了します。

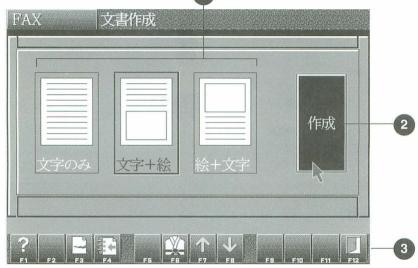
キー操作

ここではF5キーを押した場合や、FAXを受信した場合に起動するビューワーのキー操作について説明します。

キー	説明
↑ ↓ ← →	画像を上下左右に移動します。
F2	保管してあるファックスのファイルをオープンできます。
F3	すでに保管されているファックス・ファイルを削除します。
F4	ファイルを保管します。
F7 F8	前ページ、次ページへ移動します。Page Up、Page Downキーでも同じです。
F9	33%、50%、100%と3段階に拡大します。
F11	ファイルの保存形式をFAX/BMP間で切り替えます。
F12	FAXビューワーを終了してFAXのメイン・パネルに戻します。

FAX ファックス機能

文書作成パネル

ここではメイン・パネルから「文書作成」ボタンまたはF10キーで切り替わる文書作成パネルについて説明します。作成できる文書は3種類です。テキストのみ、テキストのあとにビットマップ、ビットマップのあとにテキストの3種類です。これらを選択すると、それぞれの順にエディターや手書きメモ機能が呼び出されます。これ以外の組み合わせにしたい場合にはF6キーのファイル指定で、事前に作成しておいたファイルを、順番に選択します（最大8ファイルまで）。

1 文書作成選択ボタン

「文書のみ」を選択すると、エディターのみが起動します。「文書＋絵」を選択すると、最初にエディターが起動し、編集を終わると、次に手書きメモ機能が起動します。「絵＋文書」を選択するとその逆の順番で手書きメモ機能とエディターが起動します。

2 作成

指定された種類の文書の作成を開始します。F4キーを押しても同じです。各アプリケーションを終了すると送信データを作成して、メイン・パネルに戻ります。

3 ファンクション・キー・エリア

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。画面に戻ります。

ヘルプ
文書作成に関するヘルプを表示します。

未使用

取り消し
操作を取り消してメイン・パネルへ戻ります。

作成
指定された種類の文書の作成を開始します。「作成」ボタンを押しても同じです。各アプリケーションを終了すると送信データを作成して、メイン・パネルに戻ります。

未使用

ファイル指定
ファイル指定パネルを表示します。ここからFAXしたいファイルを選択できます。←、→キーでボタンとリスト間でカーソルを移動し、↑、↓キーでリストやボタンを選択します。「リストに追加」ボタン（またはF2キー）でファイル・リストから送りたいファイルを選択できます。間違ってリストに加えてしまったファイル名は、→キーと↑、↓キーでリスト上のファイルを選択し、「リストから削除」（またはF3キー）でリストから削除できます。「指定終了」ボタン（またはF4キー）で、リストに指定されたファイルからFAXデータを作成し、メイン・パネルへ戻ります。リストに追加できるファイルは最大8ファイルまでで、それ以上は追加できません。F6キーを押すと中断して文書作成パネルへ戻ります。

前方
ひとつ前の文書の種類を選択します。←キーと同じです。

後方
ひとつ後の文書の種類を選択します。→キーと同じです。

未使用

未使用

未使用

終了
FAXを終了させます。再度FAX機能を実行すると、この画面から開始します。

重要

送信できるデータはテキスト（1行あたり40文字で折り返して送信）、手書きメモ機能のビットマップ・ファイル（Windowsの白黒2値BMPファイル、約6cm×3.3cmの大きさで送信）です。これらはファイルの種別は拡張子と内容の両方で区別されます。手書きメモのデータは拡張子がBMPに、FAXのデータは拡張子がFAXになります。

送信可能なページ・サイズは送受信ともA4のみです。受信ファイルが改ページなしで3000ライン（約39cm）を超える場合は、自動的に電話回線を切ります。受信は標準モード、ファイン・モードともに可能ですが、送信はファイン・モードのみです。

送受信ができない場合は、Personawareのパワー設定パネルから通信ポートの設定を確認してください。受信がメモリー不足で中断する場合はメモリーを追加するか、より少ないデータを受信してください。送受信可能なページ数は本体のメモリー・サイズに制約されます。Palm Top PCの最小構成（4MB）でA4版約10ページが受信可能ですが、ページ数はその文書に依存して大きく変動します。送信時にデータ生成が中断する場合も、本体のメモリーを増やすか、送信するデータを小さくするか、ファイル選択で選択したファイル数を減らしてください。

Telephone 電話機能

電話機能はアドレス帳の電話番号を利用して相手に電話をしたり、ポケベル機能でポケベルにメッセージを送ることができます。

① 内線発信
外線からの電話と内線からの電話が選択できます。F5キーで切り替わります。内線にすると、外線への発信番号が入力できます。

② ポート
COM1とCOM2のポートが設定できます。ハードウェアの設定は[Power MGT]から行います。F7キーで切り替わります。

③ ダイヤル形式
接続している電話回線のダイヤル形式を指定します。セルラーは特定の携帯電話接続時に使用します。セルラーの場合は内線発信の設定は無視されます。

④ テン・キー
電話番号の入力は画面ボタンをクリックするか、数字キーで入力します。「-」（マイナス・キー）で-記号を入力できます。

⑤ 住所録
アドレス帳へ移動します。相手先の電話番号を指定すると、電話の画面に戻ります。

⑥ クリア
入力中の電話番号をクリアします。

⑦ スタート
電話をかけます。F4キー（またはAlt+S）を押しても同じです。

⑧ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。住所録から呼ばれた場合は、住所録へ戻ります。

ヘルプ
電話機能に関するヘルプを表示します。

未使用

クリア
入力中の電話番号をクリアします。

スタート
電話をかけます。画面で「スタート」ボタンを押しても同じです。

内線／外線発信
内線発信か外線発信かを切り替えます。

モード切り替え
ポケベル・メッセージ送信機能と切り替えます。

ポート
通信ポートをCOM1/COM2と交互に選択します。

ダイヤル形式
トーン、パルス、セルラーを選択します。

未使用

アドレス
アドレス帳を呼び出します。画面の「アドレス」ボタンを押しても同じです。

未使用

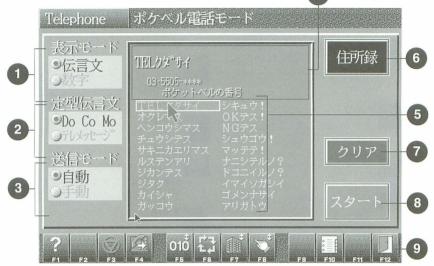
終了
電話を終了します。住所録から呼ばれた場合は住所録に戻ります。

キー操作

ここでは電話機能のその他のキーの操作について説明します。

キー	操作
↑ ↓ ← →	各項目間を移動します。
Tab ⇥ Tab ⇤	カーソルを移動します。
Esc	電話機能を終了します。
Backspace	入力した番号を後からひとつずつ消します。
Enter	カーソルのある位置のボタンを実行します。番号のときは番号を入力します。
Alt+A	「住所録」ボタンと同じです。
Alt+C	「クリア」ボタンと同じです。
Alt+S	「スタート」ボタンと同じです。

ポケベル機能パネル

ここではメイン・パネルからF6キーで切り替わるポケベル機能について説明します。ポケベル機能では、メッセージを自動的にポケベル用の数字列に変換し、送信します。電話機能でメッセージの送り先電話番号を入力して（または住所録から呼び出して）から、ポケベル機能へ移動します。

❶ 表示モード
メッセージの表示を伝言文か、数字で表示する選択ができます。F5キーでも同じです。

❷ 定型伝言文
メッセージ送り先の選択によって定型伝言文を切り替えます。NTT DoCoMoと東京テレメッセージでは定型伝言文が違います。それぞれ機種に左右されない20個の文だけを登録してあります。F7キーでも同じです。

❸ 送信モード
ポケベルにメッセージを送るときのタイミングの切り替えです。自動と手動が交互に切り替わります。自動では初期設定の値で自動的にタイミングを決めてメッセージを送ります。手動では画面のメッセージを確認して、Enterキーを押すことでメッセージを送ります。Enterキーが一定時間内に押されない場合は、自動的にメッセージを送ります。F8キーでも同じです。

❹ 表示部
上段に入力した定型伝言文、中段には電話番号、下段には相手先の名前を表示します。

❺ 定型伝言文リスト
NTT DoCoMoまたは東京テレメッセージの定型伝言文を表示します。カーソルで選択してEnterキーを押すと、表示部に表示されます。

❻ **住所録**

住所録から相手先のリストを表示して、電話番号を選択します。

❼ **クリア**

メッセージをすべてクリアします。F3キーと同じです。

❽ **スタート**

メッセージを送信します。エラーが生じた場合は、エラーメッセージを表示し、再入力を促します。

❾ **ファンクション・キー・エリア**

ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。

ヘルプ

ポケベル機能に関するヘルプを表示します。

未使用

クリア

メッセージをすべてクリアします。「クリア」ボタンと同じです。Alt+Cキーでも同じです。

スタート

メッセージを送信します。「スタート」ボタンと同じです。Alt+Sキーでも同じです。

表示モード

メッセージの表示を伝言文か、数字で表示する選択ができます。

モード切り替え

電話機能とポケベル機能を交互に切り替えます。

定型伝言文

NTT DoCoMoと東京テレメッセージでは定型伝言文が違うため、メッセージ送り先の選択によって定型伝言文を切り替えます。

送信モード

ポケベルにメッセージを送るときのタイミングの切り替えです。自動と手動が交互に切り替わります。

未使用

住所録

住所録から相手先のリストを表示して、電話番号を選択します。Alt+Aでも同じです。「住所録」ボタンとも同じです。

未使用

戻る

ランチャー（メイン・パネル）へ戻ります。再度電話機能を実行すると、この画面から開始します。

キー操作

ポケベル・メッセージ送信を終了します。

 項目を選択するカーソルが上下左右に移動します。

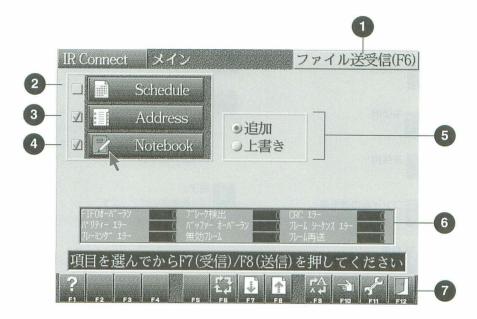
 カーソルのある位置がメッセージならそれを入力します。ボタンの場合はその機能を実行します。

Esc ポケベル・メッセージ送信を終了します。

重要

ダイヤル形式で「セルラー」が選択されている場合は、ポケベル機能は使用できません。

IR Connect 赤外線通信機能

赤外線通信機能は2台のPalm Top PC間で、本体背面の赤外線ポートを使用してファイルを送受信する機能です。

❶ ファイル送受信
このボタンを押すと「ファイル参照」の画面になります。ここからファイルを選択し、F6またはF7キーでファイルを送受信します。

❷ Schedule
予定表のデータ・ファイルを送受信する場合に選択します。選択すると文字色が変わります。

❸ Address
アドレス帳のデータ・ファイルを送受信する場合に選択します。選択すると文字色が変わります。

❹ Notebook
ノートのデータ・ファイルを送受信する場合に選択します。選択すると文字色が変わります。

❺ 追加／上書き
転送先のデータに追加するか上書きする(データを置き換える)かを選択します。

❻ ステータス・エリア
各種のステータスが表示されます。F9キーで非表示にできます。

❼ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

F1 **ヘルプ**
赤外線通信機能に関するヘルプを表示します。

F2 **未使用**

F3 **未使用**

F4 **未使用**

F5 **未使用**

F6 **ファイルの送受信**
ファイル参照画面に移動します。

F7 **受信**
アプリケーション・データを受信します。

F8 **送信**
アプリケーション・データを送信します。

F9 **ステータス表示**
ステータス表示をオン/オフします。

F10 **ジャンプ**
アプリケーション・データを参照します。

F11 **設定**
シリアル・ポート、通信速度などを設定できます。通信している機種同志は同じ設定にしてください。通信がうまくいかない場合は通信速度を下げて試してください。

F12 **終了**
赤外線通信を終了します。

キー操作

ここではF6キーで表示されるファイル参照画面でのキー操作について説明します。

キー	操作
Tab→ Tab←	ファイル名フィールド、ディスク、ディレクトリー、ファイル・リスト間を移動します。
↑ ↓	ディレクトリーやファイルを選択します。
Enter	ファイル名を選択します。
F5	ローカルファイル／リモートファイルを切り替えます。
F6	赤外線通信機能のメインパネルに戻ります。
F7	ファイル・リストをファイル名、拡張子、日付、サイズでソートします。
F9	フォントの大きさを変更します。
F12	赤外線通信を終了します。

シリアル・ポートの設定

ここではF11キーで表示されるシリアル・ポートの設定パネルについて説明します。

シリアルポート

初期値はCOM2です。以下の場合は赤外線通信ポートに割り当てられているシリアルポートを正しく設定してください。
- Palm Top PCの赤外線通信ポートの設定をEasy-Setupや機能設定メニュー(PS2.EXE)で変更したとき

通信速度

初期値は115200bpsです。通信エラー（特にFIFOオーバーラン）が頻繁に発生する場合は通信速度を落としてください。

IRQレベル

初期値は3です。通常はシリアルポートの設定に応じて3（COM2,4）、または4（COM1,3）を指定してください。

タイマーの設定

通常は初期値を使用してください。

重要　赤外線通信がうまくいかない場合

以下を確認、調節してください。

ー赤外線通信ポートが使用可能になっていること（Easy-Setupや機能設定メニュー（PS2.EXE））

ーIR Connectのシリアルポートの設定が正しいこと

ーPC同士でIR Connectの通信速度、タイマーの設定が一致していること

ー赤外線通信ポート同士が正しく真正面に向き合っていること

ー赤外線通信ポート同士の距離が離れすぎていないこと

ー次のような赤外線を発するものがまわりで動作していないか

・テレビ、ビデオ、CDなどのリモコン

・白熱灯

・ワイヤレス・ヘッドフォン

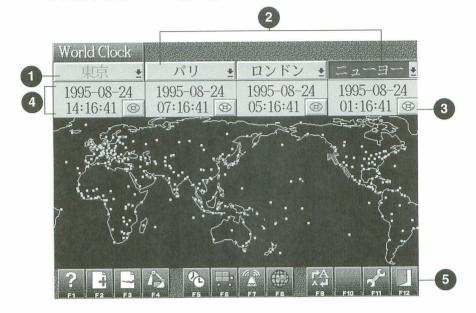
・ストーブの発熱部（赤外線通信ポートのほうを向いていないか）

・直射日光（赤外線通信ポートを直射していないか）

それでもうまくいかない場合は、転送速度を下げたり、PC同士の距離をさらに短くして再度試してください。

World Clock 世界時計機能

編集

世界時計機能を使うと、海外の都市の時刻が一瞬で参照でき、時差や都市名が分かります。またシステム時計の設定や毎日の定時アラームの設定もできます。

❶ 基準都市
現在ユーザーのいる都市名を入れます。日本だけでも東京以外に、札幌、仙台、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡、那覇などを基準都市にできます。右側の矢印をクリックすると直接リストから都市が選択できます。

❷ 現在の表示都市
画面上の四角で示されたのがすべて世界各国の都市です。クリックすると右下に都市名が表示されます。F4キーで現在の表示都市が変更できます。右側の矢印をクリックすると直接リストから都市が選択できます。

❸ サマータイム・ボタン
サマータイムのオン/オフをします。

❹ 日付／時刻表示
上に表示された都市の現在の時刻が表示されます。F11キーでシステム・クロックを設定しておく必要があります。

❺ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。F1キーで使い方の詳細を見ることができます。このときZキーを押すと文字が大きくなります。

ヘルプ
世界時計に関するヘルプを表示します。

追加
時計の表示を追加します。

削除
時計の表示を削除します。

変更
カーソルのある位置の都市表示を、右下に表示された都市に変更します。

現地時刻の計算
カーソルのある都市の日時を入力すると、各都市のそのときの日時を計算して表示します。

移動
都市の表示位置を移動します。

アラーム
アラームを設定します。設定パネルが表示されます。

地図の初期化
基準都市の位置を地図を中心にして、地図の縮尺を初期化して表示します。

拡大
地図を拡大します。

未使用

設定
システム・クロックを設定します。同時に外部の液晶時計もセットします。

終了
世界時計を終了します。

キー操作

ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

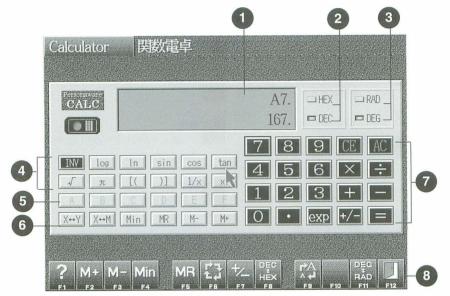
キー	機能
↑ ↓ ← →	地図をスクロールします。
Tab →| Tab |←	表示都市間をカーソルが移動します。
Esc	アプリケーションを終了します。
Page Up Page Down	地図を最上端と最下端にスクロールします。

ヒント　マウスやポインティング・ヘッドでの操作

・都市をクリックすると、選択された都市名が表示されます。もう一度クリックすると表示が消えます。
・都市以外をクリックすると、その地点を中心になるように地図をスクロールします。
・都市の選択では、クリックした場所に最も近い都市が選択されます。そのままクリックする位置を移動しなければ、次に近い都市が選択されます。このようにしてある範囲の都市を順番に選択できます。

Calculator 多機能電卓

関数電卓

Personawareの多機能電卓は大きく3つの種類の違う機能が含まれています。関数電卓、度量衡換算、ローン電卓の3種類でF6キーで切り替えられます。デフォルト（既定値）では関数電卓が表示されます。

❶ **表示部**
入力された数字はここに表示されます。上段は16進数、下段は10進数がデフォルトで表示されます。片方だけ表示したい場合はF9キーを押します。

❷ **HEX/DEC**
16進数と10進数の切り替えボタンです。F8キーで切り替わります。

❸ **RAD/DEG**
角度の単位がラジアンのときはRADに、度のときはDEGにします。

❹ **関数命令キー**
これらのキーは関数計算に使用します。

❺ **16進数キー**
16進計算で使用します。

❻ **計算補助キー**
電卓での計算を補助するキーです。

❼ **四則計算キー**
四則演算をするためのキーです。Num Lockにも対応しています。

❽ **ファンクション・キー・エリア**
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
電卓に関するヘルプを表示します。

M+
表示されている数値をメモリーに加算します。メモリー機能を使用した計算に使います。

M-
表示されている数値をメモリーから減算します。メモリー機能を使用した計算に使います。

Min
メモリーイン機能です。メモリーに入っている数値が消去され、表示されている数値が新たに記憶されます。

MR
メモリーリコール機能です。メモリーに記憶されている数値が表示されます。

モード切り替え
関数電卓、度量衡換算、ローン電卓の順に切り替わります。

+/-
正/負符合キーです。負数を置数にするとき、数値入力の後に押します。表示されている正の数値は負に、負の数値は正にします。

DEC↔HEX
10進数と16進数の切り替えをします。

10／16進数同時表示のオン／オフ
10/16進数を上下2段で表示する機能のオン／オフをします。

未使用

DEG↔RAD
角度の単位をラジアン（RAD）か度（DEG）に切り替えます。

終了
電卓を終了します。

キー操作

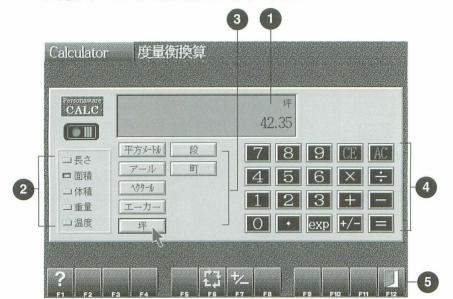
ここでは基本的なキーに割り当てられた機能について説明します。

キー	説明
INV	インバース・キーです。逆三角関数を求めるときにsin cos tanのキーの前に押します。log、ln、√ の逆関数（10^x,e^x,x^2）を求めるときにも使用します。
log ln exp	ログ（10を底とする常用対数）、エルエヌ（eを底とする自然対数）、エキスポーネント（指数部を入力する前に押す）です。LogはLキー、ln はNキー、expは^キーに割り当てられています。
sin cos tan	三角関数です。次の入力フィールドにカーソルが移動します。sinはSキー、cosはOキー、tanはTキーに割り当てられています。
√ π	表示されている数値の平方根を求めるルート、円周率を置数にしたい場合に押すパイです。√はRキー、πはPキーに割り当てられています。
( )	括弧を使った計算に使用します。[や(キーにそれぞれ割り当てられています。
1/x x! X←→Y X←→M	逆数、階乗、2項演算の入れ替え、表示されている数値とメモリーの入れ替えのキーです。
CE AC	入力した数値だけ消去するクリアー・キー、すべての数値を消去するオール・クリアー・キーです。CEはDeleteキー、ACはEndキーに割り当てられています。

Calculator 多機能電卓

度量衡換算

度量衡換算とは、各種の単位の換算を行うものです。長さ、面積、体積、重量、温度など各モードで通常使われている単位が切り替わります。日本独自の単位にも対応しているので、活用範囲が広くなっています。

❶ 表示部
入力された数字はここに表示されます。

❷ 度量ボタン
ここを切り替えることで、右側の単位キーが切り替わります。Tab→|とスペース・キーでも変更できます。

❸ 単位キー
これらのキーは各単位の指定に使用します。

❹ 四則計算キー
四則演算をするためのキーです。Num Lockにも対応しています。

❺ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ローン電卓

ローン計算では、借入した場合に、毎月とボーナス時にいくら返済すればよいかを計算できます。また逆に、その計画で返済すると、実際にはいくら返すことになるのかも計算もできます。

❶ 表示部1
入力された数字はここに表示されます。

❷ 表示部2
細かな途中経過と結果を順番に表示します。

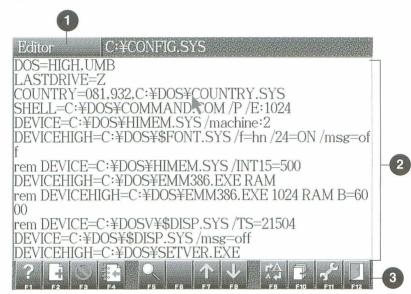
❸ ローン項目ボタン
これらのキーは各入力を変更する場合に使用します。Tab⇥キーで移動し、スペース・キーで選択します。いろいろな値を入れてシミュレーションできます。

❹ 返済→借入／借入→返済切り替えボタン
ここを切り替えることで、借入から見た返済と、返済から見た借入の表示を切り替えられます。Tab⇥キーで移動し、スペース・キーで選択します。F8キーを押しても同じです。

❺ テン・キー
数字入力のためのキーです。Num Lockにも対応しています。

❻ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

エディター

文章を作成するにはエディターを使うのが便利です。ファックスや電子メールで送る文書もエディターで作成した方が効率的です。またCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATなど、DOSのシステムの変更などにもエディターは使用できます。

① ファイル名
ディレクトリーとファイル名が表示されます。

② 編集エリア
ここに文字を入力します。F10キーで切り換えながら同時に複数ファイルを編集できます。

③ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ
エディター機能に関するヘルプを表示します。Alt+Hを押しても同じです。

オープン
新しいファイルをオープンします。Alt+Oを押しても同じです。

終了
現在表示されている文書の編集を終了します。Alt+Qを押しても同じです。

保管
現在表示されているファイルを保管します。Alt+Cを押しても同じです。Alt+Sを押すと保管だけ行い編集は継続します。

検索／置換
文字列の検索と置換を行います。検索パネルが表示されます。Ctrl+Sを押しても同じです。

未使用

前ページ
1ページごとに前にスクロールします。Page Upキーと同じです。

次ページ
1ページごとに次にスクロールします。Page Downキーと同じです。

フォントの大きさと種類変更
文書を表示しているフォントが、4種類の大きさに順番に変更されます。画面を見やすくしたり、文書を一望することが瞬時に行えます。Ctrl+F9で半角英数字フォントの種類が変更できます。

ファイル間移動
複数ファイルを編集中にファイルを切り替えます。Alt+F10で逆方向へファイル間移動します。Ctrl+PとCtrl+Nでもファイル間を前後に移動できます。

設定
文字色、背景色、フォントの種類、大きさなどを設定します。

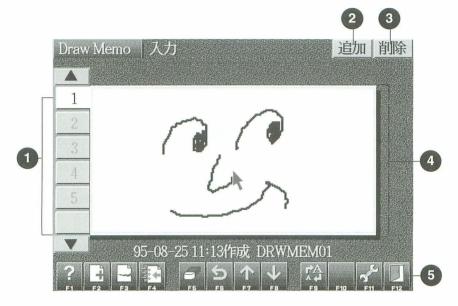
終了
エディターを終了します。Alt+Xを押しても同じです。

キー操作

ここではエディターのその他のキー操作について説明します。

キー	説明
Ctrl + F Ctrl + B	次の文字列を前方、後方に検索します。Alt+F7、Alt+F8も同じです。
Shift + → または Shift + ←	カット・アンド・ペーストしたい文字列をマークします。↑↓キーを使うと複数行の指定ができます。逆方向にするとマークを解除できます。
Ctrl + Ins	文字列をコピーします。
Shift + Ins	文字列をペーストします。
Ctrl + Del	文字列をカットします。

Draw Memo 手書きメモ機能

手書きメモ機能を使うと、一時的にメモを取る必要のある電話番号や、キーボード入力の無理な数式などを書き留めることができます。

❶ メモ番号
最大99枚まで手書きメモが記録できます。上下の矢印を押すと番号がスクロールします。Page Up、Page Downキーで6枚づつ飛ばして表示します。

❷ 追加
新規にメモを追加します。F2キーと同じです。

❸ 削除
現在表示されているメモを削除します。

❹ メモ用紙
メモパッドの入力はここに表示されます。マウス・ポインターを使っても書けます。メモのファイルはWindowsの白黒（250×130）BMPファイルとして保存されます。住所録に貼り付けることもできます。住所録に貼りつける場合はF11キーで設定します。(150×130)

❺ ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

重要　手書き入力ができない場合
機能設定メニュー（PS2.EXE）で「手書き入力装置」が「使用しない」にマークされていないかを確認してください。

ヘルプ
手書きメモ機能に関するヘルプを表示します。

追加
メモを新規に追加します。

削除
現在表示されているメモを削除します。

保管
現在表示されているメモを保管します。

ペン／消しゴム切り替え
ペンと消しゴムを切り替えます。手書きで書くか消すかを切り替えます。

やり直し
メモの変更を取り消します。

前ページ
メモ6枚ごとに前に飛びます。

次ページ
メモ6枚ごとに後に飛びます。

一覧表示
6枚ずつとに一覧表示する画面に切り替わります。

未使用

設定
データの保管されるディレクトリーと最大メモ数を指定します。住所録に貼りつけるための設定もここでできます。

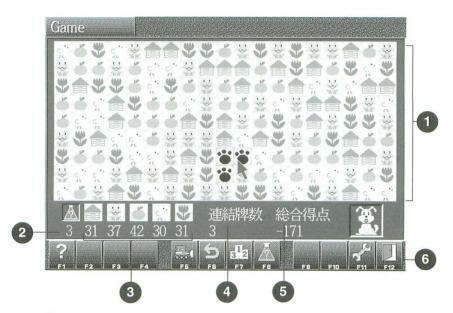
終了
手書きメモを終了します。

キー操作

ここではF9で表示される手書きメモ一覧でのキー操作について説明します。マウス・ポインターで選択できます。Enterキー、またはダブル・クリックすると選択されたメモの入力画面に切り替わります。

キー	説明
↑ ↓ ← →	ファイルを選択します。
F7 F8	6枚づつ表示を前後に飛ばします。Page Up、Page Downキーでも同様です。

Game ゲーム

Personawareのゲームは上下左右につながった同じ種類の牌を取り除いていき、できるだけ多くの牌をとるゲームです。取ることのできる牌がなくなったらゲーム・オーバーです。歴代5位までのスコアーは記録されます。

1 牌表示部
足跡のマークが左クリックで消せる牌です。右クリックで一手前へ戻せます。

2 魔法の薬使用回数
魔法の薬の使用回数を表示します。

3 牌の残数
それぞれの牌が現在残っている数を表示します。

4 連結牌数
現在マウス・ポインターが指す牌がいくつつながっているかを表示します。

5 総合得点
全部の牌の数(171)だけマイナスされた状態から始まります。

6 ファンクション・キー・エリア
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F12キーで終了します。

ヘルプ

ゲームに関するヘルプを表示します。詳しいゲームのルールの説明があります。

未使用

未使用

未使用

違う牌に並び替える

新しい牌の並びで遊びたい場合に押します。

元の牌に並び替える

ゲームの開始時の牌の並びで遊びたい場合に押します。

ハイスコア表示

ハイスコアを表示します。

魔法の薬の使用

魔法の薬を使います。ランダムに特定の牌を変更できます。ただし100点減点になります。どうしても牌を変更したい場合にのみ使います。必ずしも思った牌に変わるとは限りません。

未使用

未使用

効果音のオン／オフの設定

効果音をオン/オフする場合に押します。確認パネルが出ます。

終了

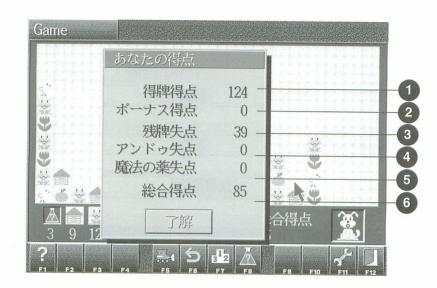
ゲームを終了します。

キー操作

キー	操作
↑ ↓ ← →	マウスポインターを移動します。
Page Up	牌をUndoするときに押します。マウスまたはポインティング・スティックの右クリックと同じです。
Page Down	牌を取るときに押します。マウスまたはポインティング・スティックの左クリックと同じです。

スコア表示画面

ここではゲーム終了後に表示されるスコア表示画面について解説します。

❶ 得牌得点
取得した牌の得点です。

❷ ボーナス得点
ボーナスとして加算される得点です。
ある種類の牌をすべて取るとボーナスが加算されます。

❸ 残牌失点
残っている牌による失点です。

❹ アンドゥ失点
Undoしたことによる失点です。

❺ 魔法の薬失点
魔法の薬を使ったことによる失点です。

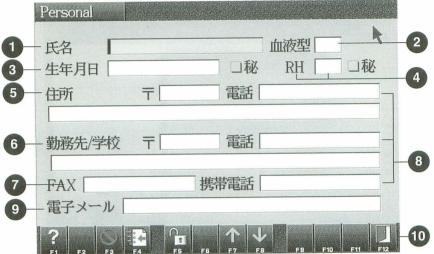
❻ 総合得点
総合した得点結果です。

Personal

個人情報

編集

個人情報のデータは、秘書機能などで活用されます。機密保持のためにパスワード設定ができるようになっています。

❶ **氏名**
名前を入れます。

❷ **血液型**
A,B,AB,Oの区別を入れます。

❸ **生年月日**
1959-1-20のように入力します。また年号を用いて入力する場合はS63-1-20（昭和）のように入力することもできます。

❹ **RH**
血液の詳細なタイプです。+（プラス）か-（マイナス）を入力します。

❺ **住所**
自宅の住所、郵便番号、電話番号を入れます。

❻ **勤務先／学校**
勤務先や学校の名前、郵便番号、電話番号を入れます。

❼ **FAX**
ファックス番号を入れます。

❽ **電話／携帯電話**
携帯電話やポケベルなどの電話番号を入れます。

❾ **電子メール**
電子メール番号を入れます。

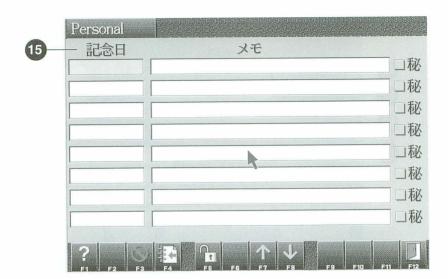
❿ **ファンクション・キー・エリア**
ファンクション・キーに割り当てられた機能をアイコンで示しています。F8で次ページが表示されます。F12キーで終了します。

⓫ 保険証
番号と発行日を入れます。日付は1995-1-20のように入力します。

⓬ 運転免許
番号と有効期限を入れます。有効期限がせまると秘書機能で表示されます。日付は1995-1-20のように入力します。

⓭ パスポート
番号と有効期限を入れます。有効期限がせまると秘書機能で表示されます。日付は1995-1-20のように入力します。

⓮ カード名
カード名、番号、有効期限、紛失時連絡先を入れます。有効期限がせまると秘書機能で表示されます。日付は12/95のように入力します。

⓯ 記念日
記念日とメモにはその解説を入れます。日付は1995-1-20のように入力します。スペース・キーで「秘」にチェック・マークを付けると、秘書機能で（秘密情報PF6で解除）と表示されます。

重要 **パスワードについて**

個人情報では、機密保持の理由から、登録したパスワードを忘れても解除することはできません。したがって、登録したパスワードは他人に知られないようメモするなどして別の場所に大切に保管してください。万が一忘れた場合、次のいずれかの方法によって、再び個人情報の入力画面を表示することができます。ただし、すでに入力されたデータはすべて失われます。

1.パスワード入力画面において、CLEAN Enter と入力する。

2.デフォルトではC:¥PW¥DATAというディレクトリーに保管されている。PERSONAL.DATファイル削除する。削除するには、PersonawareからDOSコマンドを呼び出し、DEL C:¥PW¥DATA¥PERSONAL.DAT Enter と入力する。

第6章

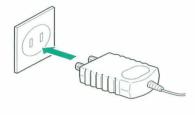
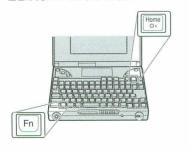
Troubleshooting

トラブルシューティング

この章では、トラブルが起きたときの対処のしかたを
説明しています。

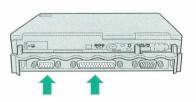
あれ？おかしいなと思ったら

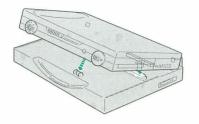
おかしいなと思うことがあったら、まず次の事項を確認してください。確認したら、6-3、6-4ページのリストから当てはまるものを探しましょう。故障でない場合が多いのです。

電源コードが抜けていませんか?
(ACアダプター使用の場合)

バッテリー・パックの容量は十分残っていますか?
(バッテリー・パック使用の場合)

電源スイッチが入っていますか?

外部オプションのケーブル類が外れていませんか?

画面が見にくくありませんか?

スピーカーの音量は調節されていますか?

ポート・リプリケーターがしっかり接続されていますか？（ポート・リプリケーター使用の場合）

PCカード・ハードディスクがしっかり取り付けられていますか？（PCカード・ハードディスク付属のモデルやPCカード・ハードディスク（別売）使用の場合）

以下のリストにないときや、対処しても直らないときは

「どうしても直らないときは」6-9ページに進む

使い始めたときに

状況	対処方法
画面に何も表示されず、液晶インジケーター・パネルもつかない	次のことを確認して、それでも状況が変わらなければ、本体の修理を依頼してください。 ●Fnキーを押して、サスペンド状態にないか確かめること。 ●本体と電源コンセントに接続されているACアダプターのプラグがゆるんでいないか? ●ポート・リプリケーターに本体がしっかり接続されているか？ ●バッテリーの残量は十分か? ●電源は入っているか?（⇒1-13ページ） ●画像のコントラストは調整されているか?

状況	対処方法
「ピーッ」という音が鳴ったが、画面に何も表示されない	画面が見えるように、コントラストや輝度を調節してください。
画面上に3～5桁の数字（エラー・コード）が表示される	「どうしても直らないときは」（⇒6-9ページ）をお読みください。
1.2Mバイトのディスケットを使えない	●$FDD12.SYSがCONFIG.SYSに組み込まれているか？ ●ディスケットが1.2Mバイトでフォーマットされているものであるか? ●電源を入れる前に外部ディスケット・ドライブを接続しているか? ●ポート・リプリケーターが本体にしっかりと接続されているか? ●ディスケット・ドライブがポート・リプリケーターにしっかりと接続されているか？

使っている途中で

状況	対処方法
電源スイッチをオンにすると「Non-System disk or disk error　Replace and press any key when ready」というメッセージが表示される	次のことを確認してください。 ●ドライブA（ディスケット・ドライブ）にディスケットを間違えて入れた。 ●ドライブAに入れたディスケットに、Palm Top PCでは使えないDOSのシステムが入っていたとき（Palm Top PC以外の製品用のディスケットや、Palm Top PCでは使えないアプリケーション・ソフトのディスケットなどを入れたとき）。

状況	対処方法
（続き）	●ドライブAにディスケットが入っておらず、内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブにDOSのシステムがないとき（間違ってDOSのシステム・ファイルを削除してしまったなど）。 ディスケットを入れないか、Palm Top PCで使えるDOSのシステムが入ったディスケットを入れるかして再始動してください。 ●ドライブAにディスケットが入っておらず、スマート・ピコ・フラッシュ、PCカード・ハードディスク、PCカード・フラッシュ・メモリーが取り付けられていない状態で同じメッセージが表示される場合、システム・インストール・ディスケットを使って内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブを復元してください。 ●スマート・ピコ・フラッシュやPCカードを取り付けている場合は、イージー・セットアップの「Setup」で、ブート順序（始動優先順位）を確認してください。
「Missing Operating system」というメッセージが表示される	●スマート・ピコ・フラッシュやPCカードを取り付けている場合は、イージー・セットアップの「Setup」で、ブート順序（始動優先順位）を確認してください。 ●システム・インストール・ディスケットを使ってオペレーティング・システムをインストールし直してください。依然として同じ画面になる場合は、本体の修理を依頼してください。

状況	対処方法
画面に何も表示されず、液晶インジケーター・パネルもつかない	次のことを確認して、それでも状況が変わらなければ、本体の修理を依頼してください。 ●[Fn]キーを押して、サスペンド状態にないか確かめること。 ●本体と電源コンセントに接続されているACアダプターのプラグがゆるんでいないか? ●ポート・リプリケーターが本体にしっかりと接続されているか? ●バッテリーの残量は十分か?
突然、画面に何も表示されなくなる	次のことを確認してください。 ●ディスプレイ・タイマーが設定されていないか? →[Shift]キーを押してください。 ●サスペンド・タイマーが設定されていないか? →[Fn]キーを押してください。
サスペンド・タイマーの設定により、突然画面に何も表示されなくなったとき、レジュームしようとして[Fn]キーを押しても、ビープ音が2度鳴るだけである	パワーオン・パスワードが設定されています。パスワードを入力してください。
アプリケーション・ソフトを使用中、突然動かなくなる(キーを押しても何の反応もしない)	システムを再始動してください。(⇒1-26ページ) 入出力が少し途切れたときにこのような状態になる、ということがひんぱんに起こるならそのアプリケーション・ソフトを使うときには、パワー・モードをハイパワーに設定してください。(⇒4-67ページ)

状況	対処方法
Windowsを使っているときに、サスペンド中のメモリー内容保持時間が短い	WindowsセットアップでAPMを導入してください。（⇒4-81ページ）
外付けディスプレイが高解像度表示にならない	外付けディスプレイを高解像度で表示するためには、作業が必要です。次の項目を確認してください。 ●高解像度の外付けディスプレイが正しく接続されているか？（⇒4-23ページ） ●本製品に付属のビデオ・デバイス・ドライバーがインストールされているか？（⇒4-82ページ） ●Windowsをインストール時またはインストール後、ディスプレイ・リストから外付けディスプレイに適合する高解像度のドライバーをインストールしたか？（⇒4-82ページ）
プリンターが使用できない	次の項目を確認して、それでも使えない場合は、プリンターに付属のマニュアルで調べてください。 ●ポート・リプリケーターが本体にしっかり接続されているか？ ●プリンターとポート・リプリケーターとの接続ケーブルがゆるんでいないか？ ●DOSまたはWindowsでプリンターに合ったプリンター・ドライバーがインストールされ、正しく設定されているか？（⇒A-42ページ） （出荷時には4MB内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブにプリンター・ドライバーはインストールされていません。）

6 Troubleshooting トラブルシューティング

状況	対処方法
サスペンド状態からレジュームした後、キーボード、ポインティング・ヘッドが使えない	パスワードが設定されている場合、パスワードを入力してください。入力したパスワードは、画面には表示されません。
電源が切れない	バッテリー・パックとACアダプターを取り外してください。 再び試してみても、依然として電源が切れない場合は本体の修理を依頼してください。
PCカード・ハードディスク、PCカード・フラッシュ・メモリー、またはスマート・ピコ・フラッシュから始動しない	始動優先順位が正しく設定されているか確認してください。

どうしても直らないときは

前の「あれ？おかしいなと思ったら」に当てはまるものがなくても、まだあきらめないでください。イージー・セットアップを使って調べてみましょう。

本製品は本体内部の自己診断機能、およびイージー・セットアップ・メニューの診断プログラムによりテストすることができます。自己診断機能によって、本製品の問題が検出された場合には、エラー・コードが表示され、イージー・セットアップが自動的にロードされます。

ヒント **エラー・メッセージが表示されたときは**

エラー・メッセージが表示された場合にはメッセージの内容を記録しておき、修理を依頼するときに、手渡せるようにしておいてください。

イージー・セットアップを用いることによって、ユーザー自身で問題を解決したり、修理を依頼するときの情報をサービス担当者に連絡することができます。イージー・セットアップで問題が解決できない場合には、この章の「問題判別表」に記述されている処置を行ってください。

重要

IBM以外の製品の場合には、不適切なエラー情報が示されたり、応答をしたりする場合があります。それらの製品のテストについては、それらの製品に付属している指示書を参照してください。

テストを始める

1 電源を入れる

本製品は、電源を入れるたびに、本体内部の自己診断機能が働き、その後に次のどれかの画面が表示されます。

- 「画面-1」:自己診断機能でエラーが検出されなければ、DOSが始動し、内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブから始動したときは「Personaware」の画面が表示されます。

- 「画面-2」:本製品にシステムが何も導入されていなければ、次の画面が表示されます。

```
XXXXKB OK
I9990305
```

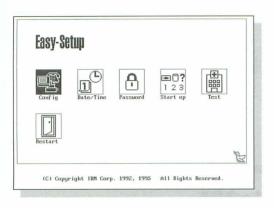
- 「画面-3」:自己診断機能でエラーが検出された場合、例として次のような「POST」画面が表示されます。

画面-1または画面-2のどちらかが表示されていますか?
はい　　ステップ2に進んでください。

画面-3が表示されていますか?
はい　　[Enter] キーを押してステップ4に進んでください。

画面に何も表示されていないか、上記以外の画面ですか?
はい　　6-14ページの『問題判別表』に進んでください。

2 イージー・セットアップ・メニューでシステム・テストをする

自己診断機能によるテストではエラーを検出できませんでした。いったん電源を切ってから、F1 キーを押したまま電源を入れてください。イージー・セットアップの画面が表示されたら、F1 キーを離します。次の画面が表示されます。

3 【→】、【←】、【↑】、【↓】キーを押してイージー・セットアップ・メニューから「Test」アイコンを選ぶ

「Test」画面が表示されます。

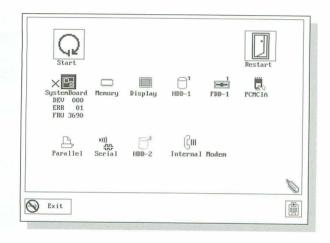
4 「Enter」キーを押す

すべての機能がテストされます。

5 次のいずれかの結果に従って処置を進める

●イージー・セットアップ・メニューから先に進めない場合、本製品の修理を依頼してください。

●テストが途中で進まなくなり、継続できない場合、本製品の修理を依頼してください。

●次のような画面が表示された場合、本製品の修理を依頼してください。画面のアイコン（絵で表示）は本製品を構成する装置で、×のマークは、その装置でエラーが検出されたことを示します。

●テストで問題を発見できないが、問題が存在する場合には、次ページの『問題判別表』に進んでください。

問題判別表

エラー・コード

画面上のメッセージ	対処方法
ERROR 00161 00173 00163 OK Cancel	自己診断機能でエラーを発見しました。（時刻の設定がされていない場合は、163のエラー・コードが表示されますが、故障ではありません。Palm Top PCを始動したときに一瞬数字が表示されることがありますが、これも故障ではありません。） システム・テストを行い、エラーを発見したら本体の修理を依頼してください。
xxxxKB OK I9990305	●始動優先順位を調べて、始動可能なドライブを設定してください。 ●DOSが導入されていません。次の作業を行ってください。 1. 本体の電源を切ってください。 2.ポート・リプリケーターに本体とディスケット・ドライブを接続し、システム・インストール・ディスケットをディスケット・ドライブに入れてください。 3. 本体の電源を入れてください。 依然として同じ画面になる場合は、本体の修理を依頼してください。
パスワード・プロンプト	パスワードが設定されています。 Palm Top PCを使うには、正しいパスワードを入力し、［Enter］キーを押してください。（⇒4-55ページ） パスワードが正常に働かない場合は、本体の修理を依頼してください。 重要 パスワードは、外部オプションの数値キーパッドからは入力できません。

液晶ディスプレイの問題

状況	対処方法
Fn キーを数秒間押し続けても、画面に何も表示されず、液晶インジケーター・パネルにも何も表示されない。	次の項目を調べてください。 ●本体の電源スイッチが入っていること。 ●ACアダプターが本体および電源コンセントに差し込まれていること。 ●バッテリーで使っている場合、残量が十分であること。 依然として画面に表示が出ない場合は、本体の修理を依頼してください。
画面に何も表示されずビープ音が一度だけ鳴る。 **重要** 音が鳴ったかどうかわからなければ、スピーカーの音を最大にしてもう一度始動し直してください。	次の項目を調べてください。 ●コントラストが調節されていること。 ●外付けディスプレイが接続されていないこと。 依然として画面に表示が出ない場合は、本体の修理を依頼してください。
画面に何も表示されず、ビープ音が二度以上鳴る。	本体の修理を依頼してください。
カーソルだけが表示される。	本体の修理を依頼してください。
画面表示が読めない、または歪んでいる。	本体の修理を依頼してください。
間違った文字が表示される。	DOSおよびアプリケーション・ソフトが正しく導入および構成されていることを調べてください。フォント・アドレスが正しく設定されているか、確認してください（⇒4-43ページ）。問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。

状況	対処方法
本体の電源が切れているのに、液晶ディスプレイに何か表示されている。	本体の修理を依頼してください。
電源を入れた直後に画面が暗い。	しばらくすると、明るくなってきます。コントラストを調整しながらお使いください。

外付けディスケット・ドライブの問題

状況	対処方法
ディスケット・ドライブ・ランプがついたまま。	外付けディスケット・ドライブにディスケットが入っている場合は、次の項目を調べてください。 ●そのディスケットは、ラベルを手前、上向きで差し込まれているかを確かめてください。 ●そのディスケットが正常であるか調べるために、複製がもう1枚あれば、それで試してください。 ●そのディスケットに入っているプログラムが正常であることを確かめてください。「ソフトウェアの問題」を参照してください。 依然としてディスケット・ドライブ・ランプがついたままである場合は、修理を依頼してください。

状況	対処方法
ディスケットに読み書きができない。	●正しくフォーマットされたディスケットを使用してください。 ●1.2Mバイトのフォーマットのディスケットを使うにはデバイス・ドライバーが必要です。（⇒4-30ページ） ●ポート・リプリケーターが本体にしっかり接続されているか確認してください。 ●ディスケット・ドライブが正しく接続されているか確認してください。 依然としてディスケットに読み書きできない場合は、修理を依頼してください。

キーボードの問題

状況	対処方法
キーボード上の一部、またはすべてのキーが働かない。	外付けキーボードが接続されている場合は、本体のキーボードは働きません。 問題を発見できない場合は、本体の修理を依頼してください。 外付けキーボードの異常の場合は、「マウス、数値キーパッド、外付けキーボードの問題」をお読みください。
サスペンド状態からレジュームした後、キーボードが使用できない。	パスワードが設定されている場合、このパスワードを入力してください。

ポインティング・ヘッドの問題

状況	対処方法
ポインティング・ヘッドが働かない。	●マウスが接続されている場合は、ポインティング・ヘッドは働きません。 ●イージー・セットアップの「Keyboard」で、ポインティング・ヘッドがDisableになっていないことを確認してください。 問題を発見できない場合は、本体の修理を依頼してください。

マウス、数値キーパッド、外付けキーボードの問題

●ポート・リプリケーター（またはキーボード／マウス・アダプター）の接続を確認してください。

状況	対処方法
マウス、数値キーパッド、外付けキーボードが働かない。	各装置とポート・リプリケーター（またはキーボード／マウス・アダプター）を接続しているケーブルが正しく接続されているかどうかチェックしてください。ケーブルのチェックで問題がなかった場合は、修理を依頼してください。
サスペンド状態からレジュームした後、マウス、数値キーパッド、外付けキーボードが使えない。	パスワードが設定されている場合、正しいパスワードを入力してください。 **重要** パスワードは、数値キーパッドから入力できません。

プリンターの問題

状況	対処方法
プリンターが働かない。	次の項目を調べてください。 ●プリンターの電源が入っていて、「印刷可」になっていること。 ●プリンター信号ケーブルがプリンターとポート・リプリケーターに接続されていること。 ●ポート・リプリケーターが本体にしっかり接続されていること。 ●DOSまたはWindowsで、プリンターに合ったプリンター・ドライバーがインストールされていること。（出荷時には4MBの内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブにプリンター・ドライバーがインストールされていません。） 依然としてプリンターが働かない場合は、プリンターに付属のマニュアルに記述されているテストを実行してください。そのテストでプリンターが正常であると判定されたら、本体の修理を依頼してください。

シリアル装置の問題

状況	対処方法
シリアル装置が働かない。	次の項目を調べてください。 ●シリアル装置のケーブルがシリアル装置とポート・リプリケーターに接続されていること。 ●シリアル・ポートが選ばれていること。（⇒4-46ページ） ●ポート・リプリケーターがしっかり接続されていること。 依然としてシリアル装置が働かない場合は、修理を依頼してください。

バッテリーの問題

状況	対処方法
バッテリー充電中に、チャージ・アイコン（◀）と電池アイコン（▭）が交互に点滅している。または、チャージ・アイコン（◀）が点滅している	次の項目を調べてください。 ●周囲温度が5℃から35℃の間で使っていること。（バッテリーの性能を十分発揮するために、10℃から30℃の間での充電をおすすめします。（⇒1-40ページ） ●一度充電を終了し、再度充電をしてみる。 依然として問題点が残っている場合は、バッテリーを交換するか、修理を依頼してください。

PCカードの問題

状況	対処方法
PCカードがきちんと働かない。	次の項目を調べてください。 ●PCカードがきちんと取り付けられていて、ゆるんでいないこと。 ●PCカードを使うためのソフトウェアが正しく導入されていること。 ●PCカード・フラッシュ・メモリーやPCカード・ハードディスクから始動しようとしているときは、始動優先順位が正しく設定されていること。 依然としてPCカードが働かない場合は、修理を依頼してください。

スマート・ピコ・フラッシュの問題

状況	対処方法
スマート・ピコ・フラッシュがきちんと働かない。	次の項目を調べてください。 ●スマート・ピコ・フラッシュがきちんと取り付けられていて、ゆるんでいないこと。 ●スマート・ピコ・フラッシュから始動しようとしているときは、始動優先順位が正しく設定されていること。

外付けディスプレイの問題

状況	対処方法
画面に何も表示されない。	液晶ディスプレイに表示されている場合は、ディスプレイの切り替えをおこなってください。方法は、「Fnキー」（⇒1-18ページ）または「PS2.EXE（機能設定）を使う」（⇒4-65ページ）をお読みください。 外付けディスプレイが指定されている場合、次の項目を調べてください。 ●外付けディスプレイの電源コード・プラグが、外付けディスプレイ側と電源コンセント側でしっかりと差し込まれていること。 ●外付けディスプレイの電源スイッチがオンで、輝度とコントラストが調節されていること。 ●外付けディスプレイの信号ケーブルが、ポート・リプリケーターの外付けディスプレイ・コネクターに接続され、ゆるんでいないこと。 ●ポート・リプリケーターが本体にしっかり接続されていること。 すべての項目について問題がなく、依然として外付けディスプレイの画面に何も表示されない場合、外付けディスプレイに付属のマニュアルに記述されているテストを実行してください。このテストで問題を発見できない場合、本体の修理を依頼してください。
画面表示が読めない、または歪んでいる。	外付けディスプレイに付属のマニュアルに記述されているテストを実行してください。このテストで問題を発見できない場合、本体の修理を依頼してください。

状況	対処方法
間違った文字が表示される。	フォント・アドレスが正しく設定されていることを確認し、DOSおよびアプリケーション・ソフトが正しくインストールおよび構成されていることを調べてください。問題を解決できない場合、本体の修理を依頼してください。
画面表示がズレている。	Windowsを使っているときに、外付けディスプレイの画面表示が左にズレる場合がありますが、故障ではありません。表示域の調整が可能なディスプレイを使っている場合は、微調整によってより快適に使うことができます。
全画面が表示されずに切れてしまう。	次の作業を行ってください。 1.調整可能な場合は調整する。 2.800×600の解像度を設定した場合は、そのディスプレイが水平同期周波数37.5kHz、垂直同期周波数60Hzで利用可能か確認する。

ソフトウェアの問題

状況	対処方法
プログラムが正常に実行できない。	次の項目を調べて、プログラムに原因があるかどうかを判定してください。 ●Palm Top PCがそのプログラムを使うための必要条件を満たしていること。（たとえば、装置の構成が使っているプログラムと合っているなど）ソフトウェアに付属のマニュアルを参照して調べてください。 ●Palm Top PC用のプログラムであること。 ●他のプログラムがPalm Top PC上で実行できること。 ●そのプログラムが他のコンピューター上で実行できること。 ●そのプログラムを使っているときにエラー・メッセージが表示されなかったか。あれば、そのプログラムに付属のマニュアルを参照して、メッセージの意味と問題の解決方法を調べてください。 依然として問題点が残っている場合は、IBMサービス・センターまたは販売店にご連絡ください。 **重要** 内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブに新しくソフトウェアをインストールした場合、空容量が不足して動作しない場合があります。その場合には、スマート・ピコ・フラッシュまたはPCカード・ハードディスクにインストールしてお使いください。

マイクロフォン、ヘッドフォンの問題

状況	対処方法
オーディオ機能が働かない	Palm Top PCのオーディオ機能はWindows上のアプリケーションで機能します。Personaware上では使えません。 Windowsの「コントロールパネル」の「ドライバー」で「Creative Labs Sound Blaster 15」と「AdLib」が組み込まれていることを確認してください。
録音ができない	次の項目を調べてください。 ●ヘッドセットを使うときに、プラグがPalm Top PCのオーディオ用ヘッドセット・ジャック（本体背面）にきちんと接続されていること。 ●接続したヘッドセットのマイクが、ダイナミック・マイクか電池内蔵式のコンデンサー・マイクであること。（Palm Top PCでは外部からの電源を必要とするコンデンサー・マイクは使えません。） ●電池内蔵式のコンデンサー・マイクを持ったヘッドセットをご使用の場合は、電源スイッチがオンになっていること。 ●Windowsの「コントロールパネル」の「ドライバー」で「Creative Labs Sound Blaster 15」と「AdLib」が組み込まれていることを確認してください。 補足 ヘッドセットのマイクのインピーダンスは、50kΩ（LOW）です。

状況	対処方法
再生ができない	ヘッドセットをオーディオ用ヘッドセット・ジャックに接続すると、内蔵スピーカーから音は出ません。 次の項目を調べてください。 ●ボリュームが調節されていること。 ●ヘッドセットがPalm Top PCのオーディオ用ヘッドセット・ジャックにきちんと接続されていること。 Windowsの「コントロールパネル」の「ドライバー」で「Creative Labs Sound Blaster15」と「AdLib」が組み込まれていることを確認してください。

手書き入力の問題

状況	対処方法
正しく入力されない	●ドライバー（INKDRV.COM）が組み込まれているか？（システム・インストール・ディスケットを使用） ●メモ・パッドシートが痛んでいないか、交換してみる。 ●DOSのコマンド・ラインで、inkdrv /cを実行し、入力領域の補正をする。 ●メモ・パッドは、Personaware以外では使えません。

赤外線通信の問題

状況	対処方法
赤外線通信ができない	次の項目を調べてください。 ●イージー・セットアップの「Config」の中の「Serial」の設定で Infrared が「Infrared 1」か「Infrared 2」に設定されていること。 ●通信する相手との間にケーブルなどの障害物が置かれていないこと。 ●通信する相手との距離や角度は適正か?（⇒1-33ページ） ●赤外線通信ポートの表面が汚れていないか? ●通信パラメーターが通信相手と合っているか? ●通信ソフトウェアが通信相手と同じであるか？
間違った文字が送受信される	次の項目を調べてください。 ●通信する相手との距離や角度は適正か?（⇒1-33ページ） ●直射日光や白熱灯などの光源がPalm Top PCの近くに置かれていないこと。 ●リモコンやワイヤレス・ヘッドフォンなどの赤外線を使用する機器の近くで使用していないこと。 ●通信パラメーターが通信相手と合っているか?

状況	対処方法
送受信をおこなっていないのに何かが送られてくる	次の項目を調べてください。 ●通信する相手との距離や角度は適正か?（⇒1-33ページ） ●直射日光や白熱灯などの光源がPalm Top PCの近くに置かれていないこと。 ●リモコンやワイヤレス・ヘッドフォンなどの赤外線を使用する機器の近くで使用していないこと。 ●通信パラメーターが通信相手と合っているか?

電話機能の問題

状況	対処方法
電話をかけることができない	●電話の発信は、Personawareのみでサポートしています。 ●内蔵モデムが使用可能になっていること。 ●電源が入っているか？ ●電話ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ●電話用ヘッドセットを使うときは、本体の電話用レシーバーとマイクは使えません。
電話を受けることができない	●電話オフ・フック・スイッチの位置が左側にあることを確認してください。 ●電話ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ●電話用ヘッドセットを使うときは、本体の電話用レシーバーとマイクは使えません。

FAX機能の問題

状況	対処方法
FAXを送ったり、受けたりすることができない	●内蔵モデムが使用可能になっていること。 ●電話オフ・フック・スイッチの位置が左側にあることを確認してください。 ●電話ケーブルが正しく接続されているか？ ●電源が入っているか？
電源が切れているとき、またはサスペンド中にFAXを受けることができない	●モデム着信によるレジュームが有効になっているか？（⇒4-71ページ）

非再現性の問題

状況	対処方法
Palm Top PCで一過性の問題がある	たまに一度起こるものなので、問題点を見つけ出すことは困難です。 このような問題がある場合は、次の項目を調べてください。 ●本体や接続されているオプションに、ケーブルやコードが確実に接続されていること。 問題が解決できないときは、問題の内容とそのときにPalm Top PCで行っていた内容を書き留めてから、IBMサービス・センターまたは販売店にご連絡ください。

アフター・サービスについて

IBMサービス体制について

Palm Top PCの保証サービスおよび保守サービスは、次のサービス方式が用意されています。保証期間中は一部の製品を除き、通常「IBM集配によるサービス・センターでの修理サービス」が提供されます。

●IBM集配によるサービス・センターでの修理サービス
お客様からIBMサービス・センターへの連絡にもとづき、IBMがお客様の機械設置場所から修理を要する機械を梱包し、IBMサービス・センターに運送したうえで、修理をおこないます。修理完了後、機械をお客様にお届けします。

サービス体制、対象製品などの詳細に関しては、販売元にお問い合わせください。また、保証期間終了後の修理は、保守サービス契約が用意されていますので、販売店またはIBMサービス・センターにお問い合わせください。

修理依頼されるときのご注意

修理依頼されるときは、次の点にご注意ください。

●電源を切ってください。（サスペンド状態の場合はレジュームし、電源を切ってください。）

●下記事項は、必ず書き留めてください。
製品名称　：　IBM Palm Top PC 110
型番号　：　＿＿＿＿＿＿
機械番号　：　＿＿＿＿＿＿
型番号と機械番号は本体底面にラベルがあり、“Type”および“S/N”に続くものです。

付録

Appendix

アペンディックス

この章では、ハードウェア／ソフトウェアを含めた参照情報をまとめています。必要なときにお読みください。

お手入れのしかた

Palm Top PCを定期的にお手入れして、気持ちよく使いましょう。お手入れするときは、必ず電源を切ってから行ってください。

カバーなど、まわりが汚れたら、乾いたやわらかい布で軽くふいてください。

汚れが目立つようなら、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、よくしぼってからふいてください。よくしぼらないと故障の原因となります。

画面や赤外線通信ポートが汚れたり、ポインティング・ヘッドやキーボードが汚れたときにも、乾いたやわらかい布で軽くふいてください。
水、ケトン類、芳香剤（ベンジンなど）の溶剤は、使わないでください。

ソフトウェアをもとに戻す（再インストール）

Palm Top PCの本体の内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブにインストールされている最小限の構成のDOSと、Personawareを購入時の状態に戻すには、次の手順に従ってください。再インストールにはオプションのポート・リプリケーターとディスケット・ドライブが必要です。

1 ディスケット・ドライブに「システム・インストール・ディスケット」を挿入する。

本体からポートリプリケーター経由でディスケット・ドライブを接続する方法は、4-29ページを参照してください。

2 「システム・インストール・ディスケット・メニュー」から1を入力する。

「1 内蔵フラッシュ・ドライブの初期化」が選択されます。あとは画面に従ってください。

画面に従い2枚目の「Personawareインストール・ディスケット」を挿入して[Enter]キーを押すと、Personawareがインストールされます。

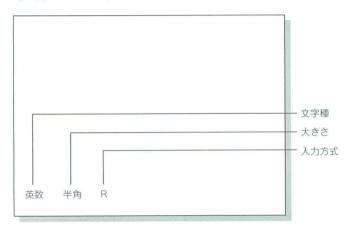
補足　Personaware単独のインストール

「Personawareインストール・ディスケット」は単独でもインストールできるようになっています。ドライブAに「Personawareインストール・ディスケット」を挿入し、install[Enter]でインストールが開始します。パネルからインストール先も変更できます。

文字を入力するには

ここでは、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、記号などの入力のしかたを説明します。

画面を見れば入力できる文字がわかる

Palm Top PCでは、いまどんな種類の文字が、どんな大きさで、どんな入力のしかたで入力できるかは画面の一番下を見ればわかります。まず、この見かたと意味を覚えましょう。

文字種

入力できる文字の種類を表します。「かな」「カナ」「英数」の 3 種類があります。

表示	意味	切り替えキー
かな	ひらがななどの入力	[ひら] キー
カナ	カタカナなどの入力	[⇧ Shift] キーを押したまま [カタカナ] キー
英数	アルファベットと数字などの入力	[英数] キー

大きさ

入力できる文字の大きさを表します。「半角」「全角」の２種類があります。

表示	意味	切り替えキー
半角	半角文字（abl23など）の入力	[半/全] キー
全角	全角文字（ａｂｌ２３など）の入力	[半/全] キー

入力方式

入力のしかたを表します。「R」と表示なしの2種類があります

表示	意味	切り替えキー
R	ローマ字入力	[Alt] キーを押したまま [ローマ] キー（[ひら] キー）
（表示なし）	かな入力	[Alt] キーを押したまま [ローマ] キー（[ひら] キー）

文字の大きさを変える（全角と半角）

Palm Top PCでは、全角と半角の２種類の大きさの文字が使えます。全角は「ＨＩＪＫ」のような大きさで、半角は全角の半分で「HIJK」のような大きさです。

切り替えかた

[半/全] キーを押します。押すごとに半角と全角が交互に切り替わります。画面下に「半角」が表示されれば半角の文字が、「全角」が表示されれば全角の文字が入力できます。

> ヒント **ひらがなと漢字には「全角」しかない**
> Palm Top PCでは、ひらがなと漢字は全角文字しかありません。「半角」が表示されているときでも、入力できるのは全角の文字です。

> ヒント **DOSのコマンドは半角で**
> DOSのコマンドは、必ず半角で入力してください。全角で入力してもコマンドとは見なされません。

付

Appendix 付録

かな入力とローマ字入力

かな入力は、入力する文字のキーをそのまま押します。たとえば、「ま」を入力するには［ま］キーを押します。
ローマ字入力は、ローマ字で英字のキーを入力してかなを入力します。たとえば「ま」を入力するには［M］キー、［A］キーの順に押します。

切り替えかた

［Alt］キーを押したまま［ローマ］キー（［ひら］キー）を押します。押すごとにローマ字入力とかな入力とが切り替わります。画面下に「R」と表示されればローマ字入力ができ、「R」が消えればかな入力ができます。

ローマ字入力のしかた

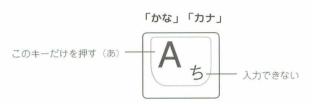
準備

画面下に「R」が表示されていることを確かめます。表示されてないときは［Alt］キーを押したまま［ローマ］キー（［ひら］キー）を押します。

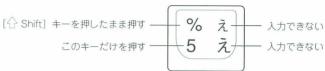
基本ルール

キーの種類によって、基本ルールが少し異なります。

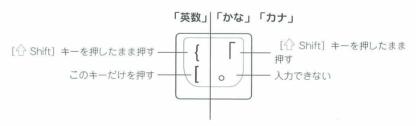
アルファベットのキー

「かな」または「カナ」のときに押すと、アルファベットに応じたひらがなやカタカナが入力できます。

「英数」のときに押すと、アルファベットが入力できます。

数字のキー

「英数」「かな」または「カナ」のどの状態でも数字と記号が入力できます。

右上が記号のキー（『』「」々ケ、。・£¢¦¬ など）

「かな」または「カナ」のときに［⇧ Shift］キーを押したまま押すと、右上の記号が入力できます。この記号は和文を入力するときによく使用します。

「英数」のときに［⇧ Shift］キーを押したまま押すと、左上の記号が入力できます。この記号は英文を入力するときによく使用します。

各文字種の入力方法

ひらがな

1.［ひら］キーを押して、画面下の表示を「かな」にする。
2.入力したい文字のローマ字を入力する（例：「ま」なら、［M］、［A］）。

> **ヒント　小さいひらがな（ぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ、っ、ゃ、ゅ、ょ）の場合は**
> 入力したい文字のローマ字の前に［X］キーを押す
> （例：「ゃ」なら、［X］、［Y］、［A］）。

カタカナ

1. [⇧ Shift] キーを押したまま [カタカナ] キーを押して、画面下の表示を「カナ」にする。
2.入力したい文字のローマ字を入力する（例：「マ」なら [M]、[A]）。

ヒント　小さなカタカナ（ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ）の場合は
入力したい文字のローマ字の前に [X] キーを押す。（例：「ャ」なら、[X]、[Y]、[A]）。

数字

1.入力したい数字のキーを押す（「かな」「カナ」「英数」にかかわらず入力できる）。

アルファベットの小文字

1. [英数] キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2.入力したい文字のキーを押す。

アルファベットの大文字（1文字）

1. [英数] キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. [⇧ Shift] キーを押したまま入力したい文字キーを押す。

アルファベットの大文字（連続）

1. [英数] キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. [⇧Shift] キーを押したまま [Caps Lock] キーを押す。
（液晶インジケーター・パネルに⇧Aが表示される）
3. 入力したい文字のキーを押す。
4. 小文字に戻すには、[⇧Shift] キーを押したまま [Caps Lock] キーを押す。
（液晶インジケーター・パネルの⇧Aが消える）

付

Appendix 付録

かな記号（『』「」々ケ、。・£¢¦¬ など）

1. ［ひら］キーを押して、画面下の表示を「かな」にする。
2. ［⇧ Shift］キーを押したまま、入力したい記号のキーを押す。

英記号（！”＃＄％＆’（）など）

1. ［英数］キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. ［⇧ Shift］キーを押したまま、入力したい記号のキーを押す。

かな入力のしかた

準備

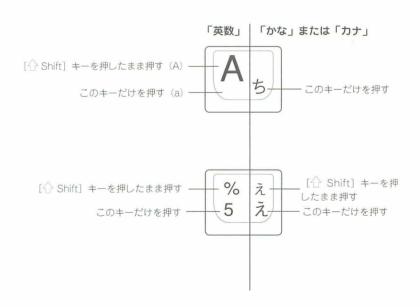
画面下の表示に「R」と表示されていないことを確かめます。表示されているときは、［Alt］キーを押したまま［ローマ］キー（［ひら］キー）を押します。

基本ルール

キーの右側の文字は「かな」や「カナ」のとき入力でき、左側の文字は「英数」のときに入力できます。
キーの下側の文字はキーをそのまま押すと入力でき、上側の文字は［⇧Shift］キーを押したまま押すと入力できます。
それぞれの部分に刻印がなければ、押しても何も入力されません。ただし、英字のキーは、そのまま押すと小文字が入力できます。例えば［A］キーをそのキーだけで押すと「a」が表示されます。

各文字種の入力方法

ひらがな

1. [ひら] キーを押して、画面下の表示を「かな」にする。
2. 入力したい文字のキーを押す。

ヒント　**小さなひらがな（ぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ、っ、ゃ、ゅ、ょ）や「を」の場合は**
[⇧ Shift] キーを押したまま、入力したい文字のキーを押す。

カタカナ

1. [⇧ Shift] キーを押したまま [カタカナ] キーを押して、画面下の表示を「カナ」にする。
2. 入力したい文字のキーをそのまま押す。

ヒント　**小さなひらがな（ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ）や「ヲ」の場合は**
[⇧ Shift] キーを押したまま、入力したい文字のキーを押す。

数字

1. [英数] キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. 入力したい数字のキーを押す。

アルファベットの小文字

1. [英数] キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. 入力したい文字のキーを押す。

アルファベットの大文字（1文字）

1. [英数] キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. [⇧ Shift] キーを押したまま、入力したい文字のキーを押す。

アルファベットの大文字（連続）

1. ［英数］キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. ［⇧ Shift］キーを押したまま［Caps Lock］キーを押す。
（液晶インジケーター・パネルに🄰が表示される）
3. 入力したい文字のキーを押す。
4. 小文字に戻すには、［⇧ Shift］キーを押したまま［Caps Lock］キーを押す。
（液晶インジケーター・パネルの🄰が消える）

かな記号（『』「」々ケ、。・£¢¦¬など）

1. ［ひら］キーを押して、画面下の表示を「かな」にする。
2. ［⇧ Shift］キーを押したまま、入力したい記号のキーを押す。

英記号（!”#$%&’（）など）

1. ［英数］キーを押して、画面下の表示を「英数」にする。
2. ［⇧ Shift］キーを押したまま、入力したい記号のキーを押す。

付

Appendix 付録

漢字を入力する（連文節変換）

ここでは、DOS／Vに付属する連文節変換の使いかたを説明します。Palm Top PCにあらかじめ導入されている辞書ファイルは，サイズを小さくした縮小版です。

入力のしかた

1 **［Alt］キーを押したまま［半角/全角］キーを押す**

画面下に「漢字」が表示されます。

かな 半角　漢字

2 **ひらがなで文を入力する**

漢字変換の対象部分が輝度反転します。

かんじにゅうりょくをおぼえる

3 **［変換］キーを押す**

ひらがなが漢字に変換されます。

漢字入力を覚える

ヒント　**漢字の読みを入れ直したければ**

［無変換］キーを押します。手順2に戻るので、もう一度やり直します。

4 画面に表示された漢字が正しいか確認する

正しければ、［Enter］キーを押して変換を確定します。

漢字入力を覚える

正しくなければ、［→］、［←］キーを押して輝度反転を正しく変換されていない漢字に移動します。輝度反転した文節が漢字変換の対象です。

漢字入力を覚える

［変換］キーを押します。

［変換］キーを押すたびに、次の候補が表示されます。

感じ入力を覚える

ヒント　**1つ前の候補に戻りたければ**

［⇧ Shift］キーを押したまま［変換］キーを押します。

［変換］キーを3回押すと、画面の下に「文節候補」が表示されます。

かな　半角　R　1漢字　2感　3幹事　4監事　5寛治　6寛二　7勘治　文節変換　2/9

※一例です

正しい漢字に対応する数字を押します。その他の候補を表示させるには、［PgDn］キーまたは［PgUp］キーを押します。

付

Appendix 付録

5 続けて漢字を入力する場合は、手順2〜4を繰り返す

6 入力が終わったら［Alt］キーを押したまま［半角/全角］キーを押す

画面下の表示から「漢字」が消えます。

ヒント **助詞や助動詞など、そのままひらがなにしたいときは**

そのままひらがなにしておきたい文節や助詞・助動詞が漢字に変換されているときには、次の手順でひらがなにします。

例：「漢字入力を覚える」を「漢字にゅうりょくを覚える」にしてみましょう。

1. ［←］キーを押して輝度反転を「入力を」に移動する。

   漢字入力を覚える

2. ［無変換］キーを押す。

   漢字にゅうりょくをおぼえる

3. ［→］キーを押して、ひらがなのままにしたい文節を輝度反転する。

   漢字にゅうりょくをおぼえる

4. ［無変換］キーを押す

   輝度反転が「お」に移動します。

   漢字にゅうりょくをおぼえる

5. ［→］キーを押して「おぼえる」を輝度反転する

   漢字にゅうりょくをおぼえる

6. ［変換］キーを押す

   漢字にゅうりょくを覚える

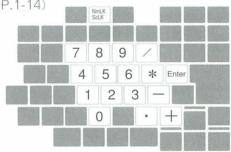
7. ［Enter］キーを押して確定する

   漢字にゅうりょくを覚える

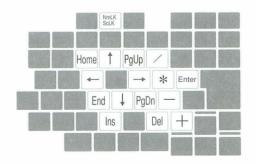
テン・キーの使いかた

キーボードの一部を数値キーパッドとして使うことができます。ただし、外付け数値キーパッドが接続されているときは、キーボード上のその部分は、数値キーパッドとして使えません。

キーボードの一部を数値キーパッドとして使うには、［Shift］キーを押しながら［NmLK］キーを押して、キーボードのモードをナム・ロック状態にします。（→P.1-14）

重要

図のキーの機能は、キーの表面には表示されていません。

この状態で［Shift］キーを押すと、数値キーパッドのキーを一時的にカーソルや画面の移動キーとして使うことができます。

重要

図のキーの機能は、キーの表面には表示されていません。

ナム・ロック状態（数値キーパッドとしての使用）を解除するには、［Shift］キーを押しながら［NmLK］キーを押します。

ローマ字入力表

ローマ字					ひらがな				
a	i	u	e	o	あ	い	う	え	お
ka ca	ki	ku cu qu	ke	ko co	か か	き	く く く	け	こ こ
sa	si shi ci	su	se ce	so	さ	し し し	す	せ せ	そ
ta	ti chi	tu tsu	te	to	た	ち ち	つ つ	て	と
na	ni	nu	ne	no	な	に	ぬ	ね	の
ha	hi	hu fu	he	ho	は	ひ	ふ ふ	へ	ほ
ma	mi	mu	me	mo	ま	み	む	め	も
ya	yi	yu	ye	yo	や	い	ゆ	いぇ	よ
ra la	ri li	ru lu	re le	ro lo	ら ら	り り	る る	れ れ	ろ ろ
wa	wi	wu	we	wo	わ	ゐ	う	ゑ	を
nn					ん				
ga	gi	gu	ge	go	が	ぎ	ぐ	げ	ご
za	zi ji	zu	ze	zo	ざ	じ じ	ず	ぜ	ぞ
da	di	du	de	do	だ	ぢ	づ	で	ど
ba	bi	bu	be	bo	ば	び	ぶ	べ	ぼ
pa	pi	pu	pe	po	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
kya	kyi	kyu	kye	kyo	きゃ	きぃ	きゅ	きぇ	きょ
sha sya	 syi	shu syu	she sye	sho syo	しゃ しゃ	 しぃ	しゅ しゅ	しぇ しぇ	しょ しょ
cha tya cya	 tyi cyi	chu tyu cyu	che tye cye	cho tyo cyo	ちゃ ちゃ ちゃ	 ちぃ ちぃ	ちゅ ちゅ ちゅ	ちぇ ちぇ ちぇ	ちょ ちょ ちょ
nya	nyi	nyu	nye	nyo	にゃ	にぃ	にゅ	にぇ	にょ
hya	hyi	hyu	hye	hyo	ひゃ	ひぃ	ひゅ	ひぇ	ひょ
mya	myi	myu	mye	myo	みゃ	みぃ	みゅ	みぇ	みょ
rya lya	ryi lyi	ryu lyu	rye lye	ryo lyo	りゃ りゃ	りぃ りぃ	りゅ りゅ	りぇ りぇ	りょ りょ
gya	gyi	gyu	gye	gyo	ぎゃ	ぎぃ	ぎゅ	ぎぇ	ぎょ
ja jya zya	 jyi zyi	ju jyu zyu	je jye zye	jo jyo zyo	じゃ じゃ じゃ	 じぃ じぃ	じゅ じゅ じゅ	じぇ じぇ じぇ	じょ じょ じょ
dya	dyi	dyu	dye	dyo	ぢゃ	ぢぃ	ぢゅ	ぢぇ	ぢょ
bya	byi	byu	bye	byo	びゃ	びぃ	びゅ	びぇ	びょ
pya	pyi	pyu	pye	pyo	ぴゃ	ぴぃ	ぴゅ	ぴぇ	ぴょ
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo	ぐゎ	ぐぃ	ぐぅ	ぐぇ	ぐぉ
qwa kwa	qwi kwi	qwu kwu	qwe kwe	qwo kwo	くゎ くゎ	くぃ くぃ	くぅ くぅ	くぇ くぇ	くぉ くぉ
fa	fi		fe	fo	ふぁ	ふぃ		ふぇ	ふぉ
qa	qi		qe	qo	くぁ	くぃ		くぇ	くぉ
tsa	tsi		tse	tso	つぁ	つぃ		つぇ	つぉ
xa	xi	xu	xe	xo	ぁ	ぃ	ぅ	ぇ	ぉ
xya		xyu		xyo	ゃ		ゅ		ょ
		xtu xtsu					っ っ		
xwa					ゎ				

付

Appendix 付録

ローマ字					カタカナ				
a	i	u	e	o	ア	イ	ウ	エ	オ
ka	ki	ku	ke	ko	カ	キ	ク	ケ	コ
ca		cu		co	カ		ク		コ
		qu					ク		
sa	si	su	se	so	サ	シ	ス	セ	ソ
	shi					シ			
	ci		ce			シ		セ	
ta	ti	tu	te	to	タ	チ	ツ	テ	ト
	chi	tsu				チ	ツ		
na	ni	nu	ne	no	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ha	hi	hu	he	ho	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
		fu					フ		
ma	mi	mu	me	mo	マ	ミ	ム	メ	モ
ya	yi	yu	ye	yo	ヤ	イ	ユ	イェ	ヨ
ra	ri	ru	re	ro	ラ	リ	ル	レ	ロ
la	li	lu	le	lo	ラ	リ	ル	レ	ロ
wa	wi	wu	we	wo	ワ	ヰ	ウ	ヱ	ヲ
nn					ン				
ga	gi	gu	ge	go	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
za	zi	zu	ze	zo	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
	ji					ジ			
da	di	du	de	do	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
ba	bi	bu	be	bo	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
pa	pi	pu	pe	po	パ	ピ	プ	ペ	ポ
kya	kyi	kyu	kye	kyo	キャ	キィ	キュ	キェ	キョ
sha		shu	she	sho	シャ		シュ	シェ	ショ
sya	syi	syu	sye	syo	シャ	シィ	シュ	シェ	ショ
cha		chu	che	cho	チャ		チュ	チェ	チョ
tya	tyi	tyu	tye	tyo	チャ	チィ	チュ	チェ	チョ
cya	cyi	cyu	cye	cyo	チャ	チィ	チュ	チェ	チョ
nya	nyi	nyu	nye	nyo	ニャ	ニィ	ニュ	ニェ	ニョ
hya	hyi	hyu	hye	hyo	ヒャ	ヒィ	ヒュ	ヒェ	ヒョ
mya	myi	myu	mye	myo	ミャ	ミィ	ミュ	ミェ	ミョ
rya	ryi	ryu	rye	ryo	リャ	リィ	リュ	リェ	リョ
lya	lyi	lyu	lye	lyo	リャ	リィ	リュ	リェ	リョ
gya	gyi	gyu	gye	gyo	ギャ	ギィ	ギュ	ギェ	ギョ
ja		ju	je	jo	ジャ		ジュ	ジェ	ジョ
jya	jyi	jyu	jye	jyo	ジャ	ジィ	ジュ	ジェ	ジョ
zya	zyi	zyu	zye	zyo	ジャ	ジィ	ジュ	ジェ	ジョ
dya	dyi	dyu	dye	dyo	ヂャ	ヂィ	ヂュ	ヂェ	ヂョ
bya	byi	byu	bye	byo	ビャ	ビィ	ビュ	ビェ	ビョ
pya	pyi	pyu	pye	pyo	ピャ	ピィ	ピュ	ピェ	ピョ
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo	グヮ	グィ	グゥ	グェ	グォ
qwa	qwi	qwu	qwe	qwo	クヮ	クィ	クゥ	クェ	クォ
kwa	kwi	kwu	kwe	kwo	クヮ	クィ	クゥ	クェ	クォ
fa	fi		fe	fo	ファ	フィ		フェ	フォ
va	vi	vu	ve	vo	ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
qa	qi		qe	qo	クァ	クィ		クェ	クォ
tsa	tsi		tse	tso	ツァ	ツィ		ツェ	ツォ
xa	xi	xu	xe	xo	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ
xya		xyu		xyo	ャ		ュ		ョ
xka			xke		ヵ			ヶ	
xca					ヵ				
		xtu					ッ		
		xtsu					ッ		
xwa					ヮ				

特殊記号入力の一覧表

次の表のとおり、読みが登録されている記号の場合は「IBM簡易漢字コードブック」（SC88-3087）で番号を調べなくても、その登録グループ名を読みとして、［Ctrl］＋［無変換］キーを使って単漢変換で入力できます。

読み	入力できる記号
あくせんと	´ ¨
いっぱん（きごう）	§ ※ 〒 …… ‥ ㈱ № ℡
えんざん（きごう）	± ≠ ∞ ≦ ≧ × ÷ ∴ — ‐ ∵
かっこ（きごう）	〔 〕 〈 〉 《 》 【 】 ‘ “ ’ ”
ぎりしゃ（もじ）	α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω Α Β Γ Δ Ε Ζ Η Θ Ι Κ Λ Μ Ν Ξ Ο Π Ρ Σ Τ Υ Φ Χ Ψ Ω
くろ（きごう）	● ▲ ★ ◆ ■ ▼
こんざい（きごう）	┝ ┯ ┥ ┷ ┿ ┠ ┰ ┨ ┸ ╂
しろ（きごう）	○ △ ◎ ☆ ◇ □ ▽
すうがく（きごう）	∠ ⊥ ⌒ ∂ ∇ ≡ ≒ ≪ ≫ √ ∽ ∝ ∫ ∬
たんい（きごう）	° ′ ″ ℃ ¢ Å ‰
とくしゅ（きごう）	¦ 〃 仝 ♂ ♀ ‖ ＝ ♯ ♭ ♪ † ‡ ¶ ◯
ふとせん（きごう）	━ ┃ ┏ ┓ ┛ ┗ ┣ ┳ ┫ ┻ ╋
ふるいかたかな	ヰ ヱ ヽ ヾ ヵ 〆 ヮ
ふるいひらがな	ゎ ゐ ゑ ゝ ゞ
ほそせん（きごう）	─ │ ┌ ┐ ┘ └ ├ ┬ ┤ ┤ ┼

付

Appendix 付録

読み	入力できる記号
やじるし	→←↑↓⇒⇔
ろおま（すうじ）	i ii iii iv v vi vii viii ix x I II III IV V VI VII VIII IX X
ろしあ（もじ）	а б в г д е ё ж з и й к л м н о п р с т у ф х ц ч ш щ ъ ы А Б В Г Д Е Ё Ж З И Й К Л М Н О П Р С Т У Ф Х Ц Ч Ш Щ Ъ Ы
ろんり（きごう）	∈∋⊆⊇⊂⊃∪∩∧∨∀∃

日本語入力方法の一覧表

機能	操作	使用するキー
変換/無変換	次の変換候補を表示する	変換
	前の変換候補を表示する	Shift + 変換
	変換しない	無変換
変換対象文節の選択（カーソルの移動）	次の文節にカーソルを移動する	Shift + →
	前の文節にカーソルを移動する	Shift + ←
	先頭の文節にカーソルを移動する	Ctrl + ←
	最後の文節にカーソルを移動する	Ctrl + →
確定	確定する	Enter
読みに戻す	全体を読みに戻す	変換直後に 無変換
	特定の文節以降を読みに戻す	文節を輝度反転して 無変換
	特定の文節だけを読みに戻す	文節を輝度反転して Alt + 無変換
文節の切り直し	文節を切り直す	読みに戻した後 →, ←
全候補の表示	全候補を表示する	変換 の後、Alt + 変換
	全候補を消去する	Esc
	前/次の候補群を表示する	Page Up, Page Down

機能	操作	使用するキー
単漢候補の表示	単漢候補を表示する	Ctrl + 無変換
	単漢候補を消去する	Esc
	前/次の候補群を表示する	Page up , Page Down
番号入力	番号入力モードに入る	Alt + 英数
	番号入力モードから抜ける	Esc
郵便番号辞書	郵便番号による住所入力	郵便番号を入力して 変換
漢数字変換	算用数字から漢数字への変換	全角数字を入力して 変換
特殊記号入力	特殊記号を入力する	登録グループ名を入力してから、 Ctrl + 無変換
単語登録	かな漢字制御メニューの表示	Ctrl + 無変換 + 半角/全角
リトリーブ	前の読みの表示	確定後、 Shift + 変換
データの先頭／末尾	先頭／末尾へのカーソル移動	Home , End
半角／全角	半角、全角モードの切り換え	半角／全角

DOSの内部コマンド一覧表

ここではDOSのプロンプト表示から使用できる、DOSの内部コマンドを一覧表にしています。より詳しい説明が必要な場合は、コマンド行からコマンドの後に／？を付けて［Enter］を押し、画面で参照できます。また付属のDOSディスケットをインストールをすると、全コマンドを網羅したオンライン・コマンド解説がインストールできます。

コマンド	解　説	使い方
CALL	**あるバッチ・ファイルから別のバッチ・ファイルを実行します。**	call newbatch
CD(CHDIR)	**カレント・ディレクトリーを変更します。**	cd dos cd ￥
CLS	**表示画面を消去します。**	cls
COMMAND	**DOSのコマンド・インタープリターを新しく開始します。**	command /c mybat.bat
COPY	**ファイルをコピーまたは連結します。**	copy c:￥dos a:￥ copy a.txt + b.txt ab.txt
DATE	**システムの日付を表示または変更をします。**	date date 95-12-01
DEL(ERASE)	**ファイルを削除します。**	del readme.bak
DIR	**ファイルの一覧を表示します。**	dir /w dir /od
ECHO	**バッチ・ファイル・コマンドの表示をオン/オフします。**	@echo off
EXIT	**コマンド・インタープリター(COMMAND.COM)を終了します。**	exit
FOR	**繰り返し処理をします。**	for %f in (*.doc *.txt) do type %f

コマンド	解　説	使い方
GOTO	バッチ・ファイル内で、指定したラベルが付けられた行へ進み、次の行からバッチ・コマンド処理を継続します。	goto end
IF	DOSのコマンドの条件付き処理をします。	if not exist config.sys echo No File
LH(LOADHIGH)	プログラムをUMBメモリー領域にロードします。	lh myprog.exe
MD(MKDIR)	ディレクトリーを作成します。	md temp
PATH	プログラム・ファイルの検索パスを設定します。	path path c:¥dos
PAUSE	バッチ・プログラムの処理を一時停止して、プロンプトを表示します。	pause
PROMPT	コマンド・プロンプトの形式を設定します。	prompt prompt pg
REN(RENAME)	ファイル名を変更します。	ren readme.txt read.me ren *.txt *.doc
RD(RMDIR)	指定したディレクトリーを削除します。	rd temp
SET	DOSの環境変数の設定や表示をします。	set set help=c:¥dos
SHIFT	バッチ・プログラムで使用する置換パラメーターの位置を変更します。	shift
TIME	システムの時刻を表示または変更します。	time time 12:00
TYPE	テキスト・ファイルの内容を画面に表示します。	type config.sys

コマンド	解　説	使い方
VER	**DOSのバージョン番号を表示します。**	`ver`
VERIFY	**書き込みデータの検査スイッチをオン/オフします。**	`verify on`
VOL	**ディスクのボリューム・ラベルとシリアル番号を表示します。**	`vol c:`

液晶インジケーター・パネルの状態

システム	電源オフ			サスペンド				動作中（レジューム）		
アダプター	アダプター有		ACアダプター無	ACアダプター有			ACアダプター無	ACアダプター有		ACアダプター無
バッテリー	バッテリー有	バッテリー無	バッテリー有	バッテリー有		バッテリー無	バッテリー有	バッテリー有	バッテリー無	バッテリー有
液晶インジケーター・パネル				充電	放電					
時計／容量	時計	時計	時計	容量／時計 5秒間隔	容量／時計 5秒間隔	AC／時計 5秒間隔	容量／時計 5秒間隔	AC	AC	容量
コロン：	点滅	点滅	点滅	時計表示時点滅	時計表示時点滅	時計表示時点滅	時計表示時点滅	OFF	OFF	OFF
%	OFF	OFF	OFF	容量表示時点灯	容量表示時点灯	OFF	容量表示時点灯	OFF	OFF	点灯
キーボード関連（[A] [1] [↕]）	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	表示	表示	表示
充電マーク（◀）	OFF	OFF	OFF	点灯または点滅	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
電源（電池マーク）（□）	OFF	OFF	OFF	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯

PS2.EXE（機能設定）コマンド一覧表

（例） C>PS2 PM L （パワー・モードをローパワーに設定します）

ヒント
コマンド実行形式中の小文字は省略可能です。
PS2 ? と入力すると、有効なオプションの一覧表が画面に表示されます。

設定機能名	構文	オプション
パワー・モード	PS2 PMode	High Medium Low
サスペンド・タイマー	PS2 POwer	XX minutes（XXは0-99分）
ディスプレイ・タイマー	PS2 LCd	XX minutes（XXは0-17分）
プロセッサー速度	PS2 SPeed	Fast Medium Slow
パワーモード設定値の初期化	PS2 DEFAULT	
カバー・スイッチ	PS2 Cover switch	Enable Disable
レジューム・タイマー	PS2 ON	[at [yyyy-MM-DD] HH:mm:ss Clear]
モデムによるレジューム	PS2 RI	Enable Disable
ディスプレイ装置	PS2 SCreen	LCD CRT
バーティカル・エクスパンション	PS2 VEXPansion	ON OFF
オーディオ装置の割り込みレベル	PS2 IRQAUdio	5 10 Disable
オーディオ装置のDMAチャネル	PS2 DMAAUdui	1 3
手書き入力装置の割り込みレベル	PS2 IRQINKing	5 10 Disable
手書き入力装置のI/Oアドレス	PS2 ADDINKing	15E0 25E0 35E0
赤外線通信ポートの設定	PS2 IR	1 2 Disable
シリアル・ポートの設定	PS2 SErial	1 2 Disable
内蔵ファックス／モデム・ポートの設定	PS2 IMODEM	1 2 Disable
PCMCIAモデム・ポートの設定	PS2 PMODEM	1 2 Disable
システムのサスペンド	PS2 OFF	
キーボード・クリック音	PS2 CLick	ON OFF

付

Appendix 付録

内蔵モデム用ATコマンド一覧表

ATコマンド一覧表

コマンド	パラメーター	機　　能	備　考
+++	−	エスケープ・シーケース （オンライン状態からコマンド状態へ）	Sレジスターでキャラクタの設定可能
A/	−	直前のコマンドの再実行	
A	−	着呼に対して応答またはアンサーモードへ	
D		ダイヤルする	
	P	パルスダイヤルモードにする	
	T	トーンダイヤルモードにする	
	,（コンマ）	S8の設定値だけ休止する	
	;（セミコロン）	ダイヤル後コマンドモードに戻る	
	R	アンサーモードでのダイヤル	
	0〜9	パルス／トーン	
	#✻ABCD	トーンのみ	
E	0	エコーバックを返さない	
	1	エコーバックを返す	
H		電話回線との接続を制御する	
	0	モデムをオンフックする	
	1	モデルをオフフックにする	
	2	モデムをオフフックする	
I		バージョン表示とROMのチェックサム	
	0	ファームウェアのバージョンを表示する	応答：Ver.X.XX
	1	ROMのチェックサムを表示する	応答：ROMのSUM値
	2	チェックサムを計算し、ROMに書き込まれた値と比較して結果を表示する。	
M		モニター音の制御	
	0	常時モニターOFF	
	1	キャリア検出までON	
	2	常時モニターON	
	3	ハンドシェーク中のみモニターON	
O		コマンドモードからデータモードに戻る	
	0	データモードへ戻る	
	1	リトレインを要求する	
P	−	パルスダイヤルを選択する	

■ はデフォルト（既定値）です

コマンド	パラメーター	機　　能	備　考
Q		リザルトコードの表示を選択する	
	0	リザルトコードを表示する	
	1	リザルトコードを表示しない	
S	0～27	Sレジスタの表示／設定をする	
	Sr?	r番地のレジスタの内容を表示する	
	Sr=n	r番地のレジスタに値（n）を設定する	
T	－	トーンダイヤルを選択する	
V		リザルトコードの表示形式を設定する	
	0	数字でリザルトコードを表示する	
	1	文字でリザルトコードを表示する	
X		接続時の回線信号検出モードを選択する	
		ダイヤルトーンの検出　ビジートーンの検出	
	0	しない　しない	X0:CONNECT
	1	しない　しない	X1～4:
	2	する（検出できない時のメッセージ：NO DIALTONE）　しない	CONNECT 1200 または CONNECT 2400
	3	しない　する（検出した時のメッセージ：BUSY）	
	4	する（検出できない時のメッセージ：NO DIALTONE）　する（検出した時のメッセージ：BUSY）	
Z		モデムをリセットする	
&C		CD信号の動作を選択する	
	0	CD信号は常時ON	
	1	CD信号はキャリア検出でON	
&D		ER信号に対するモデムの動作を選択する	
	0	ER信号を無視する	
	1	ER信号ON→OFFでコマンドモードに入る	
	2	ER信号ON→OFFで回線を切断し、コマンドモードに入る	
	3	ER信号ON→OFFで初期化する	

はデフォルト（既定値）です

コマンド	パラメーター	機　　能	備　考
&F	0	工場出荷時の設定にする	
&K		DTE-DCE間のフロー制御	
	1	RTS/CTSフロー制御を行う	
	2	XON/XOFFフロー制御を行う	
	3	RTS/CTSフロー制御を行う	
	4	XON/XOFFフロー制御を行う	
	5	透過モードでXON/XOFFフロー制御を行う	
&P		ダイヤルパルスのスピード，メイク／ブレーク率を選択する	
	0	10PPS:39%/61%	
	1	10PPS:33%/67%	
	2	20PPS:39%/61%	
	3	20PPS:31%/67%	
&S		DR信号の動作を選択する	
	0	DR信号は常時ON	
	1	DR信号はモデム接続開始でON	
&T		自己診断テストモードを選択する	
	0	テストを終了する	
	4	相手モデムからのリモートデジタルループバックテストの要求が受付可能にする	&Ｔ３～&Ｔ６は、通常モードの１２００／2400BPS時のみ有効
	5	リモートデジタルループバックテストの要求を無視	
	6	モデムを接続後、相手モデムに対しリモートデジタルループバックテストを要求する	
	7	モデム間を接続後、相手モデムによるリモトデジタルループバックテストのためにデジタルループを構成する	
&V	ー	現在のコンフィギュレーションとデフォルトの表示	
¥A		MNP通信の最大ブロック長を選択する	
	0	64バイト	
	1	128バイト	

　はデフォルト（既定値）です

コマンド	パラメーター	機　　能	備　考
	2 3	192バイト 256バイト	
¥B	1～9	300msブレーク信号を送信する	1～9のパラメータを受け付けるが、送出時間は固定
¥C	 0 1 2 3	相手のMNPモードの判定方法を選択する 相手がMNPモードか否かを判定し、データをバッファには入れない 相手がMNPモードか否かを判定し、データをバッファに入れる。MNP同期信号が受信されず4秒経過または受信が200文字に達すると、判定を中止して通常モードになる。 MNPモードの判定中に相手からのフォールバック文字を受信すると直ちに通常モードに切り替わり、DTEに受信データの出力を開始する。データはバッファには入れない。 MNPモードの判定中に相手からのフォールバック文字を受信すると直ちに通常モードに切り替わり、DTEに受信データの出力を開始する。データはバッファに入れる。（フォールバック文字はAT%Aコマンドで定義する。）	
¥G	 0 1	モデムーモデム間のフロー制御 XON/XOFFフロー制御を行わない XON/XOFFフロー制御を行う	
¥K	 0 1 2	ブレーク信号の処理を指定する オンラインコマンドモードに入り、相手モデムにブレークを送らない データバッファをクリアして、相手モデムにブレークを送る 0と同じ	モデムがデータ転送モードで動作中に

　はデフォルト（既定値）です

付

Appendix 付録

コマンド	パラメーター	機　能	備　考
	3 4 5	相手モデムに直ちにブレークを送る 0と同じ 送信データに続いて相手モデムにブレークを送る	ＤＴＥからブレークを受け取ったとき
¥K	0 1 2 3 4 5	データバッファをクリアして、相手モデムにブレークを送る 0と同じ 相手モデムに直ちにブレークを送る。 2と同じ 送信データに続いて相手モデムにブレークを送る。 4と同じ	モデムがオンラインコマンド状態（ATコマンド待ち）にあり、AT¥Bを受け取った時
¥K	0 1 2 3 4 5	データバッファをクリアして、相手モデムにブレークを送る 0と同じ DTEに直ちにブレークを送る 2と同じ 受信データに続いてブレークを送る 4と同じ	非MNP接続中にリモートモデムからブレークを受け取った時
¥K	0〜5	DTEにブレークを送る	MNP接続中に相手モデムからブレークを受け取った時
¥N	 0 1 2 3	MNP通信モードを選択する 非MNPモード：MNPモデム以外との通信用 非MNPモード：MNPモデム以外との通信用 MNPモード：相手モデムがAT¥N2かAT¥N3になっている時のみ接続可能 自動MNPモード：相手モデムとの通信モードに合わせて接続される	

▒ はデフォルト（既定値）です

コマンド	パラメーター	機　　能	備　考
¥V		MNP用拡張リザルトコードの使用を選択する	
	0	使用しない	
	1	使用する	
		＊メッセージ表示の選択は、ATVコマンドで指定	
%An		自動MNPフォールバック文字を設定する	
	n	任意の文字コードで0～127までの整数	
%C		MNP時のデータ圧縮モードを選択する	
	0	データ圧縮をしない	
	1	データ圧縮をする	

　はデフォルト（既定値）です

リザルトコード一覧表

数字	キャラクタ	解　　説
0	OK	前のコマンドもしくは作業が正常に終了した。DCEは次のコマンドを待つ。
1	CONNECT	DCEはデータ転送状態に入る。
2	RING	装着が検出された。
3	NO CARRIER	回線が切断された。DCEは次のコマンドを待つ。
4	ERROR	コマンドが認識できないまたは動作が正常でなかった。DCEは次のコマンドを待つ。
5	CONNECT 1200/REL	1200bpsでMNPモード接続した。
6	NO DIALTONE	タイムアウトになるまでダイアルトーンが検出されなかった。
7	BUSY	ビジトーンが検出された。
8	NO ANSWER	ダイアル後相手が応答しなかった。ダイアルコマンドで"@"を使用したとき、5秒間の無音が検知されなかった。
10	CONNECT 2400/REL	2400bpsでMNPモード接続した。
22	CONNECT 1200	1200bpsで非MNPモード接続した。
23	CONNECT 2400	2400bpsで非MNPモード接続した。

Sレジスター一覧表

レジスターNo.	内　　容	設定範囲	デフォルト
S0	自動着信するまでのRing信号の回数 S0＝0の時は自動着信しない	0～255回	0
S1	Ring信号を検出した回数をセットする	0～255回	0
S2	エスケープコードキャラクター（＋）の設定	0～127（ASCII）	43
S3	キャリッジリターンキャラクタ（CR）の設定	0～127（ASCII）	13
S4	ラインフィードキャラクタ（LF）の設定	0～127（ASCII）	10
S5	バックスペースキャラクタ（BS）の設定	0～127（ASCII）	8
S6	ダイヤルを始める前の待ち時間の設定	1～255sec	3
S7	キャリアの待ち時間設定	1～60sec	30
S8	ダイヤルコマンドのポーズ（,）パラメータの待ち時間の設定	0～255sec	2
S9	キャリア検出の待ち時間設定	8／20sec	20
S10	キャリア喪失からオンフックまでの時間設定	1～255／0.01sec	14
S11	タッチトーン信号の間隔設定	60～255msec	70
S12	エスケープコードのガードタイムの設定	0～255／0.02sec	50
S13	予約	—	—
S14	bit　機　能　内　容　関連コマンド 7　オリジメート／アンサー　0：アンサー　ATA/ATD 　1：オリジネート 6　¥検出／未検出　0：未検出　AT¥ 　1：検出 5　ダイヤルタイプ　0：トーンダイヤル　ATDT 　1：パルスダイヤル　ATDP 4　予約 3　リザルトコード表示タイプ　0：数字で表示　ATV 　1：ASCIIで表示 2　リザルトコード　0：表示あり　ATQ 　1：表示なし 1　エコーバック　0：なし　ATE 　1：あり 0　＆検出／未検出　0：未検出　AT& 　1：検出	ビットマップ	42

レジスタNo.	内　容	設定範囲	デフォルト
S15	bit　機　能　内　容　関連コマンド 7　ブレーク信号送出　0：しない　AT¥B 1：する 6　予約 5　データ圧縮　0：しない　AT%C 1：する 4、3、2　ブレーク信号受信時動作　AT¥K 000：相手モデムに送信しない 001：相手モデムに送信後、データ破棄 010：相手モデムに送信しない 011：データを追い越して送信する 100：相手モデムに送信しない 101：データ順に送信する 1、0　モデムDTE間フロー　00：XON/XOFF　AT¥K 11：RS/CS	ビットマップ	35
S16	bit　機　能　内　容　関連コマンド 7　T検出／未検出　0：未検出　ATT 1：検出 6　予約 5　予約 4　リモートデジタルループバックテスト　0：ディセーブル　AT&T6 1：イネーブル 3　予約 2　ローカルデジタルループバックテスト　0：ディセーブル　AT&T7 1：イネーブル 1　A検出／未検出　0：未検出 1：検出 0　予約	ビットマップ	0

付

Appendix 付録

レジスターNo.	内　　容	設定範囲	デフォルト
S17	bit　機　能　内　容　関連コマンド 7　XON/XOFF　0：通過させない　AT¥K5 　1：通過させる 6　MNP通信リンク表示　0：しない　AT¥V 　1：する 5　予約 4　予約 3　予約 2　予約 1　予約 0　予約	ビットマップ	64
S18	bit　機　能　内　容　関連コマンド 7　予約 6　予約 5　予約 4　予約 3　予約 2　予約 1　予約 0　モデムフック状態　0：オンフック　ATH 　1：オフフック	ビットマップ	0
S19	bit　機　能　内　容　関連コマンド 7、6　MNPモード設定　00：非MNPモード　AT¥N 　01：非MNPモード 　10：MNPモード 　11：自動MNPモード 5　予約 4　予約	ビットマップ	195

レジスターNo.	内容	設定範囲	デフォルト
	3，2 相手モデム判定 AT¥C 00：相手モードの判定とデータ破棄 01：相手モードの判定とデータのバッファリング 10：フォールバック文字受信で通常モードになる 11：フォールバック文字受信で通常モードになり、データをバッファリング 1，0 MNP最大ブロックサイズ 00：64バイト 01：128バイト 10：192バイト 11：256バイト		
S20	予約	−	−
S21	bit 機能 内容 関連コマンド 7 予約 6 DRコントロール 0：DR信号常時ON AT&S 1：ITUに準拠 5 CDコントロール 0：CD信号常時ON AT&C 1：ITUに準拠 4，3 ERコントロール AT&D 00：無視する 01：ONからOFFでコマンドモード 10：ONからOFFでオンフックして、コマンドモード 11：ONからOFFでモデムをリセット 2 予約 1 %検出／未検出 0：未検出 AT% 1：検出 0 予約	ビットマップ	112

付

Appendix 付録

レジスターNo.	内　　容	設定範囲	デフォルト
S22	bit　機　能　　内　容　　関連コマンド 7　メイク／ブレイク率　0：39/61　AT&P 　　　1：33/67 6　リザルトコード　　ATX 　　　0：接続時に通信速度を表示しない 　　　1：接続時に通信速度を表示する 5　ビジー信号検出　0：検出しない　ATX 　　　1：検出する 4　ダイヤルトーン信号検出　0：検出しない　ATX 　　　1：検出する 3、2　スピーカ制御　00：常時OFF　ATM 　　　01：キャリア検出までON 　　　10：常時ON 　　　11：ハンドシェーク中のみON 1　予約 0　予約	ビットマップ	244
S23	bit　機　能　　内　容　　関連コマンド 7　予約 6　予約 5　予約 4　予約 3　予約 2、1　通信スピード　00：予約 　　　01：予約 　　　10：予約 　　　11：予約 0　リモートデジタルループバックテスト　0：ディセーブル　AT&T5 　　　1：イネーブル　AT&T4	ビットマップ	22
S24	予約	－	－
S25	予約	－	－
S26	予約	－	－

レジスターNo.	内　　容	設定範囲	デフォルト
S27	bit　機　能　内　容　関連コマンド 7　予約 6　予約 5　パルスダイヤル速度　0：10PPS　ATP 　　　1：20PPS 4　予約 3　予約 2　予約 1　予約 0　予約	ビットマップ	32
S96	送出レベルの設定*1 10：−10dB 11：−11dB 12：−12dB 13：−13dB 14：−14dB 15：−15dB	10〜15	15

*1送出レベルの調整

内蔵モデムは、電話回線への信号の送出レベルを調整できます。
送出レベルは、出荷時には−15dBmにセットされていますが、使用する回線の線路損失L（電話局の交換設備から内蔵モデムまでの、1500Hzにおける損失）が大きく、支障をきたす場合には、損失に合わせて送出レベルを調整する必要があります。

- 電話回線へ内蔵モデムを接続する際には、事前に線路損失を確認の上、送出レベルを調整した後にご使用ください。
- 送出レベルの調整は、必ずアナログ第三種以上の資格を有する工事担任者が行ってください。

重要 内蔵モデムの設定は8ビット、ノンパリティーで固定になっています。

Palm Top PCから印刷するために

Palm Top PCでは、Windowsモデルを除いて、そのままでは印刷機能に必要なプログラムを組み込むことはできません。スマート・ピコ・フラッシュやPCカード（ATAカード）を別途準備し、この中に標準DOS構成をインストールする必要があります。DOSのインストール時に、使用するプリンターの種類を選んでください。一度インストールしたプリンターの種類を変更するには、SETUPV.EXEをお使いください。

プリンターの種類によっては、プリンターに付属しているプログラムが必要な場合があります。詳しくは、プリンターに付属のマニュアルをお読みください。

Windowsをお使いの場合にも、使用するプリンター用のドライバーを組み込む必要があります。Windowsを起動し、「メイン」グループの中の「コントロール パネル」アイコンをダブルクリックしてください。その中の「プリンタ」アイコンをダブルクリックすると、プリンターの設定メニューが表示されます。Windowsで準備されているドライバー、または使用するプリンターに付属のドライバーを組み込んでください。詳しくは、Windowsのマニュアルまたはプリンターのマニュアルをお読みください。

メモリー構成

Palm Top PCでは、メモリー空間のうち、C0000h〜C8FFFh番地をビデオBIOSが占めているため、C9000h〜EFFFFh番地の領域をUMBとして使用できます。ただし、この間には、

- ●8KB領域のFONT ROM
- ●最低4KBのPlayAtWill用ウインドウ・エリア

を準備しておく必要があります。

これらの設定は、CONFIG.SYS中のEMM386文とRMUDOSAT.SYS文で行います。一例として、次のようにパラメーターを設定し、FONT ROMのアドレスをDE000hに設定すると、もっとも効率よくUMBを利用することができます。

```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM I=C900-DCFF X=DD00-DFFF
                                              FRAME=E000
DEVICE=C:¥EZPLAY¥RMUDOSAT.SYS /IX=5,10 /MA=DD00-DDFF
```

PCカードによっては、より広いウインドウ・エリアを必要とする場合があります。その場合は、「DD00」をより前のアドレスに変更して、広いエリアを設定してください。たとえば、DD00をD900にすれば20KBのウインドウ・エリアを取得できます。

出荷時には上記の記述に沿った設定になっています。DOSを起動しても日本語が表示されないときは、フォントROMのアドレスが「DE00」になっているか確認してください。また、DOSやWindowsをインストールした場合には、EMM386.EXEの設定（オプション・パラメーター）が変更されていることがあります。そのときには、上記の例と「システム・インストール・ディスケット」の中のREADME.1STファイルに記述されている内容を参考にして、CONFIG.SYSの内容を修正してください。

コネクターのピン割り当て

コネクターのピン番号と信号名

シリアル・コネクター

ピン番号	信号名
1	DataCarrier Detect
2	Receive Data
3	Transmit Data
4	Data Terminal Ready
5	Signal Ground
6	Data Set Ready
7	Request to Send
8	Clear to Send
9	Ring Indicate

補足 次の4つのシリアル・デバイスが使用可能です。

- ●内蔵ファックス・モデム
- ●PCMCIAモデム
- ●赤外線通信ポート
- ●RS232Cポート（ポート・リプリケーター経由）

このうち、赤外線通信ポートとRS232Cポートが、同時に使えない（Enableできない）場合を除いて、任意のデバイスにCOM1を、残りのデバイスのうち一つにCOM2をアサインすることができます。COM1にはI/Oアドレス3F8hとIRQ4が、COM2にはI/Oアドレス2F8hとIRQ3が自動的に設定されます。

パラレル・コネクター

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	-STROBE	14	-AUTO FD XT
2	Data Bit 0	15	-ERROR
3	Data Bit 1	16	-INIT
4	Data Bit 2	17	-SLCT IN
5	Data Bit 3	18	Ground
6	Data Bit 4	19	Ground
7	Data Bit 5	20	Ground
8	Data Bit 6	21	Ground
9	Data Bit 7	22	Ground
10	-ACK	23	Ground
11	BUSY	24	Ground
12	PE	25	Ground
13	SLCT		

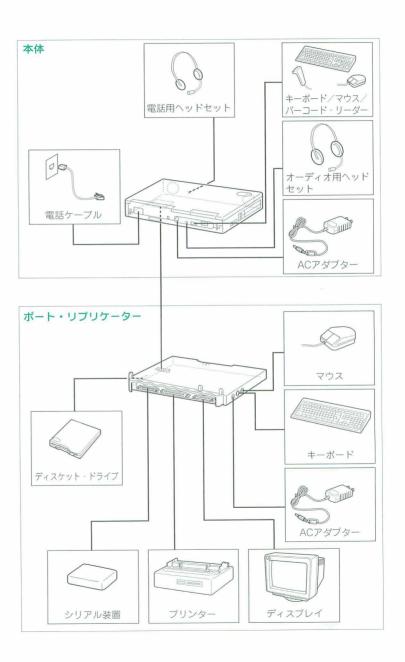
13 1
25 14

補足 パラレル・ポートは、ポート・リプリケーター経由で一つがLPT1として使用可能です。LPT1にはI/Oアドレスとして3BCh(Parallel 1)、378h(Parallel 2)、278h(Parallel 3)が設定可能です。IRQは、IRQ7(Parallel 1,2)、IRQ5(Parallel 3)が使用されます。

付

Appendix 付録

ケーブル配置

本体
電話用ヘッドセット
キーボード／マウス／
バーコード・リーダー
電話ケーブル
オーディオ用ヘッド
セット
ACアダプター
ポート・リプリケーター
マウス
キーボード
ディスケット・ドライブ
ACアダプター
シリアル装置
プリンター
ディスプレイ

製品仕様

製品名	Palm Top PC 110		
モデル	2431-YD0	2431-YD1	2431-YDW
プロセッサー	SL Enhanced Intel** 486SX（32ビット、33MHz）		
メイン・メモリー	4MB（標準装備）最大8MBに増設可	8MB	
メイン・ストレージ	4MB内蔵フラッシュ・メモリー・ドライブ（標準装備、交換不可）		
ビデオ・サブシステム	VGA/SVGA（外付けSVGAディスプレイで可能）（Chips & Technologies** 65535）RAM 512KB、フォントROM実装		
画面表示	LCD デュアルSTNカラー表示（最大256色表示）		
画面サイズ	4.7インチ		
表示解像度	640×480ドット（最大256色）/800×600ドット（最大16色）（外付けSVGAディスプレイで可能）		
表示文字数　全角文字	1000文字（40文字×25行、文字モード） 1200文字（40文字×30行、グラフィック・モード）		
半角文字	2000文字（80文字×25行、文字モード） 2400文字（80文字×30行、グラフィック・モード）		
文字フォント	8×12、8×16、8×19、16×16 24×24ドット（フォントROM実装）		
液晶インジケーター・パネル表示	モノクロTN全反射液晶表示		
キーボード	89キー・コンパクト・サイズ ＋ Fnキー		
ポインティング装置	ポインティング・ヘッド		
手書き入力装置	メモ・パッド		
オプション用スロット（ソケット）	・スマート・ピコ・フラッシュ用×1 ・PCカード用（JEIDA 4.2/PCMCIA 2.1 タイプI、II用×2、またはタイプIII用×1）		
インターフェース	・電話用ヘッドセット・ジャック ・Wing Jack（ファックス／モデム・ポート）（EIA-class2/2.0）（8ビット、Nonパリティー固定）（データ：2400bps,ファックス：9600bps（MAX））（公衆回線／アナログPBX構内回線（2線式）） ・オーディオ用ヘッドセット・ジャック ・キーボード／マウス・コネクター（専用アダプター用） ・赤外線通信ポート ・内蔵マイク、スピーカー ・拡張コネクター（ポート・リプリケーター用）		
その他の特長	オーディオ機能（モノラル） イージー・セットアップ、サスペンド／レジューム機能、機密保護機能、省電力機能		
付属品	電話ケーブル	電話ケーブル	電話ケーブル ポート・リプリケーター ディスケット・ドライブ PCカード・ハードディスク（DOS/V,Windows導入済み）
寸法（幅×奥行き×高さ）	158mm×113mm×33mm		
本体重量	約630g		約715g
電源	・ACアダプター　AC100V（50/60Hz） ・リチウムイオン二次電池		
使用条件　温度	5〜35℃（動作時）、5〜52℃（非動作時）（バッテリー・パック〜50℃）、（ディスケット・ドライブ10℃〜）		
湿度	8〜80%（動作／非動作時）		

特記事項

本書で言及されるIBM*製品、プログラム、またはサービスのなかには、日本で発表されていないものも含まれます。このことは、弊社がこれらのIBM製品、プログラム、またはサービスを、日本で発表する意図があることを示すものではありません。
本書で、IBM製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、当該製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラムまたはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらの製品、プログラム、またはサービスの評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。
本書で解説される主題についてIBMがその特許権（特許出願を含む）を所有していることがあります。本書は、これらの特許権について、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権に関する照会は、下記の宛先に、書面にて行ってください。

〒106　東京都港区六本木3丁目2－31
IBM AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

本書中、星印（*）の付いている以下の用語は、IBMコーポレーションの米国、その他の国における商標です。

IBM、Palm Top PC、Personaware、PlayAtWill

本書中、二重星印（**）の付いている以下の用語は、他社の商標です。

Chips & Technologies	Chips & Technologies, Inc.
Excel、Microsoft、Windows	Microsoft Corp.（米国）
Intel	Intel Corp.（米国）
Sound Blaster	Creative Technology Ltd.

五十音順索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

あ～お

か～こ

さ～そ

た～と

な～の

は～ほ

ま〜も

や〜よ

ら〜ろ

A-Z 数字